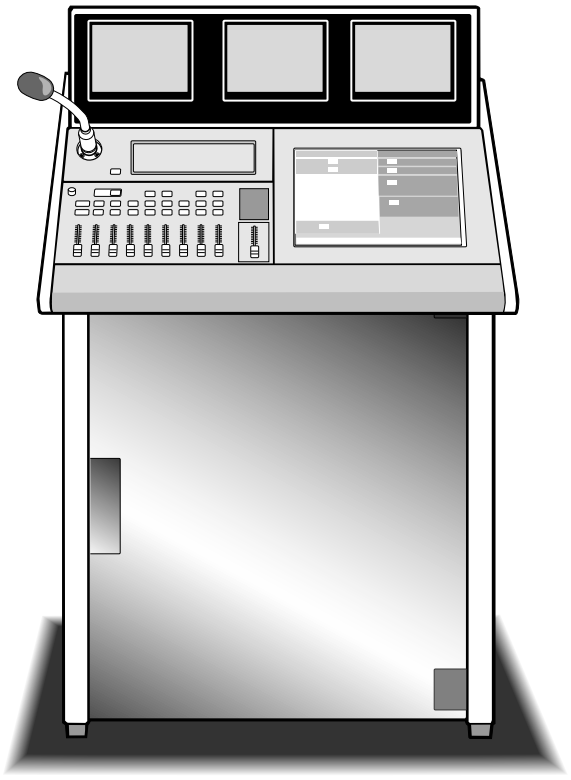
Victor
"HIS MASTER'S VOICE"

AVコミュニケーションシステム

型名 AV-7100シリーズ

設置説明書
（工事説明書）



お買い上げありがとうございます。
ご使用の前にこの「設置説明書」と別冊の「安全上のご注意」をお読みのうえ、正しくお使いください。
特に「安全上のご注意」は必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。
製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は本機に製造番号が正しく記されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかお確かめください。

LST0422-001B
3TR004519BAA

もくじ

システム構成
■基本構成.....5
■組み込める機器.....5
■その他のシリーズ機種.....5
■接続できる機器.....6
■接続や動作に必要な機器と設置上のご注意.....8
■AV−7100シリーズ添付物・付属品一覧.....11
■システム接続図.....13

設置の前に
■設置上のご注意.....14
■電源について.....14
■AVコミュニケーションシステム設置スペース.....14
■固定ワイヤーの取り付けかた.....16
■電源コンセントの配線.....18
■電源ノイズの対策.....19
■入出力端子とレベル・インピーダンス.....20

AMアンテナの設置工事について
■設置について.....21
■アンテナに対するノイズ対策.....22

工事の手順についてのフローチャート.....23

ラックマウントのしかた
■マウント可能なユニットの基本寸法.....24
■AVコミュニケーションシステム（AV−7100）収納部とサイドデスク（AV−7050）へのラックマウント.....24
■ラックマウントできる機器.....25

設置のしかた
■ラジオチューナーユニット（AV−7010）の取り付けかた.....26
■AVコミュニケーションシステムのディップスイッチ設定.....30
■リレーユニットAV−7030（スピーカーリレー）のアドレス設定.....31
■サイドデスク（AV−7050）の設置.....32
■棚板ユニット（AV−7051）の取り付けかた.....34
■ドアユニット（AV−7053）の取り付けかた.....35

接続のしかた
■コネクター、プラグの取り付けかた.....36
■VTR、DVD、CD、テープレコーダーなどの接続.....37
■ヘッドエンド出力、TVアンテナ、教室テレビの接続.....38
■カメラ、インターカム・タリーの接続.....39
■マスターモニター、スタジオモニターの接続.....40
■映像ミキサーの接続.....41
■音声機器の接続.....43
■報時チャイムの接続.....44
■リモートマイクロホン（PA−C50/C51/C52）の接続、予備制御の接続.....45
■マルチリモートマイクロホン（AV−7042）の接続.....46
■主電源ユニット（EM−P11）の接続.....47
■パワーアンプEM−Aシリーズの接続.....48
■リレーユニット（AV−7030）の設定.....49
■スピーカーリレー出力コネクターの信号名と最大許容出力.....51
■リレーユニットAV−7030、パワーアンプ、スピーカーの接続.....52
■束線のご注意.....54
■接続・配線の点検.....54

※ MS-DOSは、米国Microsoft社の登録商標です。
※ Windowsは米国Microsoft社の商標です。
※ 本書に記載されている他社商品名は、一般に各社の商標、または登録商標です。本書では™、®、©などのマークは記載してません。

非常用放送設備との接続[AV−7031]

設備工事の前に
■優先順位について.....55
■動作のしかた.....55
■スピーカー切換器の制御動作.....56
■スピーカー入力の一斉（R，K0）、
COMについて.....56
■非常放送系統表の作成.....57
内部設定
■通常（業務）放送の配線.....58
■内部ジャンパーの設定.....59
接続のしかた
■スピーカー入出力端子の接続.....60
収納のしかた.....61
接続例
■10回線スピーカー切換器を使って
非常用放送設備と接続した例.....62
動作確認
■スピーカー回線の絶縁耐力・絶縁抵抗試験.....64
記名シートの使いかた.....64

非常用放送設備との接続［AV−7031／7032］

接続のしかた
■通常（業務）放送の優先順位の変更.....65

非常用放送設備との接続[AV−7032]

設置工事の前に
■優先順位について.....66
■動作のしかた.....67
■スピーカー切換器の制御動作.....68
■スピーカー入力の一斉（R,K0）、
COMについて.....68
■非常放送系統表の作成.....69
内部設定
■通常（業務）放送の配線.....70
■内部ジャンパーの設定.....72
■スピーカー入出力端子の接続.....74
収納のしかた.....75
接続例
■30回線スピーカー切換器を使って
非常用放送設備と接続した例.....76
■30回線スピーカー切換器を使って
パワーアンプを共用する接続例.....78
動作確認
■スピーカー回線の絶縁耐力・絶縁抵抗試験.....80
記名シートの使いかた.....80

非常用放送設備との接続［PA−X13］

接続のしかた
■スピーカー切換器PA−X13の接続例.....81

ディップスイッチの設定と初期化

■AVコミュニケーションシステムの
ディップスイッチ設定.....82
■電源の確認.....82
■ディップスイッチ変更後の初期化.....83

オフライン機能

■オフライン機能の立ち上げ.....84
■オフライン機能の終了.....84
■リレー接続先の設定.....84
■リモコン優先順位の設定.....85
■ブロック放送の設定.....85

スピーカースイッチ配置のしかた

■スピーカースイッチ配置のフローチャート.....87
■スピーカーレイアウト変更の起動.....87
■システム情報の設定.....88
■標準←→自由配置への変更.....89
■初期状態へ戻るとき.....93
■スピーカーレイアウト変更の終了.....93

スイッチの名前の変更・環境設定

■スピーカースイッチの名称変更状態の
入りかた.....94
■スピーカースイッチの名称変更のしかた.....95
■スピーカースイッチの
名前を入れ換えるときの操作のしかた.....96
■拡張パターン・予備入力機器の
名称変更操作のしかた.....96

■名称変更・入れ換え状態の終了のしかた 98

映像放送CH設定の変更のしかた
■映像放送CH設定状態の入りかた 99
■映像放送CH設定・変更 99
■映像放送CH設定状態の終了のしかた.....100

設置時の調整
■チャイム放送の音量調整 101
■音声入出力の音量プリセット調整.....101
■映像モニター1～モニター3の明るさ調整.....102

動作の確認
■動作の確認 103
■スピーカリレーの動作 104

入力設定・変更
■ラジオ・予備入力・マイクロホンミキサー
（レピーター）などを放送、録音するとき 106
■音声ミキサーの設定.....107
■VTR2入力コネクターの切り換え.....107

音声・映像放送パターン操作の内容変更
■音声・映像放送パターン操作 108
■内容変更・登録のしかた 108
■新規設定登録のしかた 110
■入力設定内容について 110
■放送パターンデータの
バックアップについて 110

データ管理のしかた
■データ管理メニューの出しかた.....111
■データのバックアップ 111
■バックアップデータの復元.....112
■データの初期化.....113

故障の自己診断機能.....114

電子マニュアルの使いかた
■電子マニュアルの使いかた 115

設定記録シート 118

系統図 120
■映像系統図 120
■音声系統図 121

故障と思う前に 122
■音声系 122
■映像系 123

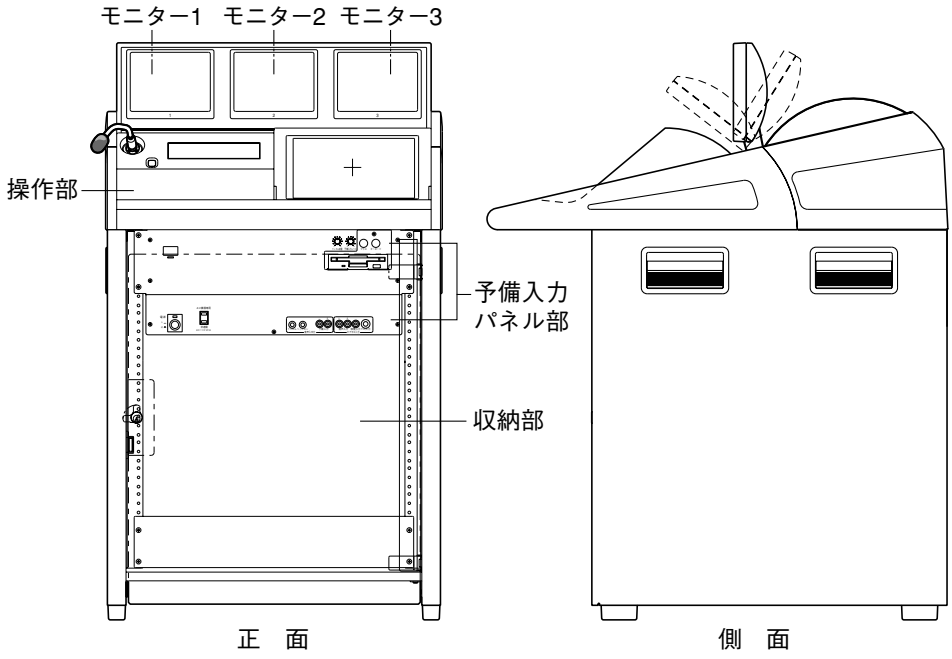
おもな仕様 124

保証とアフターサービスについて .....裏表紙

システム構成

■基本構成

AVコミュニケーションシステム　AV-7100（AV調整卓本体）・・・1



■組み込める機器

ラジオチューナーユニット　AV-7010・・・1

■その他のシリーズ機種

端子盤ユニット	AV-7020・・・スピーカー切換器を接続しない場合､または非常放送設備側にスピーカー切換器が設置されている場合に必要
リレーユニット	AV-7030・・・10回線以上、または3系統の場合に必要
10回線スピーカー切換器	AV-7031・・・非常放送設備とスピーカーを共用する場合に必要
30回線スピーカー切換器	AV-7032・・・非常放送設備とスピーカーを共用する場合に必要
マルチリモートマイクロホン	AV-7042・・・本体より離れた場所から放送する場合に必要、最大8台まで接続可
サイドデスク	AV-7050・・・周辺機器をラックマウント収納する場合に必要
棚板ユニット	AV-7051・・・ラックマウントできない機器をサイドデスクに収納する場合に必要（2枚一組）
ドアユニット	AV-7053・・・サイドデスクの収納部に用いる開閉式のドア

システム構成

■接続できる機器

●調整室に設置する機器

結線番号		品名	品番（仕様）	接続可能台数	線材/備考	接続図
②		モニタースピーカー	8Ω(6Ω以上)	2	スピーカーコード	P43
⑤		テープレコーダー(カセットデッキ)		1	単芯シールド線(ステレオ)	P37
⑥		CDプレーヤー		1	単芯シールド線(ステレオ)	P37
⑦		プログラムチャイム	PA-DT600など	1	単芯シールド線+ビニール線	P44
⑪		ワイヤレスチューナー	WT-892/894	1	単芯シールド線	P43
⑫		マイクロホンミキサー（レピーター）	PA-M30	1	2芯シールド線	P43
⑬		AUX 1～3(音声予備1～3)	テープレコーダーなど	3	単芯シールド線(ステレオ)	P37
⑭		カメラ4・書画カメラ	AV-P960など	2	同軸線(3C-2V)	P13
⑯		V-AUX1～4(映像予備1～4)		4	同軸線(3C-2V)+単芯シールド線	P37
⑰	A	VTR1 (映像、音声入出力) VTR2 (映像、音声入力) VTR3 (映像、音声入出力)	VTR 2 は再生専用	3	同軸線(3C-2V)+単芯シールド線(ステレオ)	P37
	B	VTR1 (YC入出力) VTR2 (YC入力) VTR3 (YC入出力)	VTR 2 は再生専用 （S-VHS仕様）		YC分離ケーブル(S-ビデオケーブル)	P37
⑱		DVD	音声はAUX入力を利用	1	同軸線(3C-2V)+単芯シールド線(ステレオ)	P37
⑲		VTR2 (前面端子)	VTR2は前面、背面（後面）どちらか切り換えて使用	1	同軸線(3C-2V)+単芯シールド線(ステレオ) YC分離ケーブル(S-ビデオケーブル)	P37
㉑		ラインモニター		3	同軸線(3C-2V)	P38
㉗		マスターモニター		1	同軸線(3C-2V)+単芯シールド線	P40
㉘		ヘッドエンド		1	同軸線(3C-2V)+単芯シールド線	P38
㉙		TVアンテナ信号入力分配器		1	同軸線	P38
㉚		VTR3 YCモニター	S-VHS仕様	1	YC分離ケーブル(S-ビデオケーブル)	P40
㉖		カメラ1～3リモートコントロールユニット（RCU）		3	同軸線(3C-2V)　S-ビデオケーブル(カメラ1台のみ)	P39
㉖		インターカム・タリー	カメラ1、カメラ2、カメラ3	3	3芯ケーブル	P39
⑳		インターカムヘッドセット	MT-12MFB	1	アシダ音響株式会社	P39
		BSチューナー		1	同軸線	P38
		RFコンバーター(BS混合用)		1	同軸線	P38
		ヘッドホン	ステレオ用　8Ω	1		P20
		端子盤ユニット	AV-7020	1	非常用放送設備と接続しないときなど	P53
		パワーアンプ	EM-Aシリーズ		最大360W	P48
		リレーユニット	AV-7030	6以下		P53

結線番号はシステム接続図（P13）および、各接続図に表示された結線番号に対応しています。

●スタジオに設置する機器

結線番号	品名	品番（仕様）	接続可能台数	線材/備考	接続図
①	スタジオスピーカー	8Ω(6Ω以上)	1	スピーカーコード	P43
③	マイクロホン		3	2芯シールド線	P43
⑮	カメラ1～3		3	ケーブル	P39
㉒	スタジオモニターテレビ		1	同軸線(3C-2V)+単芯シールド線	P40
	ワイヤレスアンテナ	WT-Q830など	2～4	同軸線	P43
	ワイヤレスマイクロホン	WM-P760など			
	インターカムヘッドセット	MT-12MFB	3	アシダ音響株式会社	P39

●教室その他に設置する機器

結線番号	品名	品番（仕様）	接続可能台数	線材/備考	接続図
⑨	リモートマイクロホン(リモコンマイク)	PA-C50/C51/C52	1	単芯シールド線+CPEV(対より)ケーブル	P45
⑩	マルチリモートマイクロホン(マルチリモコンマイク)	AV-7042	8	2芯シールド線+CPEV(対より)ケーブル	P46
㉔	アンテナ(TV用)		1	同軸線	P38
㉕	アンテナ(FM用)		1	同軸線	P13
㉕	アンテナ(AM用)	FM混合分配器付のもの	1	同軸線	P13
㉔	アンテナ(BS用)		1	同軸線	P38
㉓	教室用テレビ			同軸線	P38
㉛	教室用スピーカー	ハイインピーダンス型		耐熱電線(非常放送共用のとき)	
	アッテネーター			耐熱電線(非常放送共用のとき)	

●非常用放送設備と接続するときの機器、工事部品

	品名	品番（仕様）	接続可能台数	線材/備考	接続図
	10回線スピーカー切換器	AV-7031 （通常10回線、非常10回線）	合計 最大70回線分	パワーアンプを非常用放送設備と共用しない場合	P63 P76
	30回線スピーカー切換器	AV-7032 （通常30回線、非常30回線）			
			1台	パワーアンプを非常用放送設備と共用する場合	P78

システム構成

■ 接続や動作に必要な機器と設置上のご注意

●リレーユニット：AV-7030

- ●AV-7100本体には1系統10回線分のスピーカーリレーを内蔵しています。
- ●ユニット内部でスピーカー回線を分割することはできません。
- ●1系統11回線以上、または3系統とするときは、リレーユニットAV-7030の増設が必要です。
- ●AV-7100およびAV-7030の「スピーカーリレー入力（パワーアンプ入力）」は、最大360 Wです。
  1系統10回線で360 Wを超える場合は、リレーユニットを増設してスピーカー回線を分割してください。
- ●1回線あたりの最大出力は120 Wです。（ただし、合計で360 Wを超えないようにご注意ください。）
- ●AV-7030は1台10回線単位で、最大6台まで増設できます。

1系統の場合	最大70回線まで
3系統の場合	各系統10回線単位で、各系統の合計が最大70回線まで

- ●リレーユニットを増設した場合には、下記の設定を必ず行なってください。
  AV-7100のディップスイッチSW2-2～SW2-4 ・・・（30ページ参照）
  AV-7030リレーユニットのアドレス設定 ・・・・・・（31ページ参照）
  システム情報の設定・・・・・・・・・・・・・・・・（87～88ページ参照）
  オフライン機能の「リレー接続先設定」・・・・・・・（84ページ参照）
- ●操作モニターに表示される操作画面は、設定により1系統または3系統のどちらかです。2系統の場合は、3系統に設定をして、リレーユニットを1系統と2系統のみに設定してください。

●パワーアンプ：EM-Aシリーズ

- ●パワーアンプはサイドデスクに組み込んでご使用ください。AV-7100本体収納部には絶対に収納しないでください。
- ●並列運転接続の可能台数は下記のとおりです。

同一機種 ・・・3台まで
異機種混合 ・・2機種3台まで

ただし、EM-A083／A163／A244／A364と、EM-A243／A363の組み合わせはできません。
また、スピーカーリレー入力端子の制限により、合計出力360 Wを超える並列運転はできません。

定格出力	品番	高さ寸法
80 W	EM-A083	3U
160 W	EM-A163	3U
240 W	EM-A244	4U
360 W	EM-A364	4U
240 W（省電力型）	EM-A243	3U
360 W（省電力型）	EM-A363	3U

- ●パワーアンプEM-Aシリーズを複数台接続する場合は、全てのパワーアンプ間をCN-C7ケーブルで接続します。

●端子盤ユニット：AV-7020

●AV-7100本体には、スピーカー接続用端子盤はありません。
下記の場合にはAV-7020が1台必要となります。

- スピーカー切換器を接続しないとき
- 非常用放送設備側にスピーカー切換器が設置されているとき

●モニタースピーカーおよびスタジオスピーカー

AV-7100のモニタースピーカーおよびスタジオスピーカー端子の定格負荷インピーダンスは「8 Ω」ですが、6Ω以上のスピーカーがご使用できます。
ハイインピーダンスライン用のスピーカーは接続できません。

●（報時）チャイムリモコンについて

●チャイム起動時、AV-7100システムが放送可能な状態となるまで約5秒かかります。
●デジタルプログラムチャイムPA-DT600を使用する場合には、「チャイム連動時間設定」を「10秒」に設定してください。
●4曲電子チャイムPA-W53を使用する場合には、プログラムタイマーから5秒前に起動するようにタイマーのプログラムをしてください。
●報時チャイムと一般放送が重なった場合の音声ミキシング状態について下記の設定ができます。
設定方法など、詳しいことは、30、42、85ページをご参照ください

- チャイム優先放送カット：一般放送の音声は聞こえません
- 等レベルミキシング：同じ音量でミキシングされます
- チャイム優先放送ダウン：一般放送の音声は小さく（約20 dBダウン）なります

●リモートマイクロホン（PA-C50／C51／C52）を接続する場合

●接続可能台数は1台のみです。
●放送先の制御は登録によりブロック放送（10ブロック）が可能です。
（オフライン機能で登録します。「ブロック放送の設定」85ページ参照）
●AV-7100のディップスイッチSW1-2を設定する必要があります。（30ページ参照）
●2個所以上からリモコンを使用する場合には、マルチリモートマイクロホンAV-7042（最大8台接続可能）を使用してください。

●書画カメラを使用する場合

●AV-7100端子部の「OHC」端子に接続します。操作モニター上のアイコンの名称は「書画カメラ」となります。
●テロップ用カメラは書画カメラと共用できます。AV-7100端子部の「OHC」端子に接続した機器をテロップカメラとして使用できます。
●テロップ用カメラとして使用する場合でも外部同期（ゲンロック）をかける必要はありません。

システム構成

●非常用放送設備と接続する場合

■ スピーカー回線を独立にする場合

非常用放送設備からの非常放送時に、通常放送の音声を遮断する必要があります。電源遮断ユニット RB-1C を使用して、AV-7100本体またはパワーアンプのAC100Vを遮断できるように接続をしてください。
詳しくは、RB-1Cの取扱説明書をご覧ください。

■ スピーカー回線を共用する場合

スピーカー切換器を接続することにより、非常用放送設備のスピーカー回線を共用して放送することができます。

機種名	AV-7031	AV-7032	PA-X13
回線数	通常放送 10回線 非常放送 10回線	通常放送 30回線 非常放送 30回線	通常放送 10回線 非常放送 10回線
非常用放送設備からの通常放送	アッテネーター有効	アッテネーター有効	アッテネーター無効
通常放送の優先順位	AV-7100本体が優先（※1）	AV-7100本体が優先（※1）	接続により設定可能
スピーカー回線分割	5回線ごとに分割可能（※2）	5回線ごとに分割可能（※2）	5回線ごとに分割可能（※2）
設置方法	ラックマウント	ラックマウント	壁掛型のみ（※3）
接続可能台数	制限は特になし	制限は特になし	2台（※4）

※ 1：優先順位を変更する場合は別途リレー増設が必要です。 （65ページ参照）
※ 2：AV-7100本体（10回線）およびリレーユニットAV-7030（10回線）は回線分割できません。
※ 3：AV-7100本体収納部および、サイドデスクAV-7050にはラックマウントできません。
※ 4：制御用＋24Vの電流制限のためです。リモートマイクロホン（PA-C50／C51／C52）未接続時は5台（50回線）となります。

AV-7031に関して詳しいことは、55ページを参照してください。
AV-7032に関して詳しいことは、66ページを参照してください。
PA-X13に関して詳しいことは、PA-X13に添付の取扱説明書を参照してください。

■ パワーアンプとスピーカー回線を共用する場合

ラック型非常用放送設備と組み合わせる場合、30回線スピーカー切換器（AV-7032）を使用して、ラック型非常用放送装置に収納したパワーアンプおよびスピーカー回線を共用することができます。（67ページ参照）

●3系統の場合、スピーカー回線が非常用放送設備側に切り換わっている状態では、接続されているパワーアンプはすべて並列運転されることになります。前ページの並列運転時の組み合わせ制限を守るようにパワーアンプの機種を選定してください。

●その他の工事部品

部品名	品番	備考
ブランクパネル 1U ブランクパネル 2U ブランクパネル 3U	PA-U1 PA-U2 PA-U3	ユニット収納の空きスペースを覆うパネルです。
ベンチレートパネル 1U	PA-U1V	放熱効果を得たい場合のパネルです。
キーボード	ミニDINタイプ	画面をカスタマイズするときに必要です。
マウス	PS/2タイプ	

■AV-7100シリーズ 添付物・付属品一覧

機種名	品　名	数　量
AV-7100 AVコミュニケーション システム	取付ねじ（M5×10mm）	20
	音量指示マーク（6枚／シート）	3
	カギ	2
	アナウンスマイクロホン	1
	取扱説明書	1
	設置説明書（工事説明書）（本書）	1
	保証書	1
	ビクターサービス窓口案内	1
	安全上のご注意	1
	単頭フォンプラグ	6
	複式フォンプラグ	5
	DIN4 PINコネクター（タリー用）	3
	DIN5 PINコネクター（リレーユニット AV-7030用）	1
	DIN6 PINコネクター（チャイム制御用）	1
	ブランクパネル：2U（取付済）	1
	コードクランプ	9
	15芯ケーブル	1
	固定ワイヤ	2
AV-7010 ラジオチューナーユニット	保証書	1
	ビクターサービス窓口案内	1
AV-7020 端子盤ユニット	ラック取付ねじ（M5×12mm）	4
	保証書	1
	ビクターサービス窓口案内	1
AV-7030 リレーユニット	電源コード	1
	ラックアングル取付用ねじ（M4×10mm）	4
	外部制御用ケーブル	2
	15芯ケーブル	1
	端子カバー 長	1
	端子カバー 短	1
	カバー取付ねじ（M3×6mm）	4
	ラック取付ねじ（M5×12mm）	2
	ラックアングル	2
	保証書	1
	ビクターサービス窓口案内	1
AV-7031 10回線スピーカー 切換器	記名シート	1
	電源コード	1
	束線バンド	2
	側面板	2
	ラック取付ねじ（M5×12mm）	6
	側面板取付けねじ（M4×6mm）	6
	保証書	1
	ビクターサービス窓口案内	1
	※前面パネルは、工事し易いようにあらかじめ、はずして収納してあります。	

(次ページへ続く)

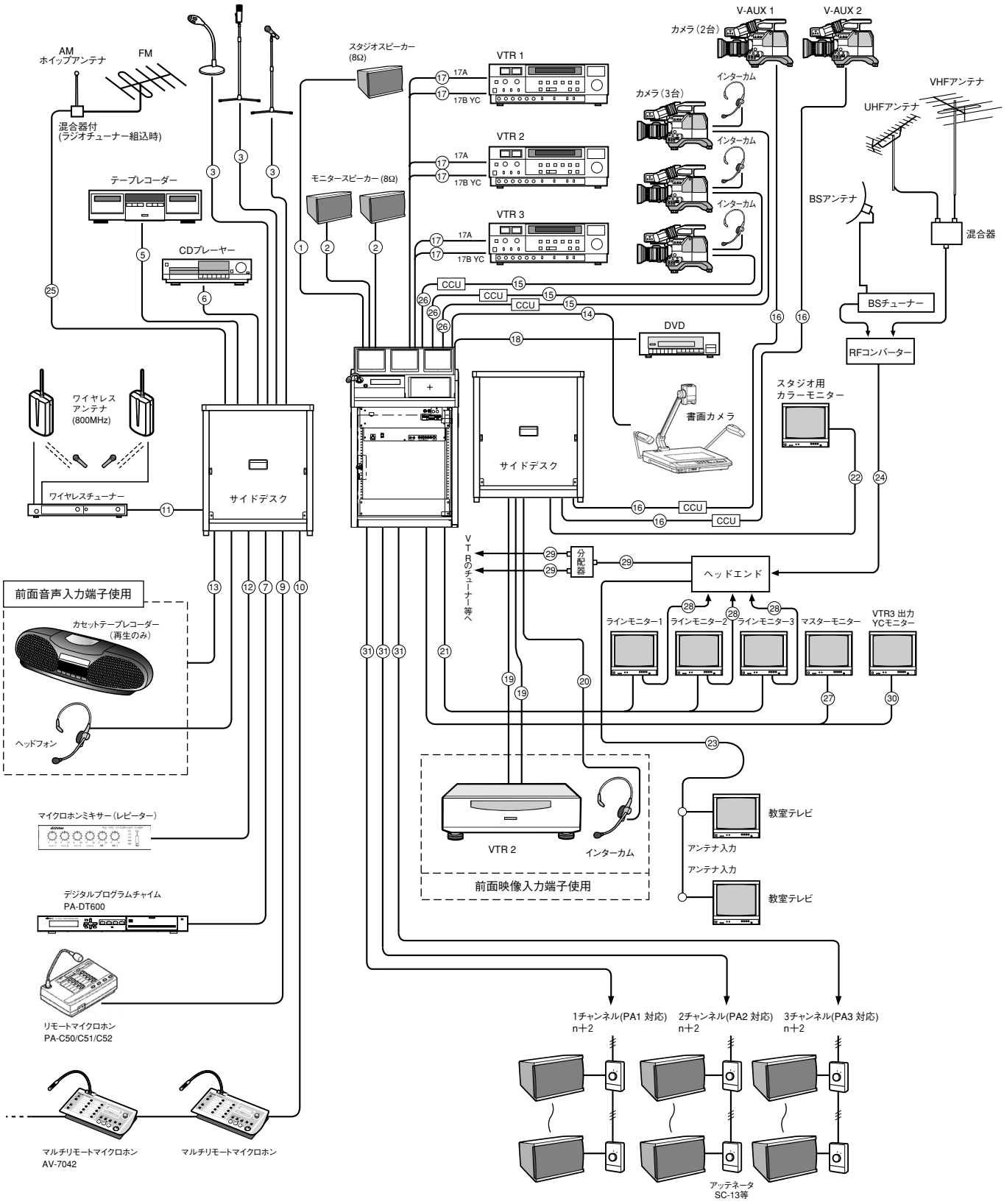
システム構成

■AV-7100シリーズ 添付物・付属品一覧

機種名	品　名	数　量
AV-7032 30回線スピーカー 切換器	記名シート	1
	電源コード	1
	2芯シールドケーブル	3
	束線バンド	4
	複式フォンプラグ	4
	側面板	2
	ラック取付ねじ（M5×12 mm）	6
	側面板取付けねじ（M4×6 mm）	6
	保証書	1
	ビクターサービス窓口案内	1
	※前面パネルは、工事し易いようにあらかじめ、はずして梱包してあります。	
AV-7042 マルチリモート マイクロホン	束線バンド	3
	取扱説明書	1
	安全上のご注意	1
	保証書	1
	ビクターサービス窓口案内	1
	風防（本体取付済）	―
AV-7050 サイドデスク	なし	
AV-7051 棚板ユニット	特殊ねじ	8
AV-7053 ドアユニット	マグネット	1
	取付金具	2
	カギ	2
	固定ねじ（M4×8 mm）	6
	連結ねじ（M4×8 mmブロンズメッキ）	2
	特殊ねじ	2

■システム接続図

注：各線の番号は6ページ～7ページの結線番号に対応しています。
本機の仕様については取扱説明書をお読みください。



設置の前に

■設置上のご注意

1. 工事は必ず販売店に依頼してください。
2. システムを確認し、構成機器や工事部品、線材、コネクターなどに欠品のないように準備をしてください。
3. 電源電圧はAC 100 Vです。構成機器の消費電力を合算し、電源容量が不足して電圧が下がらないよう、充分余裕をとって電源工事をしておいてください。
4. 工事の際は、各機器の電源スイッチを「切」にし、必ず電源プラグを抜いてから行なってください。
5. AVコミュニケーションシステムの配線・接続は床にピット(通線溝)を設置すると、きれいに仕上ります。
6. 本機の設置場所は直射日光の当るところや、温風吹出口近くは避けてください。周囲温度は0 ℃～+40 ℃、湿度は90%以下でお使いください。また、湿気、ほこり、振動の多い場所に設置すると故障の原因になります。

■電源について

本製品には本体1本、コンセントボックス2本、計3本の電源コードがあります。
電源コードは必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続してください。

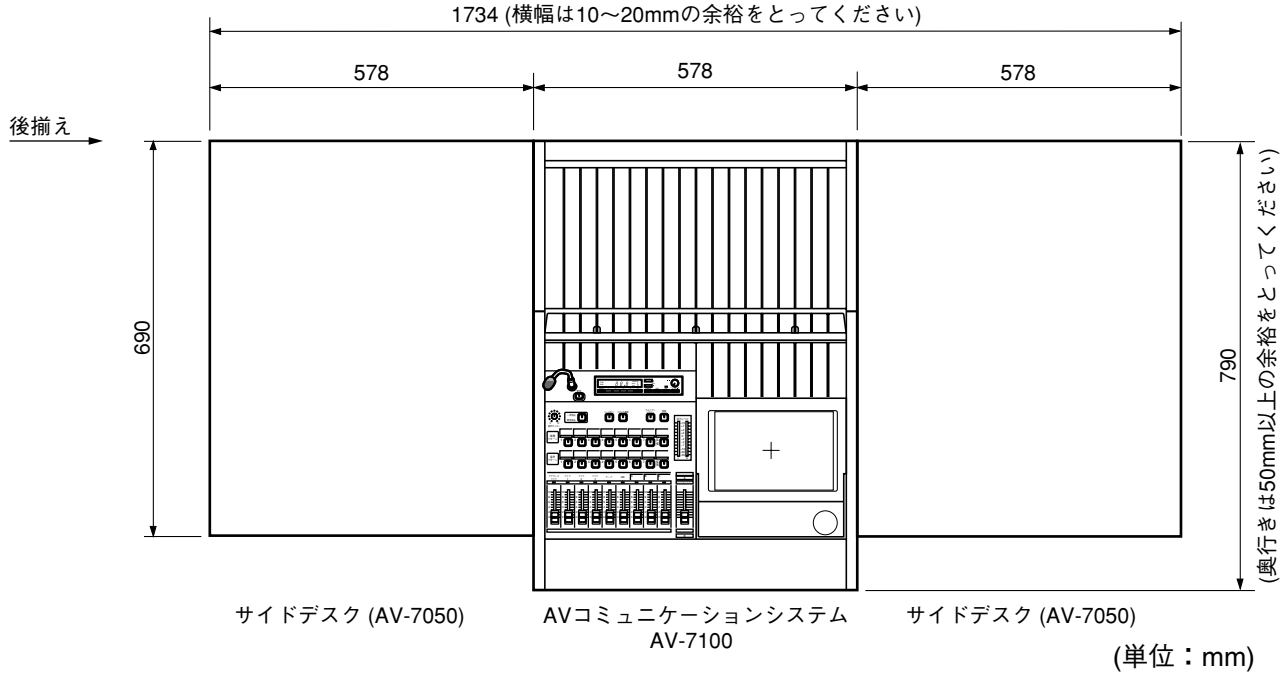
（1）電源コンセントの近くに設置し、遮断装置(電源プラグ)に容易に手が届くこと。

（2）接点距離が3.0mm以上有する分電盤のブレーカーに接続する。ブレーカーは保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。

■AVコミュニケーションシステム設置スペース

●設置スペース

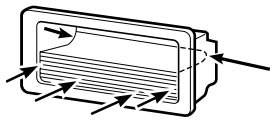
下図は、本機の両側に別売りのサイドデスク(AV-7050)を設置するときに必要となるスペースです。
壁から50 mm以上離して設置してください。

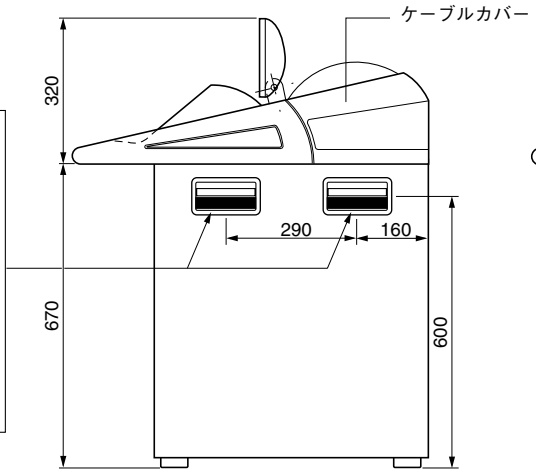


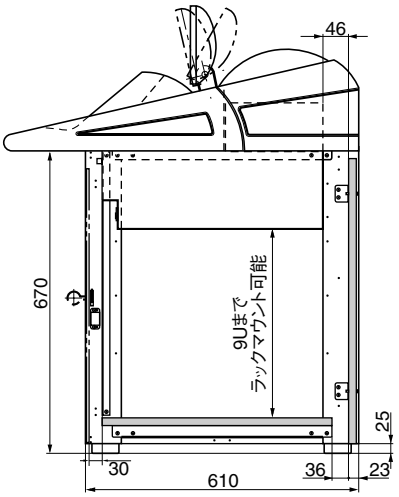
(単位：mm)

●通線孔の位置

通線孔
両側面に、通線孔を設けてあります。
通線するときは、つなぎ目(矢印)を
ナイフで切って孔を開けてください。







●電源コンセント、端子部の位置、コードクランプの取り付け

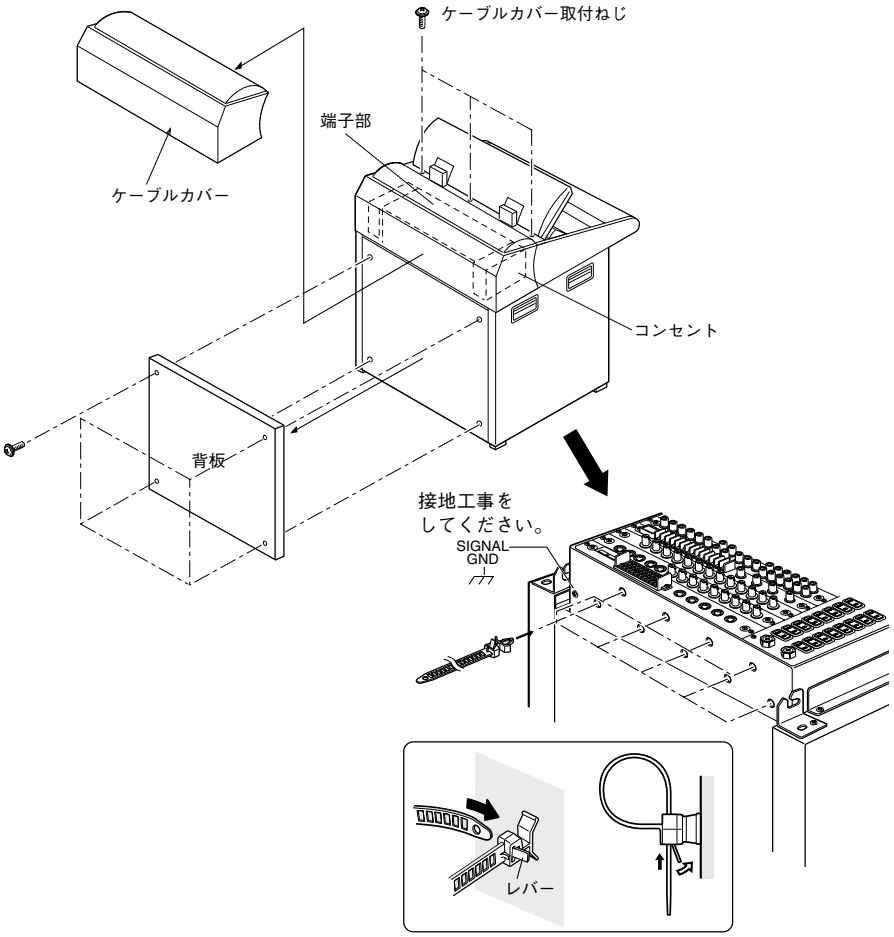
後ろ側のケーブルカバー内に電源コンセントおよび端子部があります。
図のようにケーブルカバーと背板を取り外します。

① ケーブルカバー取付ねじ3本をはずしケーブルカバーを取り外します。（1度うしろにずらし、上に持ち上げる）

② 背板取付ねじ4本をはずして背板を取り外します。

③ 端子部背面にある穴に付属のコードクランプを差し込みます（端子部の接続が完了したらコードをクランプします。また、レバーを動かすことでバンド部分をゆるめたりはずすことができます。）

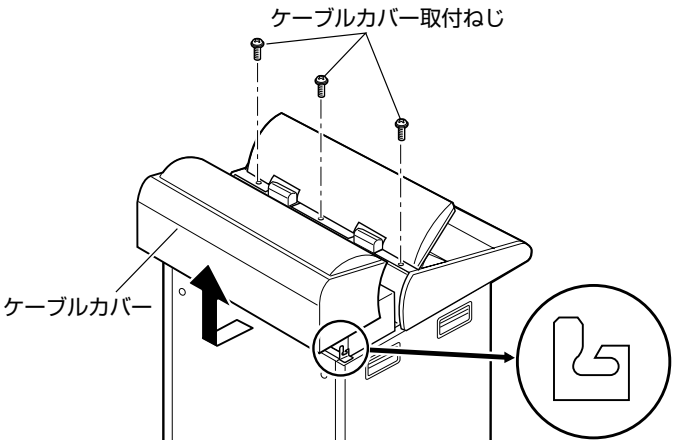
④ 接地工事を忘れずに行ってください。



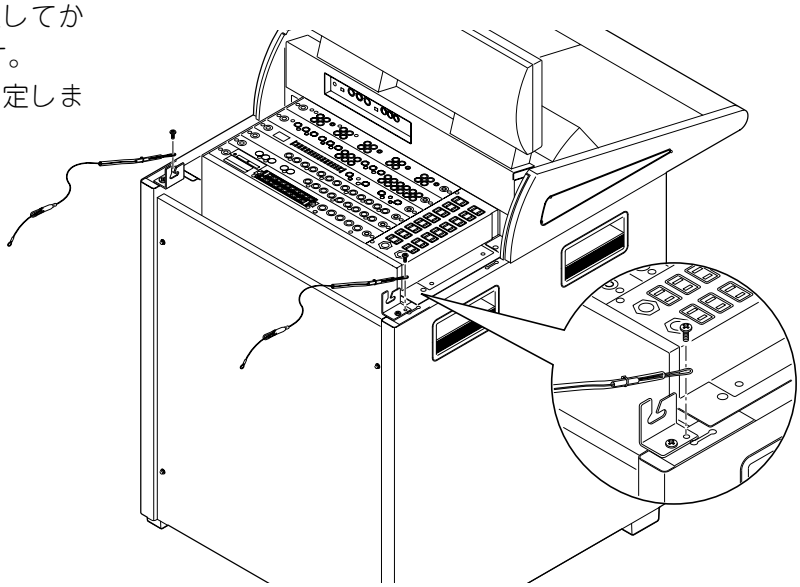
設置の前に

■固定ワイヤーの取り付けかた

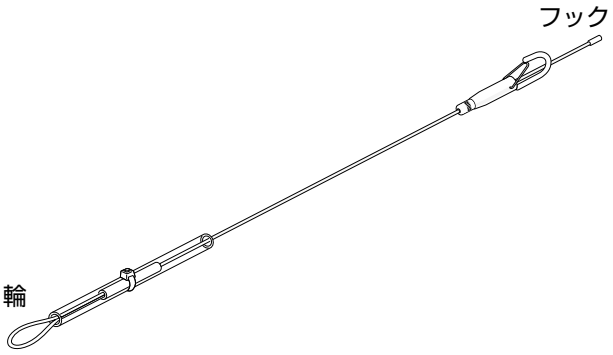
①ケーブルカバー取付ねじ3本を外し、ケーブルカバーを持ち上げて取り外します。
- ケーブルカバーは一度後ろにずらし、上に持ち上げると取り外せます。



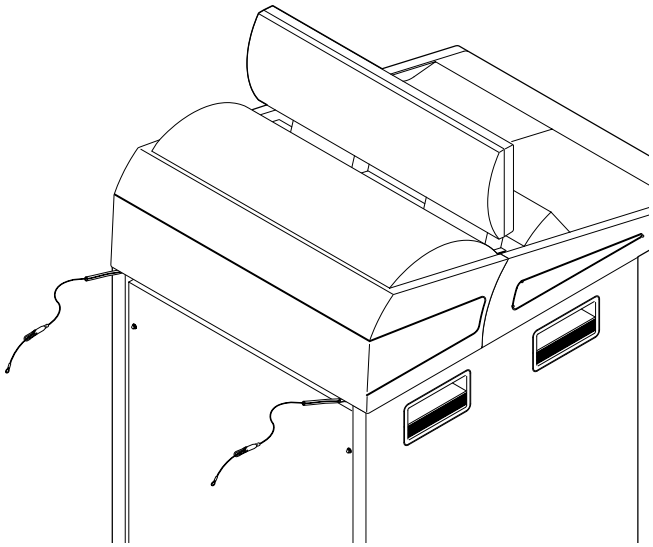
②図のねじをゆるめ、固定ワイヤーの輪を通してから、再度ねじを締め、ワイヤーを固定します。
- もう一方の固定ワイヤーも同じように固定します。



③2本の固定ワイヤーのフックを、取り付け場所に確実に取り付けます。

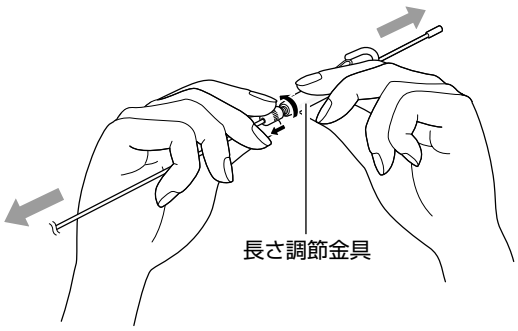


④手順①で外したケーブルカバーを取り付けます。



固定ワイヤーの長さの調整について

固定ワイヤーの長さ調整金具の先端部のキャップをゆるめ、矢印方向に押すとワイヤーの長さを調整できます。



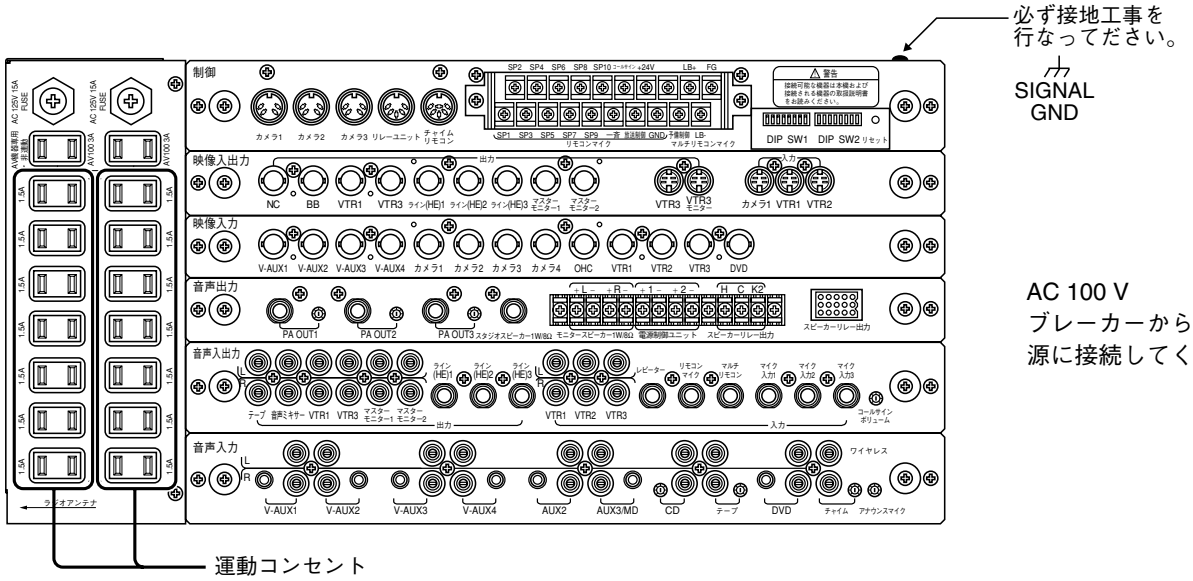
設置の前に

■電源コンセントの配線

●AVコミュニケーションシステムと連動させて電源を入／切させたい機器は、操作部うしろのケーブルカバー内にあるコンセントボックス(連動)から電源をとります。

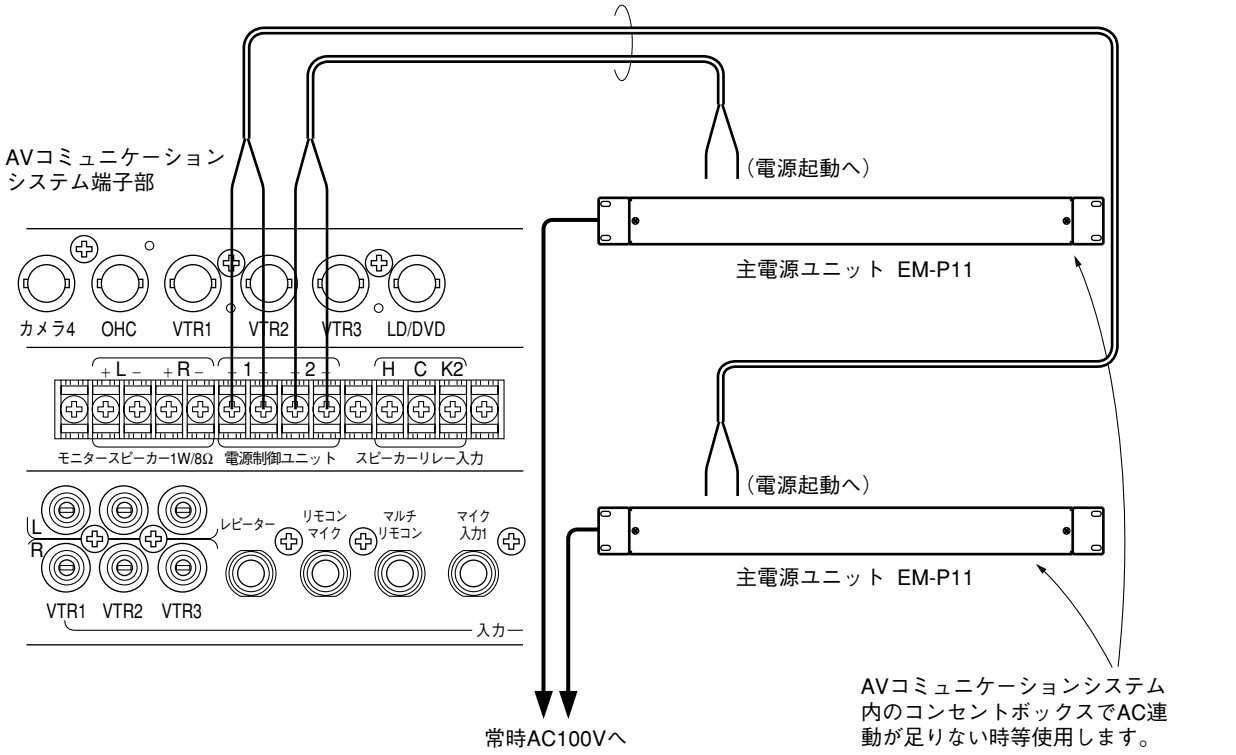
ご注意

運動コンセントは下図の囲みのとおり2系統に分かれています。
接続機器の消費電力が、各系統ごとに合計1050Wを超えないようにしてください。。



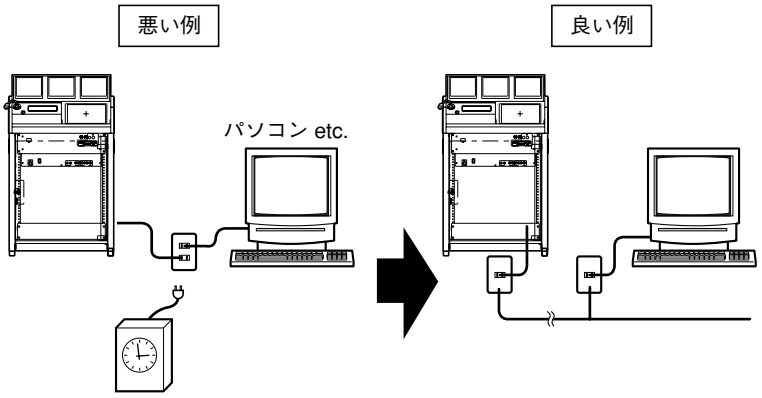
●連動コンセントが足りないとき

主電源ユニットEM-P11を別に増設してください。（47ページ参照）

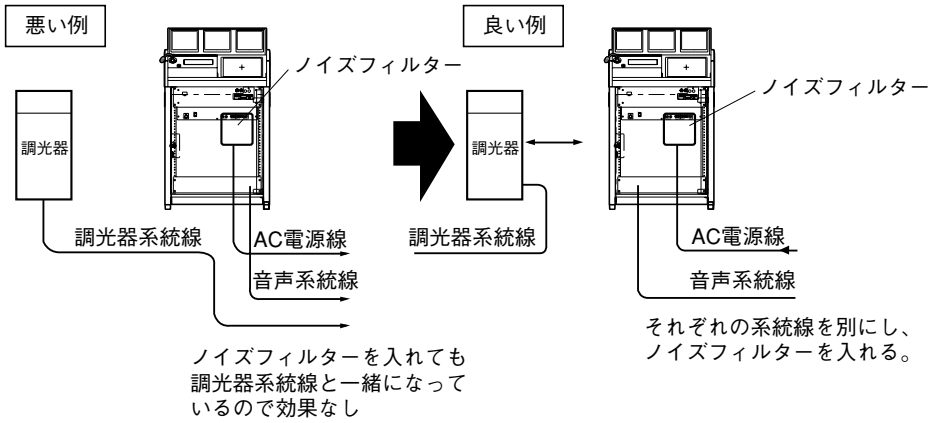


■電源ノイズの対策

●ノイズ源となるようなものに供給しているACコンセントからできる限り離れたACコンセントより供給する。



●AVコミュニケーションシステム本体へのAC電源線にノイズフィルターを接続する。



●ノイズフィルター紹介

デンセイ・ラムダ株式会社

MBS－1205－22（5 A）　パワーアンプの定格出力120 Wまで

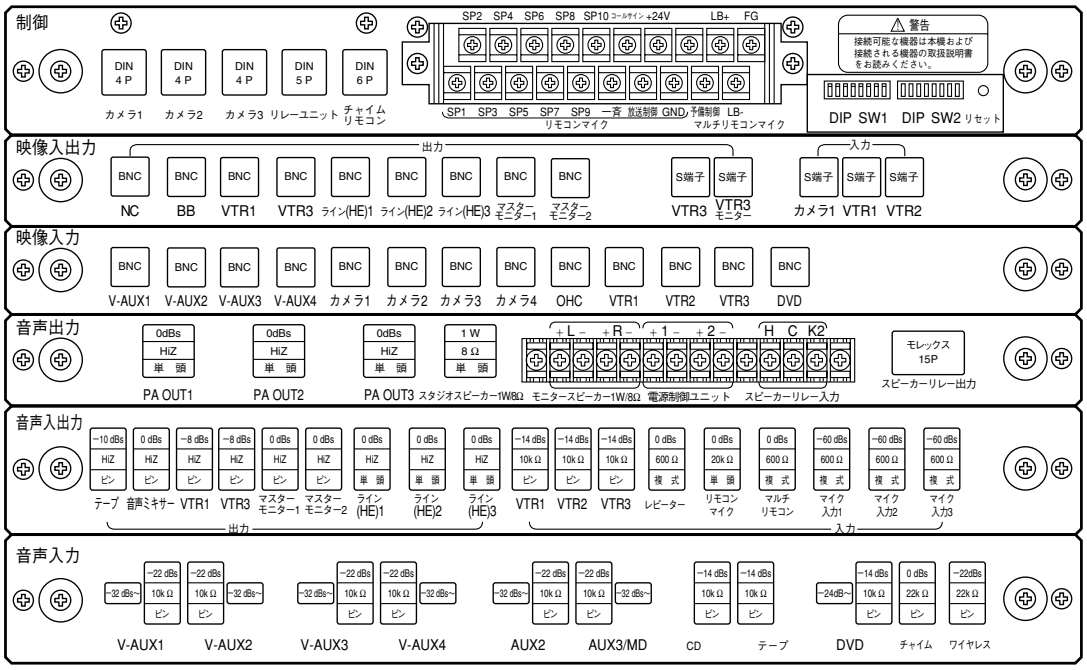
MBS－1210－22（10 A）　パワーアンプの定格出力120 W～360 Wまで

※接地アースを必ず接続してください。

設置の前に

■入出力端子とレベル・インピーダンス

●AVコミュニケーションシステム端子部（0 dBs＝0.775 V）



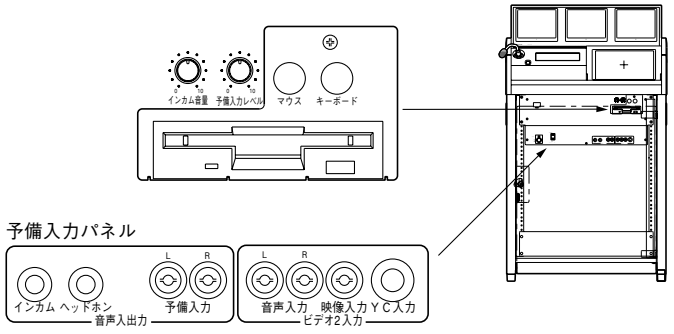
最大入力感度
（ボリューム付入力端子のみ）

凡例：−32dBs~ −22dBs 規格レベル / 10k Ω インピーダンス / ピン 端子形状

●予備入力パネル

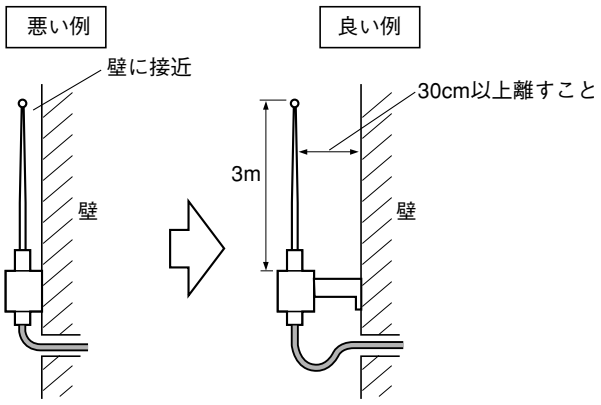
	入力端子名		レベル・インピーダンス	端子形状
パネル表面	予備入力※1		音声：−22 dBs、10 k Ω（最大入力感度-32 dBs）	ピンジャック(ステレオ)
	ヘッドホン		音声：3 mW、8 Ω	複式フォンジャック
	ビデオ2	音声入力	音声：−14 dBs、10 k Ω	ピンジャック(ステレオ)
		映像入力	映像：Y1.0 V(p-p)/75 Ω	ピンジャック
		YC入力	映像：Y1.0 V(p-p)/75 Ω C 0.286 V(p-p)/75 Ω	S端子
	インカム※1			複式フォンジャック

※1 予備入力パネル右上(FDDふたの上)に音量(レベル)つまみがあります。



AMアンテナの設置工事について

■設置について



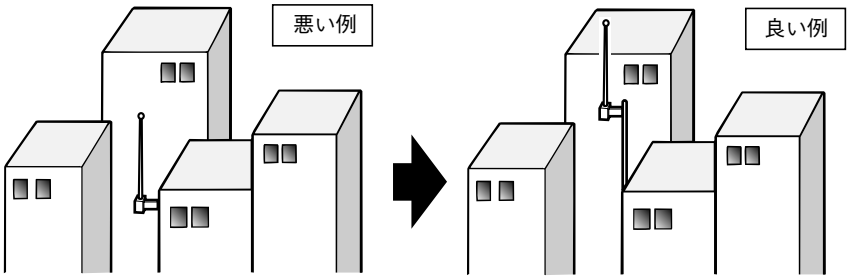
1. 室内等に設置の場合

●電波を遮へいする物(コンクリート壁など)からアンテナを30 cm以上離す。

●電波をかく乱するものを同一室内または近くに置かない。また、かく乱する物がある場所には設置しない。

2. 屋外に設置の場合

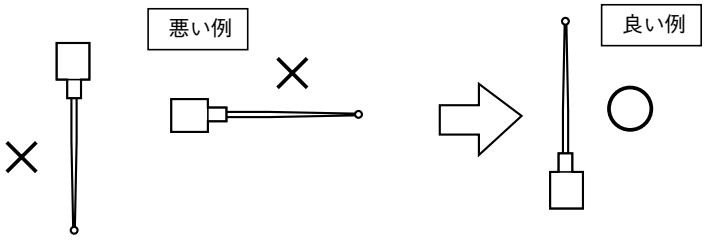
●周囲を高い建造物に囲まれている場合、アンテナを見通しのよい高い位置に設置する。



周囲を高い建物に囲まれている。　　アンテナを高い位置に取り付ける。

3. アンテナの向き

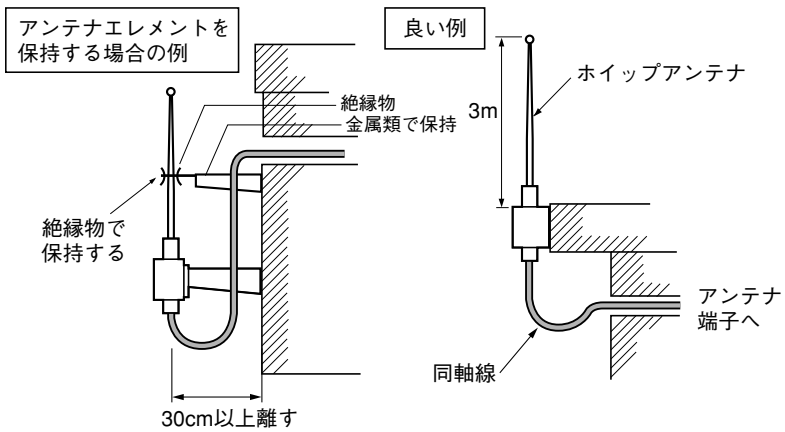
●エレメントを下方に向けたり、横に向けたりせず、垂直に設置する。



逆にむけたり、横にむけて取り付けない。　　まっすぐ垂直に取り付ける。

4. アンテナエレメントの保持

●屋内、屋外にかかわらず保持することは避ける。やむを得ず保持する場合は、保持する材質は絶縁物を使用する。

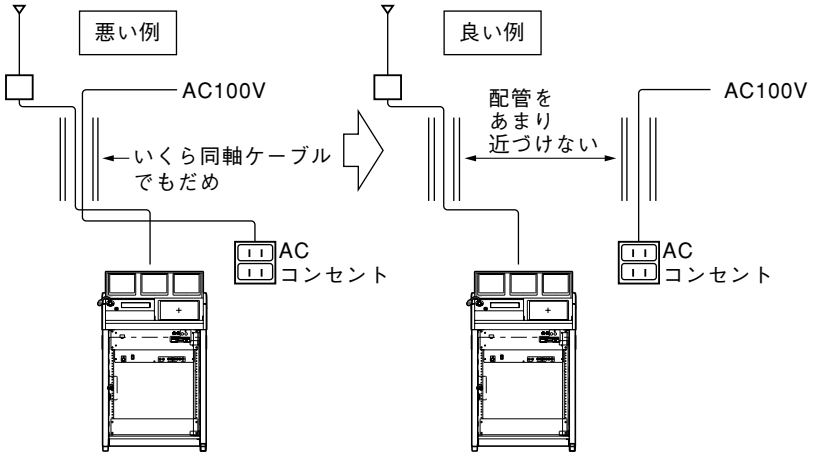


AMアンテナの設置工事について

■アンテナに対するノイズ対策

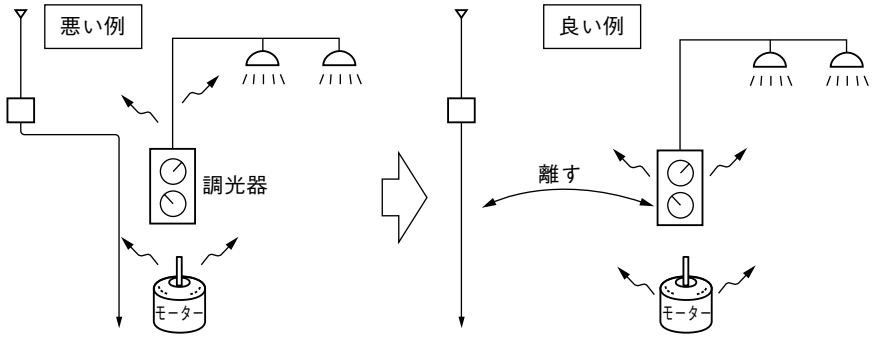
1. ケーブルの配管

●アンテナから同軸ケーブルで配線しても、ACラインとは同一配管しない。単独で配管する方が良い。



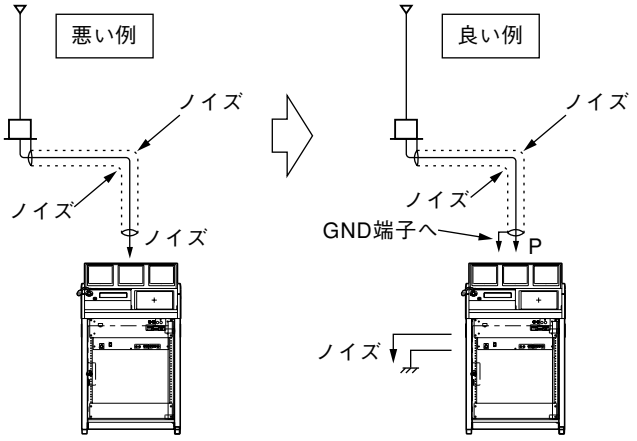
2. ケーブルの引き回し

●アンテナからのケーブルは同軸ケーブルを使用し、ノイズ源となるようなもののそばを通線しない。



3. 同軸ケーブルアースの接続

●AVコミュニケーションシステム本体のアース端子にシールド編組線を接続する。特に周囲のノイズが多い場合は必ず接続する。



工事の手順についてのフローチャート

工事スタート

↓

P5 ～12 構成機器及び工事部品のチェック

↓

P21 AMアンテナの設置環境チェック

↓

P14 ～19 設置位置と電源などのチェック

↓

P26 ～29 ラジオチューナーの取り付け（オプション）

↓

P32 ～35 サイドデスクの設置など

↓

P37 ～39 映像系とCD、カセットデッキの接続

↓

P40 モニター関連の接続

↓

P41 映像ミキサーの接続

↓

P43 音声機器（マイクロホン／モニタースピーカー等）の接続

↓

P44 ～45 チャイム、リモコンマイクの接続

↓

P46 マルチリモコンマイクの接続

↓

P48 ～53 リレーユニット、パワーアンプ、スピーカーの接続

↓

P55 ～81 非常用放送設備との接続

↓

P30 制御パネル右のディップスイッチの設定（機器構成に合わせて設定する）

↓

P82 電源の確認

↓

P83 初期化操作

↓

P84 オフライン機能を立ち上げる

↓

P84 リレー接続先の設定

↓

P85 リモコンの放送優先順位の設定

↓

P85 ～86 ブロック放送の設定

↓

P87 ～100 スピーカースイッチ配置、名称変更など

↓

P101 ～102 チャイム放送、音声入出力の音量調整と映像モニター1～3の明るさの調整

↓

P103 ～105 動作確認（機器を動かして音声､映像､制御を確認する）

↓

P108 ～110 音声放送パターンスイッチの設定、登録

↓

P108 ～110 映像放送パターンスイッチの設定、登録

↓

P111 ～112 総合チェック及びデーターのバックアップ

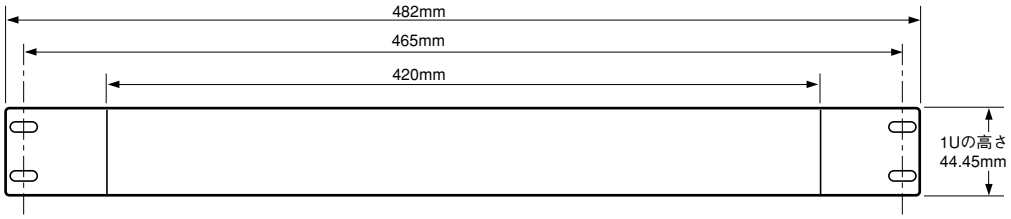
↓

工事終了

ラックマウントのしかた

■マウント可能なユニットの基本寸法

ユニットの取付ピッチはいずれも、幅465 mm、高さ44.45 mm(EIA規格)です。この44.45 mmを1Uとして、ラックに収納できる機器の高さや、収納容量を表しています。



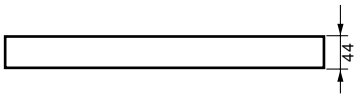
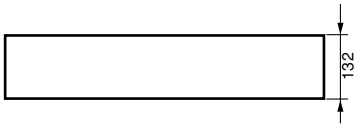
■AVコミュニケーションシステム（AV-7100）収納部とサイドデスク（AV-7050）へのラックマウント

●AVコミュニケーションシステム収納部には、9Uのユニットがラックマウント可能です。
●サイドデスクの収納部には、13Uのユニットがラックマウント可能です。
●ラック安定のため、パワーアンプなど、重量が重い機器の収納は、なるべく収納スペース下部で行なってください。
●パワーアンプ(最大360 Wまで)は、サイドデスクに取り付けてください。パワーアンプの上には必ずブランクパネル(1U)を取り付けてください。（EM-Aシリーズに付属の棚板は取り付けることはできません。）
●ワイヤレスチューナーとCCU(カメラコントロールユニット)はできるだけ離してマウントしてください。
●スピーカー線はアンテナやマイクなどの信号線とできるだけ離して配線してください。
●ラックマウントスペースが不足のときは、別途EIAラックまたはサイドデスクを設置してください。
●AVコミュニケーションシステム収納部、サイドデスクのラックマウントスペースに空きがあるときは、危険防止のため、必ずブランクパネルを取り付けてください。
●AVコミュニケーションシステム収納部には、ラックマウント金具の厚さを含めて20 mm以上のつまみ、ハンドルなどの突起があるユニットは収納できません。（扉が閉らなくなります。）
●サイドデスク（AV-7050）にパワーアンプEM-Aシリーズを収納する場合は、ドアユニット（AV-7053）は使用できません。

ご注意

リレーユニットAV-7030は、初めにアドレス設定(31ページ参照)をしてからマウントしてください。

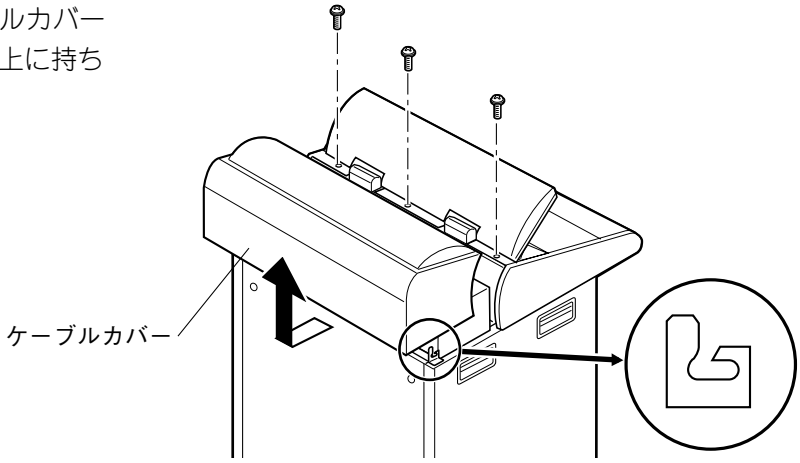
■ラックマウントできる機器

外観寸法図（高さ）	品　　名	型　　名	ラックアングル品番
(1U) 	リレーユニット	AV-7030	付属
	主電源ユニット	EM-P11	取付済
	ワイヤレスチューナー（2波）	WT-892-H	PA-U11
	ワイヤレスチューナー（4波）	WT-894-H	
	アンテナミキサー	WT-D88-H	
	4曲電子チャイム	PA-W53	
	プログラムチャイム	PA-DT600	
(3U) 	パワーアンプ 80W	EM-A083	取付済
	パワーアンプ 160W	EM-A163	
	パワーアンプ（省電力型）240W	EM-A243	
	パワーアンプ（省電力型）360W	EM-A363	
	端子盤ユニット	AV-7020	
(4U) 	パワーアンプ 240W	EM-A244	取付済
	パワーアンプ 360W	EM-A364	
	10回線リレーユニット	AV-7031	
	30回線リレーユニット	AV-7032	

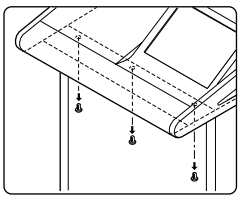
設置のしかた

■ラジオチューナーユニット（AV-7010）の取り付けかた

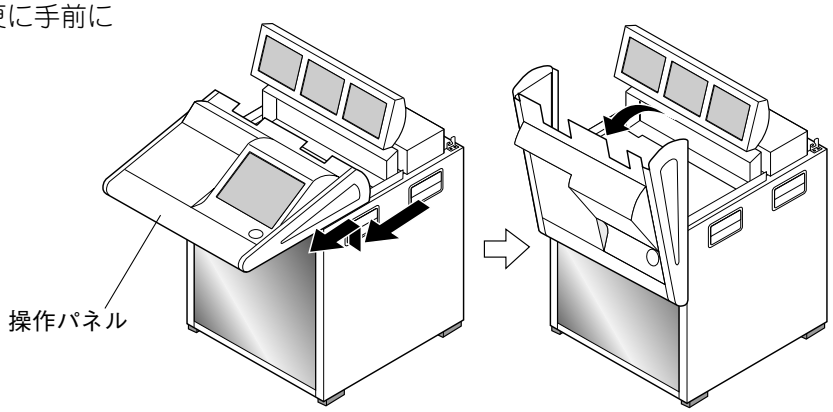
①ケーブルカバー取付ねじ3本を外しケーブルカバーを取り外します。（一度うしろにずらし、上に持ち上げる）



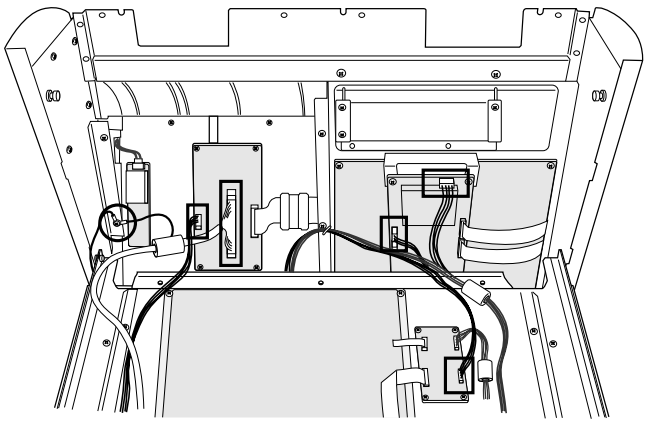
②操作パネル取付ねじ3本（手前裏にあるねじのうち一番奥側3本）をゆるめて手前にスライドさせます。



③操作パネルの手前を少し持ち上げて、更に手前に引き、操作パネルを手前に倒します。



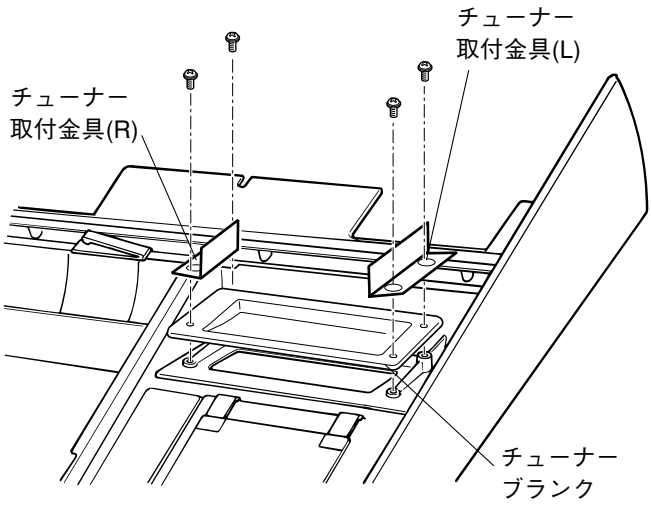
④接続してあるコネクターを外して、操作パネルと本体を切り離します。



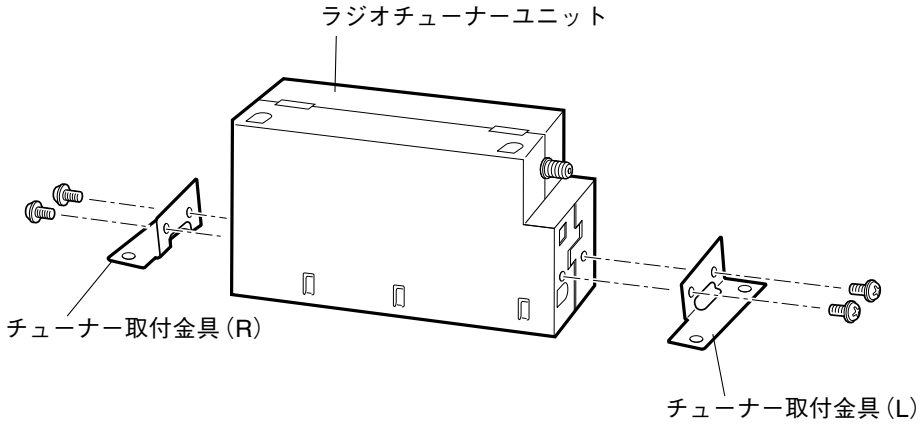
⑤操作パネル裏側のチューナーブランクパネル取付ねじ4本を外しチューナーブランクとチューナー取付金具（L／R）を外します。

ご注意

取付ねじを機器内部に落さないようご注意ください。



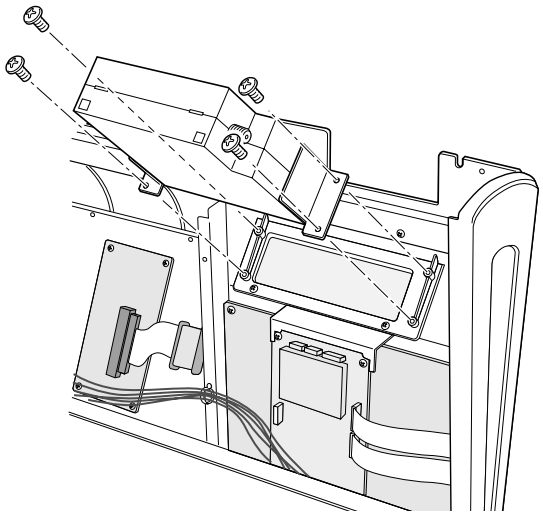
⑥ラジオチューナーユニットに付いている取付金具を⑤で外したチューナー取付金具（L／R）に付け換えます。



⑦ラジオチューナーユニットを⑤で外した取付ねじ4本で操作パネルに固定します。

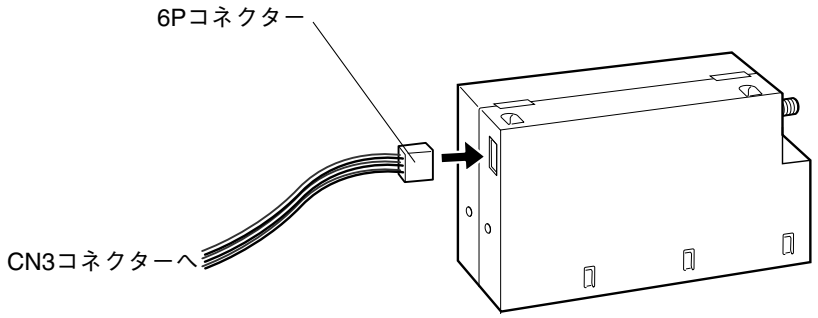
ご注意

取付ねじを機器内部に落さないようご注意ください。

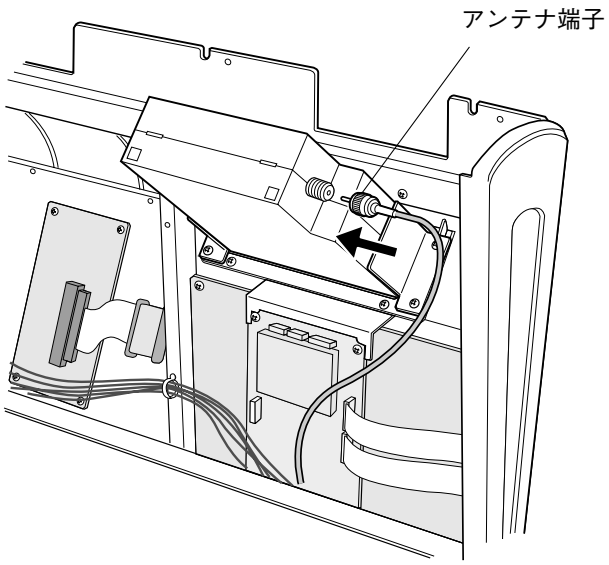


設置のしかた

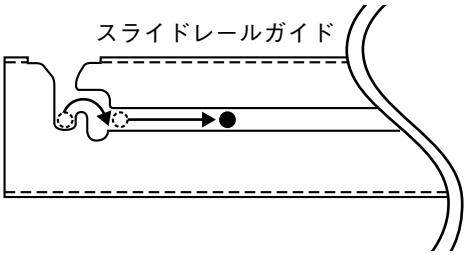
⑧マイクアンプ基板のCN3に取り付けられている6Pのコネクターをラジオチューナーユニットの CN401に接続します。

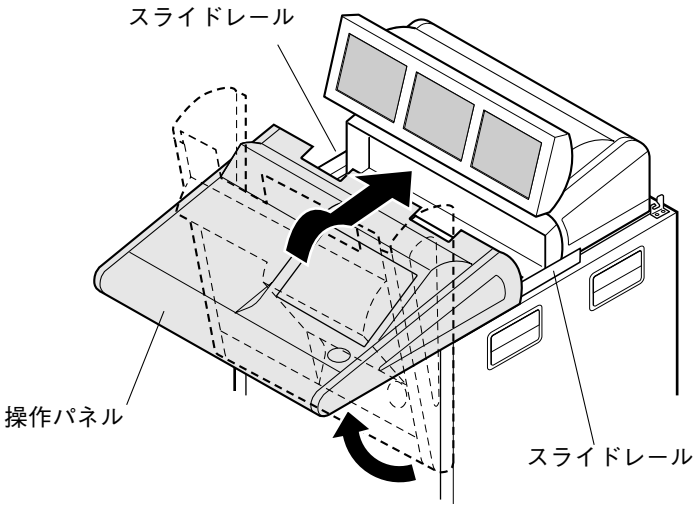


⑨他のワイヤーと一緒にクランプされているアンテナワイヤーを引き出しラジオチューナーユニットにアンテナ端子を接続します。外れないようナットを締めてください。



⑩操作パネルを水平になるようにゆっくり倒します。
スライドレールのガイドに合わせ操作パネルの手前を持ち上げ奥に押し込みます。その後②でゆるめたねじ3本をしっかりと締め付けて固定します。





ご注意

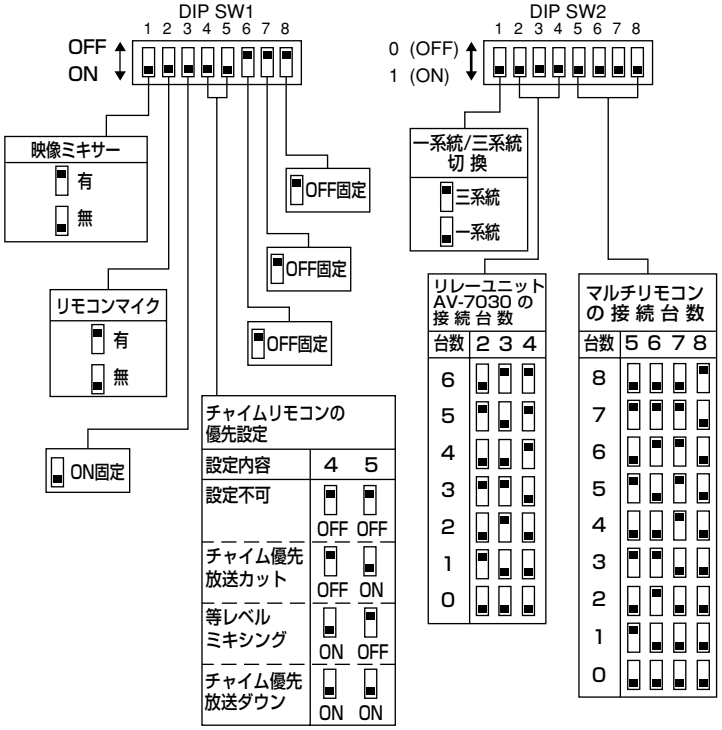
操作パネルを倒すときに内部のケーブル等をはさまないようご注意ください。

⑪操作パネルを外すときと逆の手順（②,①の順番）で、操作パネル、ケーブルカバーを元どおりに取り付けます。

設置のしかた

■AVコミュニケーションシステムのディップスイッチ設定

制御パネル右にあるディップスイッチを設定してください。
出荷時は下図のように設定されています。



特殊操作

初期化操作

操作部：

登録 ⇨ スタジオ連絡 ⇨ ラストワンメモリー ⇨ 電源SW

⇨(タッチパネル画面) ⇨ データー管理 ⇨ データーの初期化

制御部：

登録 ⇨ スタジオ連絡 ⇨ 一斉放送

※必ず両方の初期化を行なってください。

自己診断

登録 ⇨ スタジオ連絡 ⇨ 電源SW

オフライン設定

登録 ⇨ スタジオ連絡 ⇨ コールサイン ⇨ 電源SW

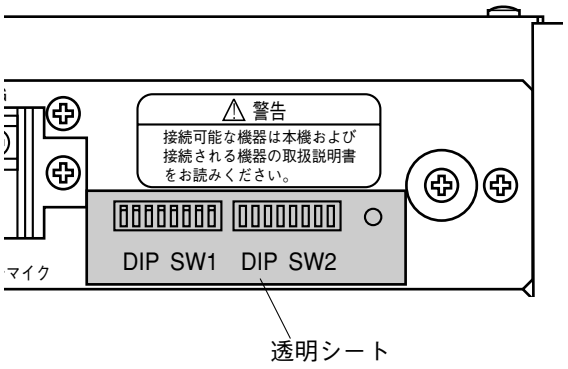
操作部自己診断

一斉放送 押しながら メイン電源SW オン

①主電源スイッチが「入」になっている場合は「切」にします。

②ディップスイッチの上に貼られている透明シートをはがします。

③ディップスイッチを設定した後、再び透明シートを元の位置に貼ります。（再度貼付可能です。）



ご注意

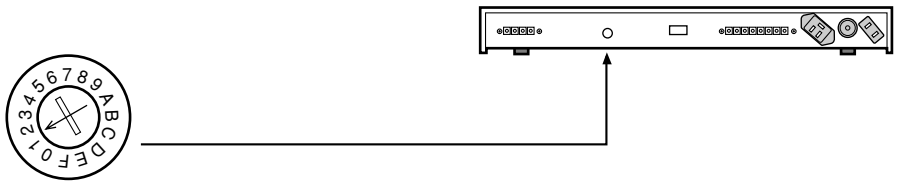
- スイッチ設定変更後は83ページの手順で必ず初期化の操作をしてください。
- チャイムリモコンのディップスイッチ設定（SW1 - 4, SW1 -5）の際は、85ページの「ご注意」を合わせてご覧ください。
- 映像ミキサー「有」に設定する場合は、ミキサー接続端子部のスライドスイッチも「有」に設定する必要があります。（41ページ参照）

■リレーユニットAV-7030(スピーカーリレー)のアドレス設定

●リレーユニットAV-7030は、出荷時に次のように割り当てられています。AVコミュニケーションシステムのディップスイッチ（SW2-2～SW2-4）で設定した数だけ、操作モニター画面に表示され、動作します。（割当て変更は本体のオフライン機能（84ページ参照）で行ないます。）
●お買い上げ時は次のように割り当てられています。

リレーユニット	アドレスNo.	1系統の場合	3系統の場合		
A	AVコミュニケーションシステム内蔵分	合計6台70回線	1 ch		
B	1			2 ch	
C	2				3 ch
D	3		1 ch		
E	4			2 ch	
F	5				3 ch
G	6		1 ch		

●アドレス設定は1番(B)から6番(G)まで、順に間をあけずに設定してください。(例：1台のときは1、3台のときは1、2、3とする)
●0と7～Fは設定しないでください。
●設定、変更は必ず電源プラグを抜いて行なってください。
●AVコミュニケーションシステムの制御パネル右のディップスイッチ（SW2-2～SW2-4）を、AV-7030の台数に合わせて必ず設定してください。（30ページ参照）

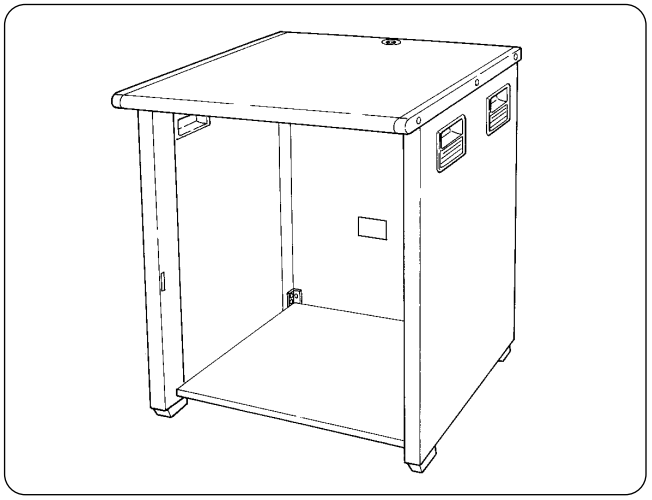


ドライバーで回し、矢印を
番号に合わせる。

設置のしかた

■サイドデスク（AV-7050）の設置

サイドデスク AV-7050 は AV-7100 システムの周辺機器を収納するものです。テーブル下には EIA13U（578 mm）のラックアングルが取り付けられています。また、ラックマウントできない機器の場合は棚板ユニット（別売AV-7051）を使って収納をすることもできます。（34ページ参照）



⚠注意

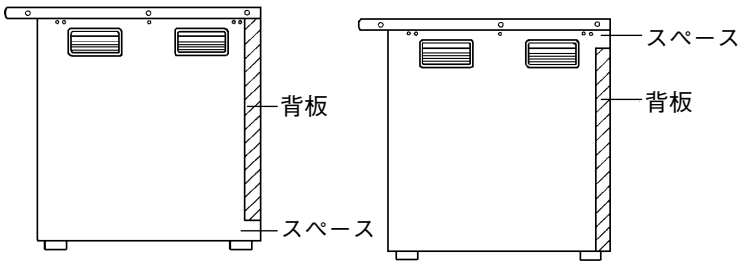
キャスターは使わない

キャスターを取り付けて移動できるような設置はしないでください。収納した機器の接続ケーブルが傷ついたり、断線の原因となります。

●背板の取り付け

●背板は上下を逆に取り付けることで、スペース（約25 mm）が背板の上側（テーブル面近く）または下側に来るように選択できます。

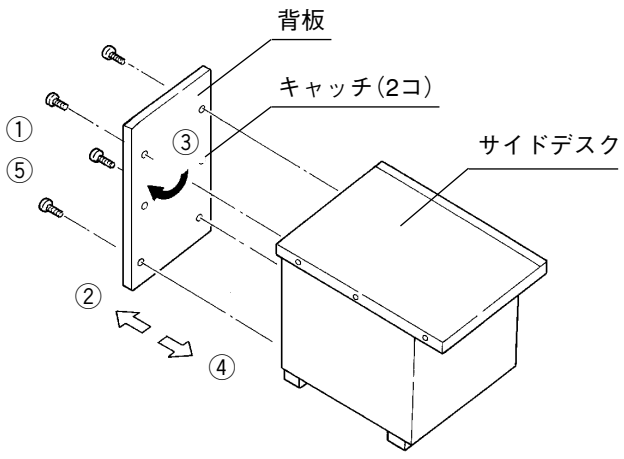
下側スペース……外観重視のとき
上側スペース……工場出荷状態
通風重視のとき
ケーブルを通すとき



下側スペースのとき　　上側スペースのとき

●背板の付け換えかた

① 背板の固定ねじ（4本）を外します。
② キャッチで仮止めされている背板を引いてサイドデスクから取り外します。
③ 背板の上下を逆にします。
④ 背板を取り付け位置に押し込みます。（キャッチで仮止めされます。）
⑤ 固定ねじ（4本）で止めます。



●天板の通線孔について

ケーブルの多さで使い分けてください。

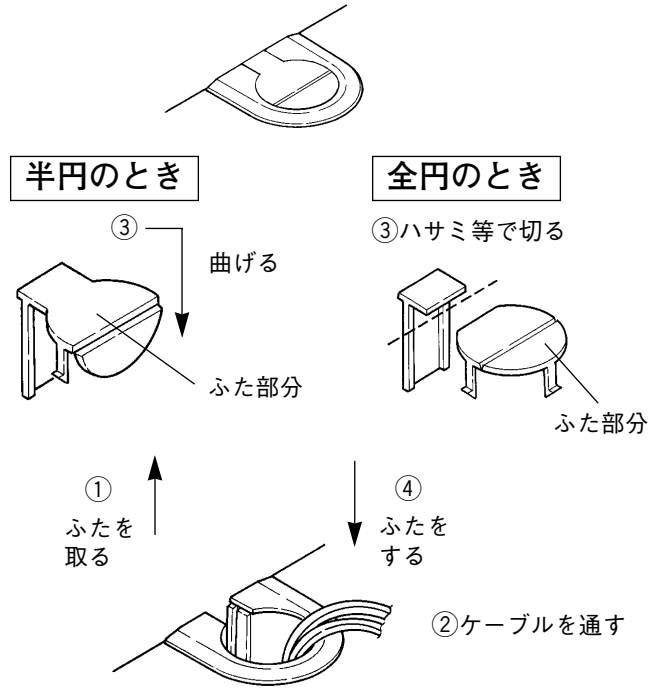
●ケーブルがないとき
ふたをした状態にします。

●ケーブルが少ないとき(半円の通線孔)

① ふたを取り出します。
② ケーブルを通します。
③ ふたの中央を下に曲げます。
④ ふたをします。

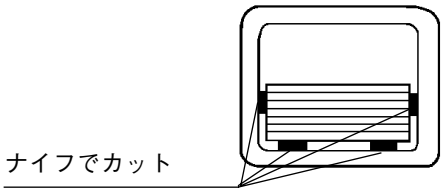
●ケーブルが多いとき(全円の通線孔)

① ふたを取り出します。
② ケーブルを通します。
③ ふた部分をハサミ等で切り取ります。
④ ふた(切り取った残り)をします。
切り取ったふたは保管して、必要になったときに使用してください。



●側板の通線孔について

側板の把手は、サイドデスクを連続して並べるときなど、通線孔としても使用できます。
右図4カ所のつなぎ目をナイフで切り離して孔をあけます。



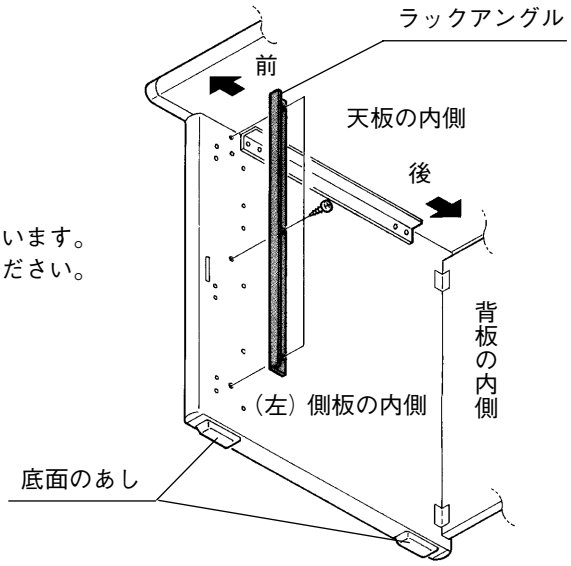
設置のしかた

■棚板ユニット（AV-7051）の取り付けかた

サイドデスク AV-7050 において、ラックマウントできない機器を収納するときに用いる棚板で、2枚で一組になっています。棚板は、ラックアングルを取り外してから取り付けます。

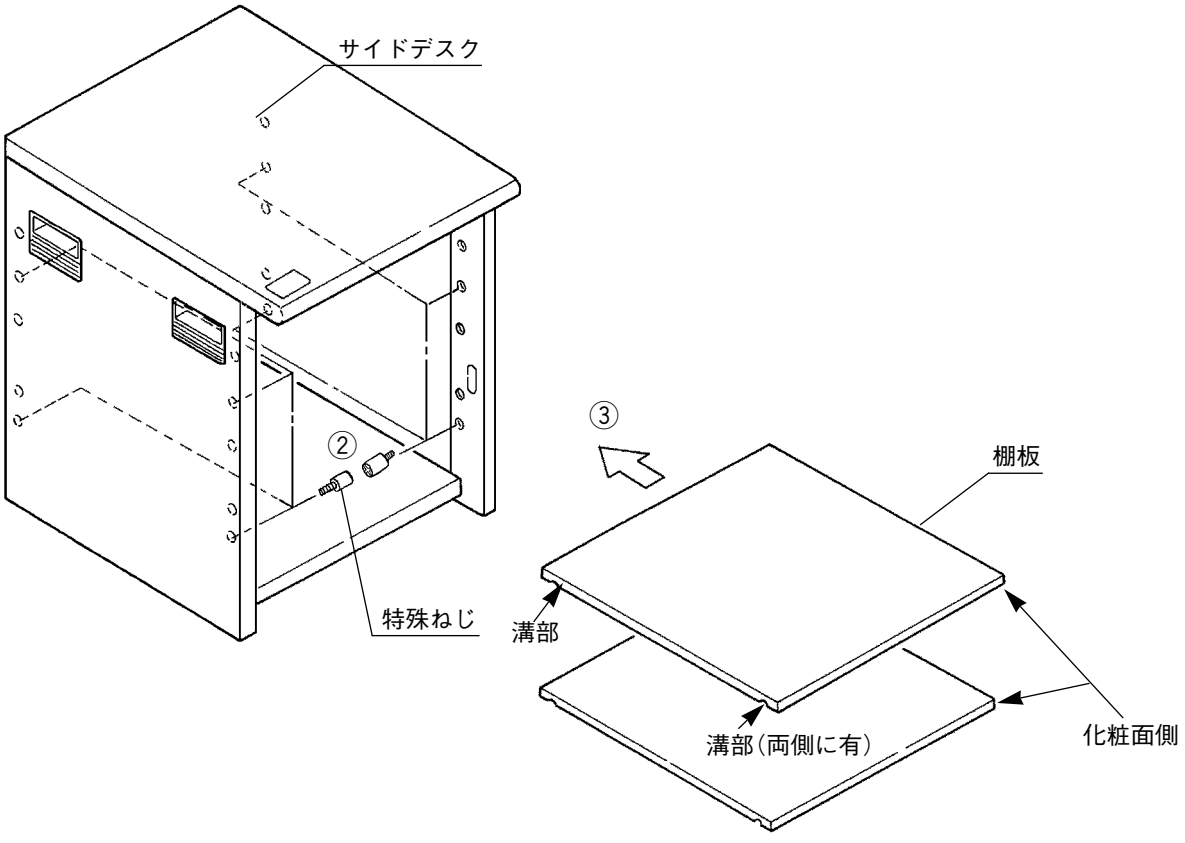
① ラックアングルを左右両方共、取り外します。

イラストは左側だけ示しています。
右側も同様に取り外してください。



② 付属特殊ねじ（8 本）を棚板の高さに合わせて取り付けます。ねじはプラスドライバーでしっかり締めてください。

③ 棚板の溝部を特殊ねじに合わせてはめ込みます。棚板取付位置は5段階で変えられます。



■ドアユニット(AV-7053)の取り付けかた

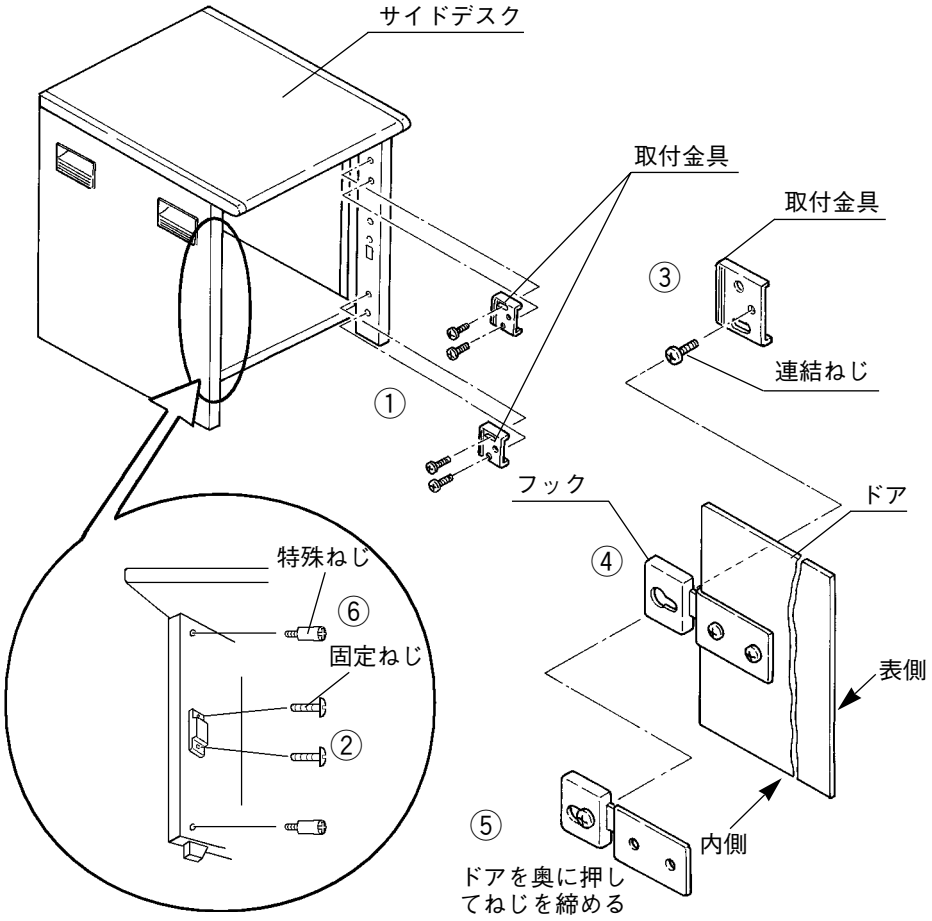
サイドデスク AV-7050 の収納部に用いる開閉型のドアです。

ご注意

ラックマウント金具の厚さを含めて20 mm以上のつまみ、ハンドルなどの突起があるユニットを収納している場合には使用できません

ドアは右開き、左開きのどちらにも取り付けられます。カギの回転範囲が右開きでは9時から12時に、左開きでは3時から6時になります。説明は右開きの場合です。

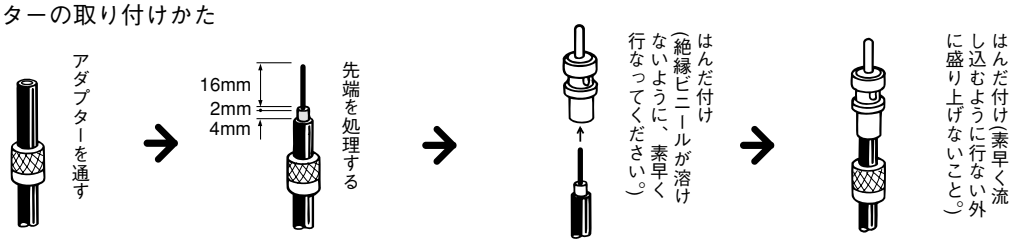
①付属の取付金具(2個)をサイドデスクの右側板の上下に付属のねじ(M4×8 mm　4本)で取り付けます。
②左側板にマグネットを付属の固定ねじ(M4×8 mm　2本)で取り付けます。
③取付金具に付属の連結ねじ(M4×8 mm　ブロンズメッキ上下各1本)を仮止めします。
④ドアのフックを右側板に近づけて、上下のフック孔に連結ねじの頭を入れます。
⑤ドアを奥に押し込んで連結ねじを締めます。
⑥付属の特殊ねじ2本を左側板の上、下に取り付けます。(ドアのストッパーになります。)
⑦動きの確認をします。
　・ドアの開閉の具合を確認します。
　・マグネットの吸着具合を確認します。
　・施錠と開錠の確認をします。
⑧もし不具合があるときは各部のねじを締め直すなどして調整してください。



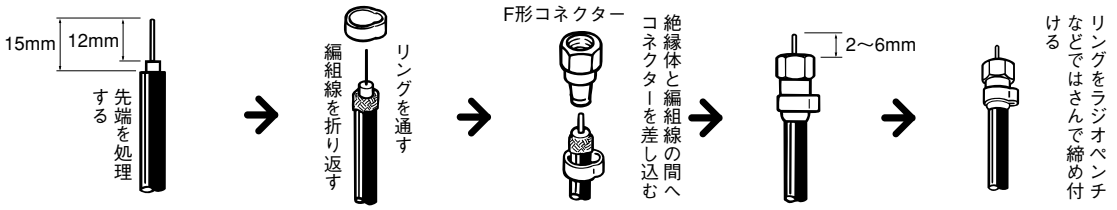
接続のしかた

■コネクター、プラグの取り付けかた

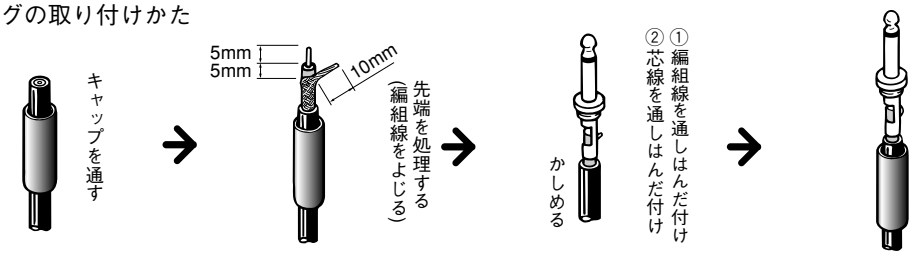
●M形コネクターの取り付けかた



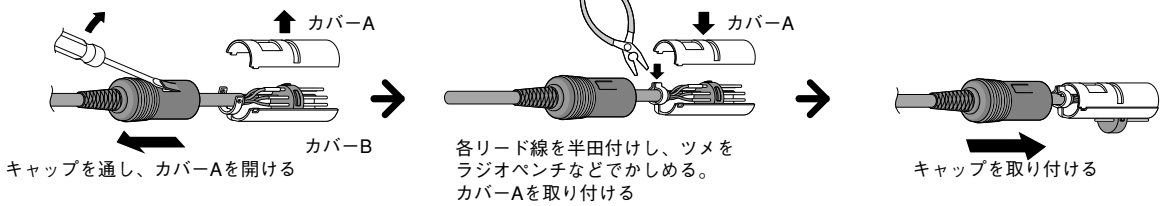
●F形コネクターの取り付けかた



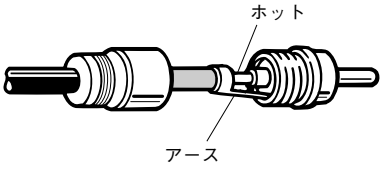
●単頭フォンプラグの取り付けかた



●DINプラグの取り付けかた

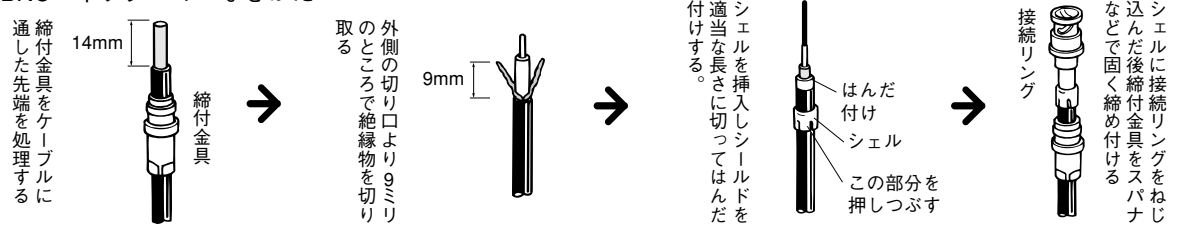


●ピンプラグの取り付けかた



単頭フォンプラグの場合と同様にシールドケーブルの先端を処理してから左図のように接続します。

●BNCコネクターのつなぎかた

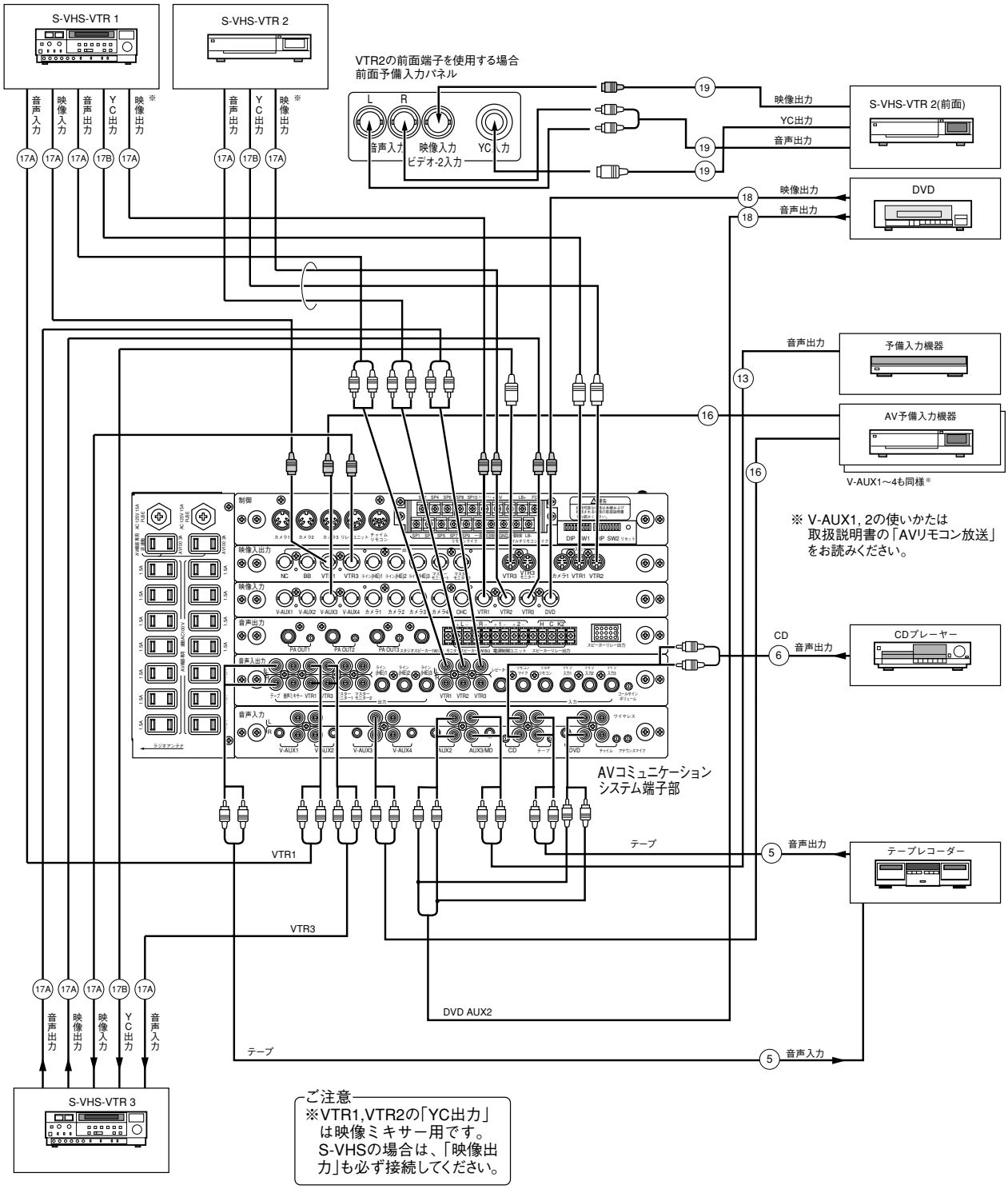


注意：使用するケーブルは3C-2Vを推奨します。これよりもケーブル径が大きいとケーブルカバーの内側に当り、ケーブルカバーが取り付かないことがあります。その場合は3C-2Vケーブルを中継して接続してください。なおTVやBSなど高い周波数を扱う場合は、5C-FBケーブルをご使用ください。

■VTR、DVD、CD、テープレコーダーなどの接続

●映像ミキサー使用時にDVDの音声が音声ミキサーに入力されないのでAUX入力端子に並列に接続してください。マルチディスクプレーヤー使用時はCDの入力端子に並列に接続してください。(音声が歪むときはレベルを調節してください。)

●接続用ケーブルは各機器に付属のケーブルを使用するかまたは現場にて作成してください。

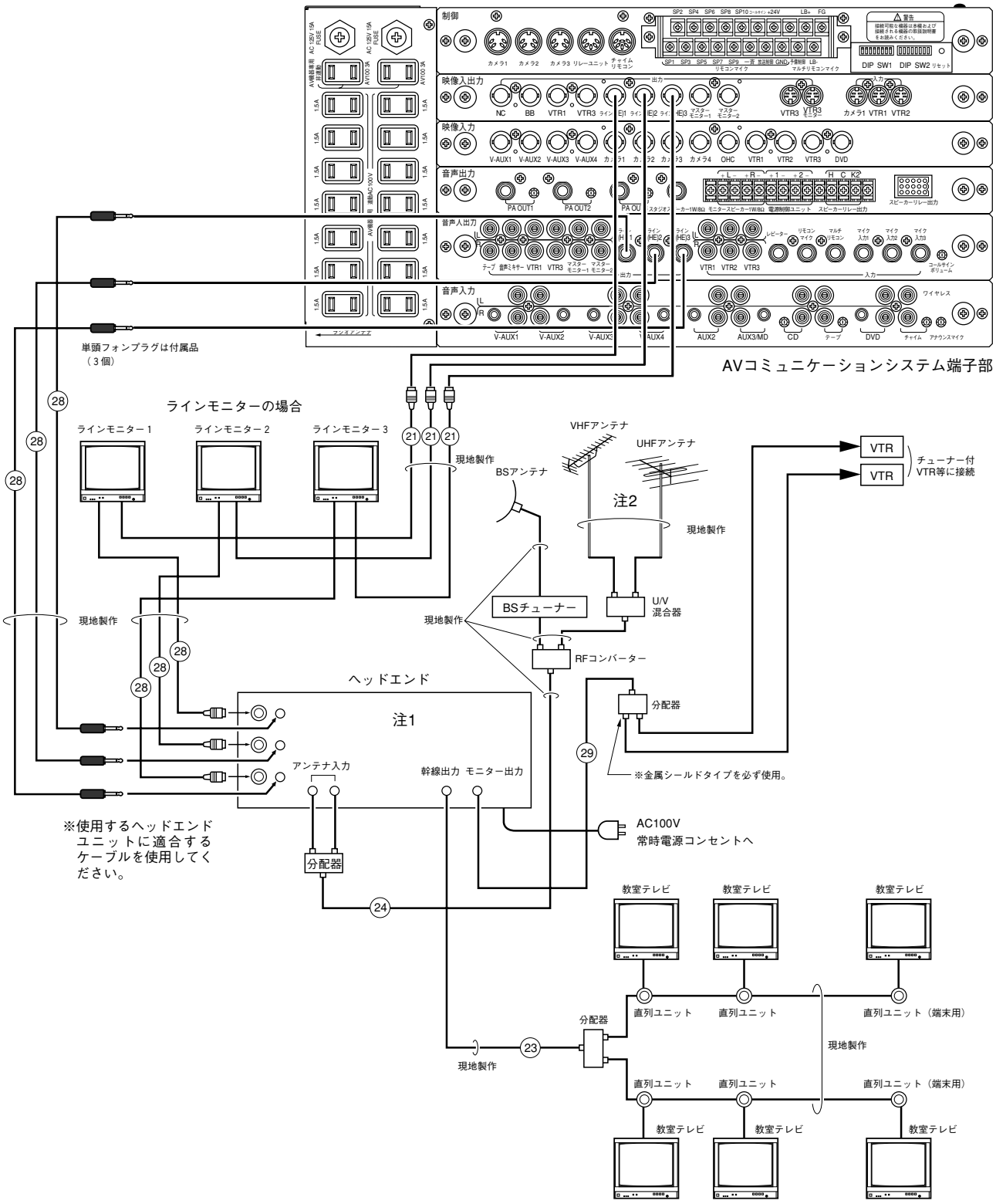


接続のしかた

■ヘッドエンド出力、TVアンテナ、教室テレビの接続

注1：下記の接続ではヘッドエンド出力をVTRのテレビチューナー入力としているため、ヘッドエンド出力のチャンネルを選択すると発振する場合があります。発振する場合はVTRのTVチューナー設定からHEの出力チャンネルを消去してください。

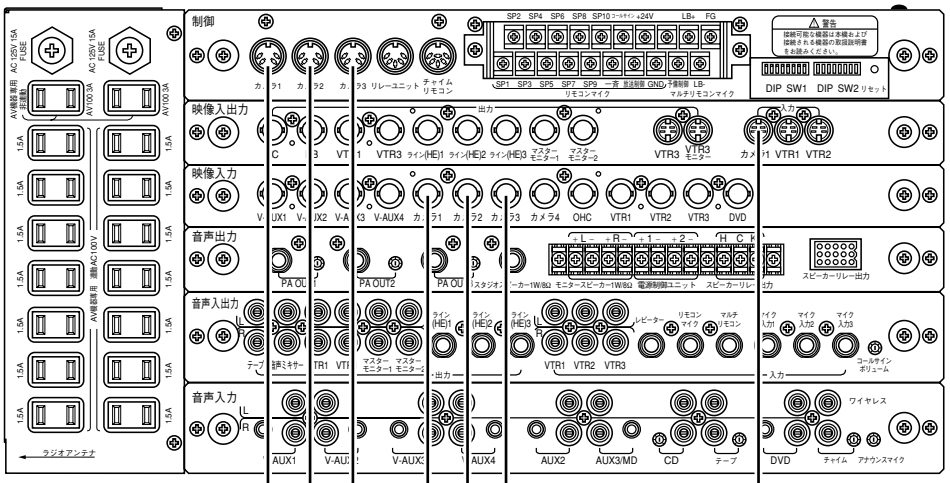
注2：TVアンテナには避雷器をつないでください。



■カメラ、インターカム・タリーの接続

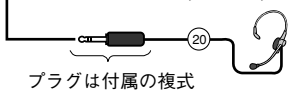
●インターカム・タリーはカメラ1、カメラ2、カメラ3のみ接続できます。
●VTRーVTR、カメラーVTR間の非同期ミキシング方式のため、カメラに外部同期(ゲンロック)をかける必要はありません。

AVコミュニケーションシステム端子部

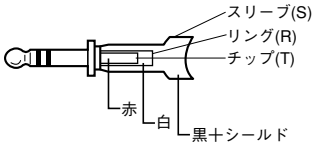


AVコミュニケーションシステム
予備入力パネル

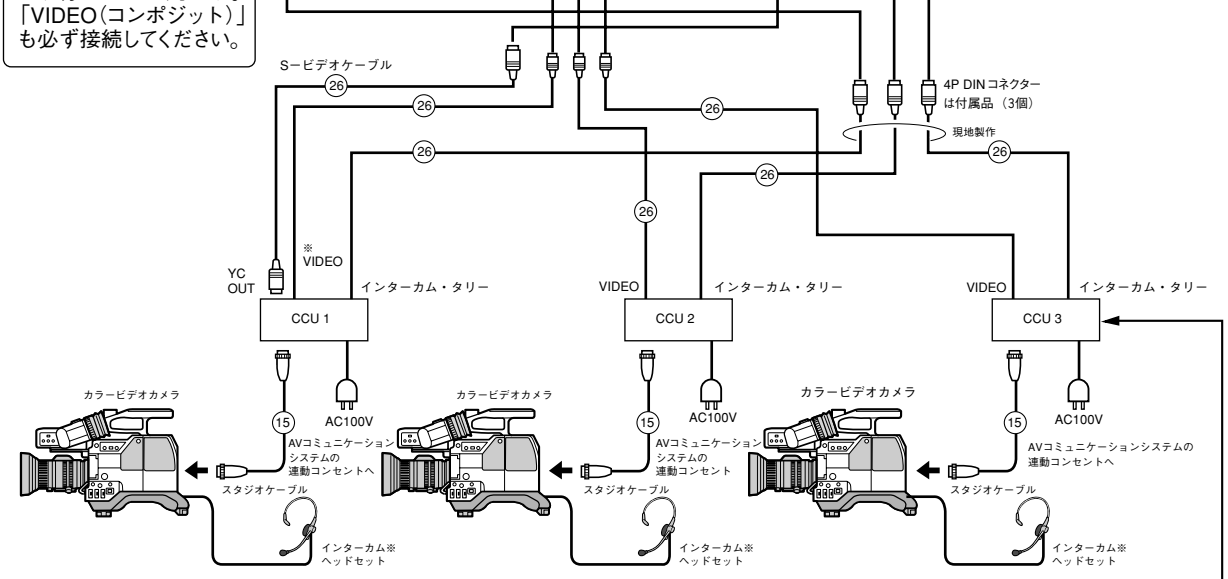
インターカム※
ヘッドセット



プラグは付属の複式
フォンプラグに
取り換えてください。



ご注意
※カメラ1の「YC OUT」は映像ミキサー用です。「VIDEO(コンポジット)」も必ず接続してください。



DIN コネクターへの配線

AVコミュニケーションシステム側　　CCU側

カメラ1～カメラ3コネクター
4P DIN コネクター

記号名	ピンNo.
タリー	①
GND	②
インカムH	③
インカムL	④

ピン配置
(4P DIN コネクター)

インターカム・タリー端子台

端子名	
PGM	タリー
PVW	
C	
H	インターカム
C	
G	

ハンダ面視図

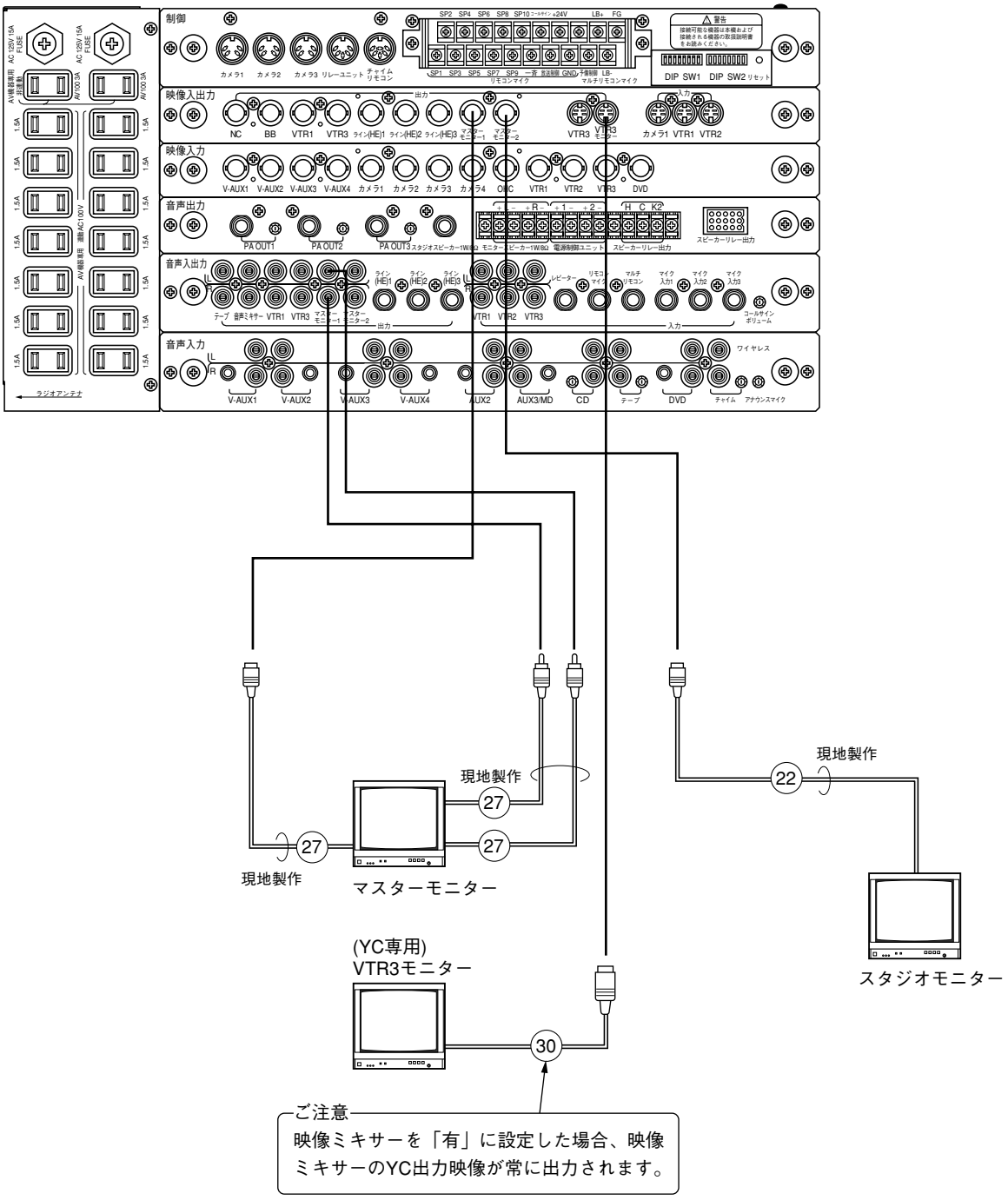
●RM-P210の場合
・「インカム L」をCCU側の「INC H」に接続します。
CCU側で「TALLY C」と「INC C」を接続します。
・「インカム H」は接続しません。
・タリーは「接点供給方式」に設定してください。

※インターカムヘッドセット推奨品：MT-12MFB（アシダ音響株式会社）

接続のしかた

■マスターモニター、スタジオモニターの接続

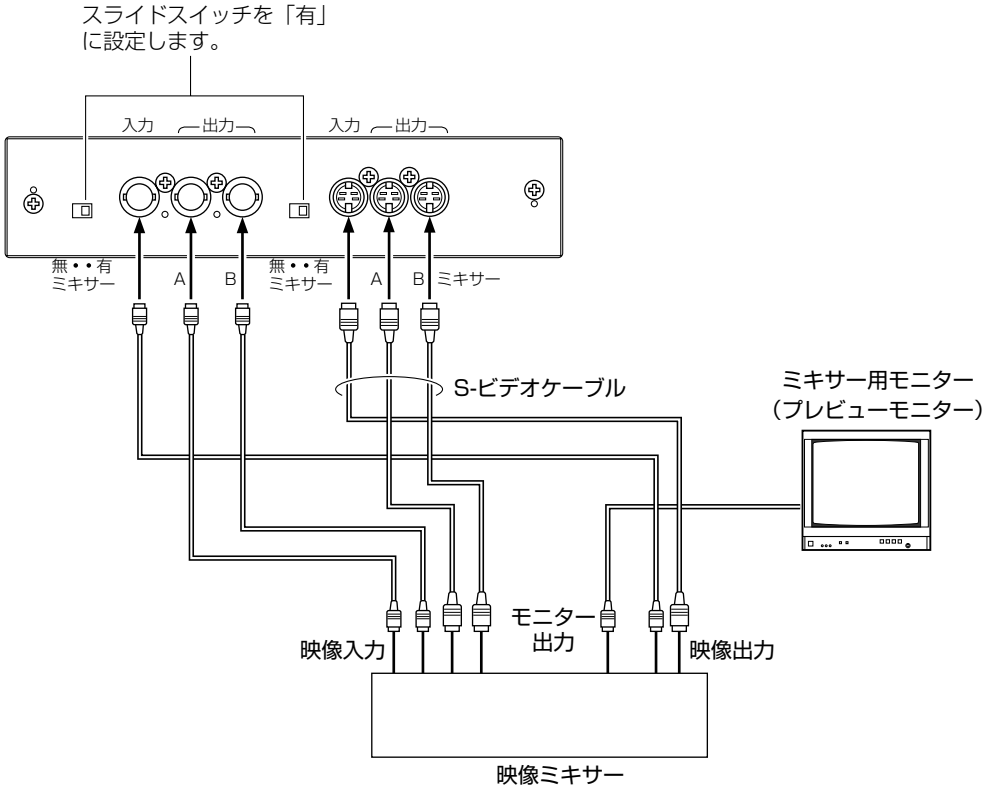
AVコミュニケーションシステム端子部



接続のしかた

■映像ミキサーの接続

映像ミキサーやミキサー用モニターは、以下の接続図のように接続します。
映像ミキサー側の詳しい接続方法については、ご使用になる映像ミキサーの取扱説明書をご参照ください。
接続用ケーブルは各機器に付属のケーブルを使用するかまたは別途ご用意ください。

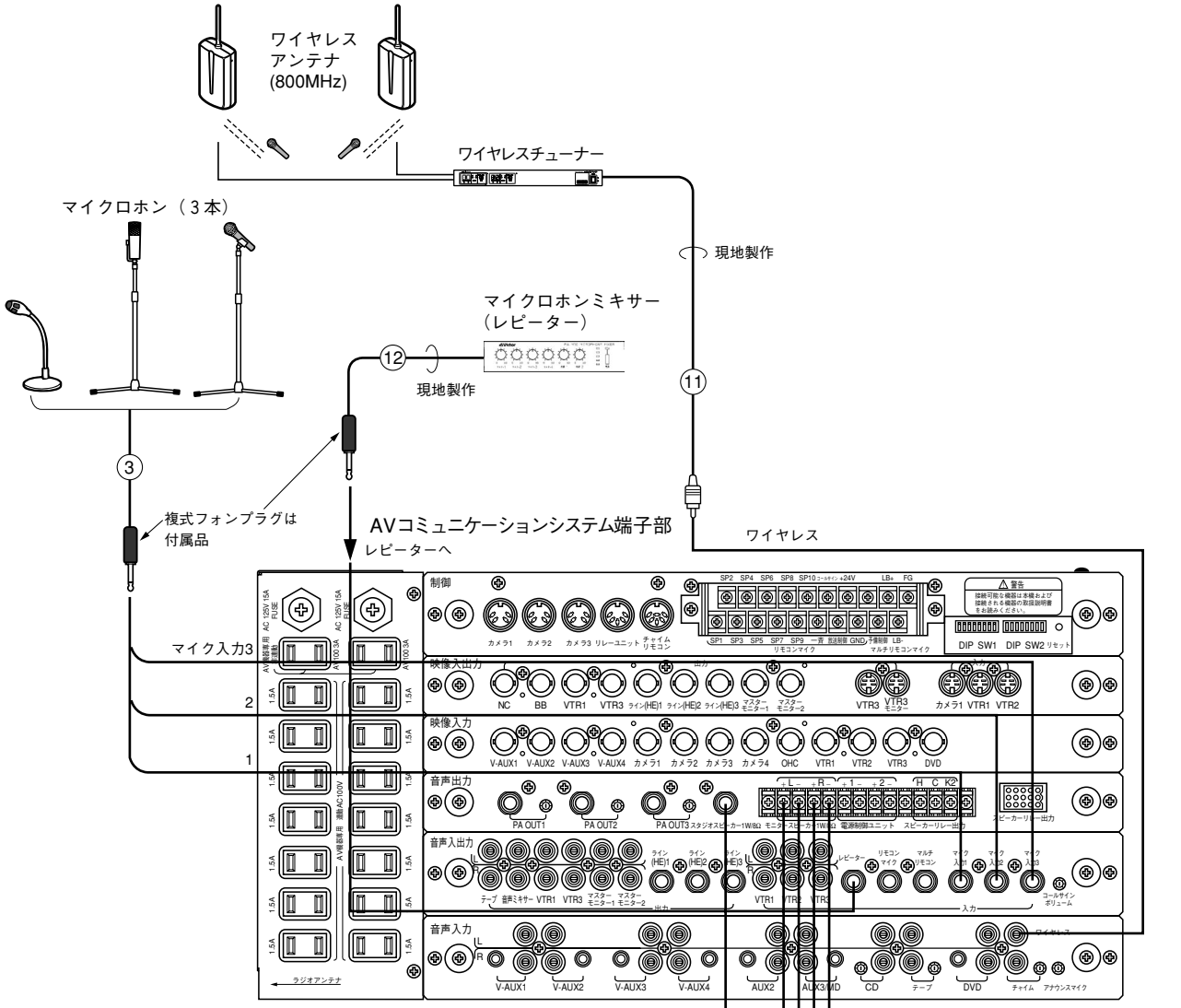


ご注意

- 映像ミキサーを使用する時は制御パネルの右にあるディップスイッチを「有」に設定してください。
- プレビューモニターは、プレビュー機能がある映像ミキサーを使用するときに接続します。
- 4系統の出力が映像ミキサーにはつなげられますが、画面で選択できるのは2系統（A、Bそれぞれ1系統）で映像パターンも2系統しか登録できません。

■音声機器の接続

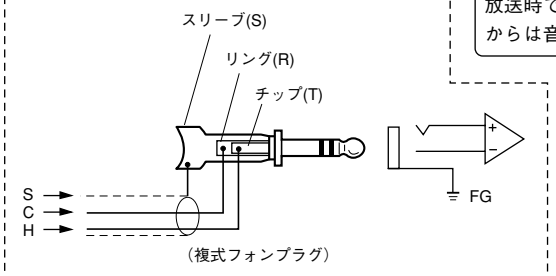
(マイクロホン、ワイヤレスチューナー、マイクロホンミキサー（レピーター）、スタジオスピーカー、モニタースピーカー)



マイクジャックへの配線

不平衡2線式マイクロホンの時はそのままで使用してください。

平衡3線式のマイクロホンのときは複式フォンプラグを使用して以下の様に接続してください。

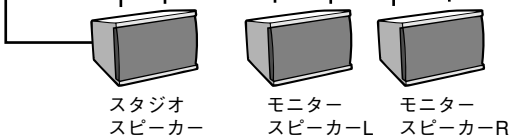


単頭フォンプラグは
付属品

現地製作

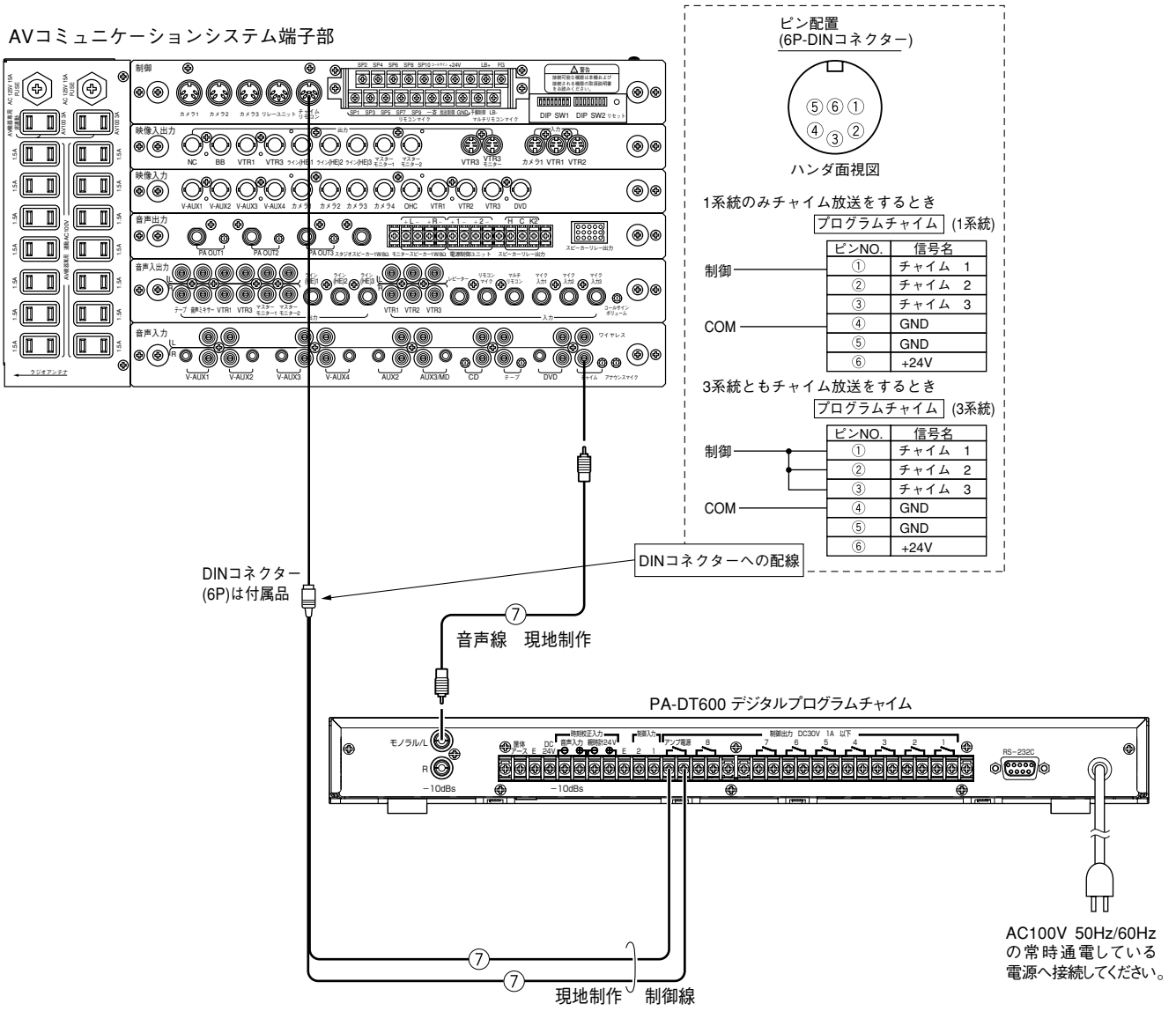
ご注意

AVコミュニケーションシステムやリモコンからの緊急(一斉)放送時でもスタジオスピーカーからは音が出力されません。



接続のしかた

■報時チャイムの接続



ご注意

- タイマー・チャイムのAC 100 V電源はAVコミュニケーションシステムのAC連動コンセントから供給しないでください。常時通電している電源へ接続してください。
- チャイム起動時、AVコミュニケーションシステムの起動に約5秒かかります。PA-DT600を接続する場合には、「チャイム連動時間設定」を「10秒」に設定してください。詳しくはPA-DT600の取扱説明書をご参照ください。
- 出荷時は、チャイム放送を優先した一般放送とのミキシング状態に設定してありチャイム起動時、一般放送は小さくなります。(約20 dBダウン)ただし、一斉放送になりますので放送していない場所でもミキシング放送が聞こえます。
- チャイム優先放送(一般放送はカットされ、チャイム放送のみ一斉になる)にするには、制御パネル右のディップスイッチSW1-4をOFF(0 : 上側)、1-5をON(1 : 下側)にしてください。(30ページ参照)
- 等レベルミキシング放送(チャイム放送と一般放送の一斉ミキシング放送になります。ただし、一斉放送になりますので一般放送をしていない場所でもミキシング放送が聞こえます。)にするには、制御パネル右のディップSW1-4をON(1 : 下側)、1-5をOFF(0 : 上側)にしてください。(30ページ参照)

・85ページの「ご注意」も合わせてご確認ください。

■リモートマイクロホン(PA-C50/C51/C52)の接続、予備制御の接続

予備制御スイッチについて

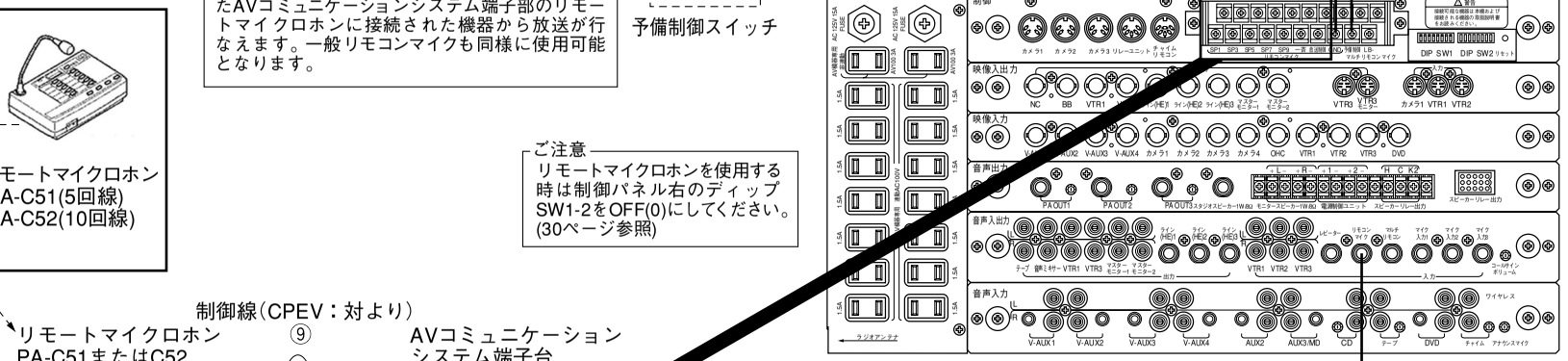
予備制御スイッチを「ON」にすると、リモコンマイクの“SP10”と“放送制御”が押された状態になりリモートマイクロホンの予備入力またAVコミュニケーションシステム端子部のリモートマイクロホンに接続された機器から放送が行なえます。一般リモコンマイクも同様に使用可能となります。

予備制御スイッチ

予備制御へ

GNDへ

AVコミュニケーション
システム端子部



ご注意

リモートマイクロホンを使用する時は制御パネル右のディップSW1-2をOFF(0)にしてください。(30ページ参照)

リモートマイクロホン
PA-C51(5回線)
PA-C52(10回線)

制御線(CPEV：対より)

リモートマイクロホン
PA-C51またはC52

AVコミュニケーション
システム端子台

回線起動出力		
	1	SP1
	2	SP2
	3	SP3
	4	SP4
	5	SP5
	6※	SP6
	7※	SP7
	8※	SP8
	9※	SP9
	10※	SP10

E	GND
＋24V	＋24V
電源ON	放送制御
チャイムON	コールサイン
一斉	一斉
本体使用中	
音声出力 H	
音声出力 C	

⑨

シールド

音声線
(単芯シールド線)

※回線起動出力6～10は
PA-C51では接続しません。

リモートマイクロホン
PA-C50の場合

AVコミュニケーション
システム端子台

E	GND
＋24V	＋24V
電源ON	放送制御
チャイムON	コールサイン
一斉	一斉
本体使用中	
音声出力 H	→ リモコンマイク入力へ
音声出力 C	

■設置に関する詳しいことはPA-C50/C51/C52の取扱設置説明書をご参照ください。

■使用ケーブルについて

・音声線は単芯シールド線を使用してください。（入力回路は不平衡です）

・制御線はCPEV(対より)ケーブルを使用してください。
ケーブル長は以下のようにしてください。
ケーブル抵抗は1線あたり10Ω以下としてください。

距離	150 m	300 m	500 m
線径	0.65 mm	0.9 mm	1.2 mm

■AVコミュニケーションシステムの「＋24V」出力端子について

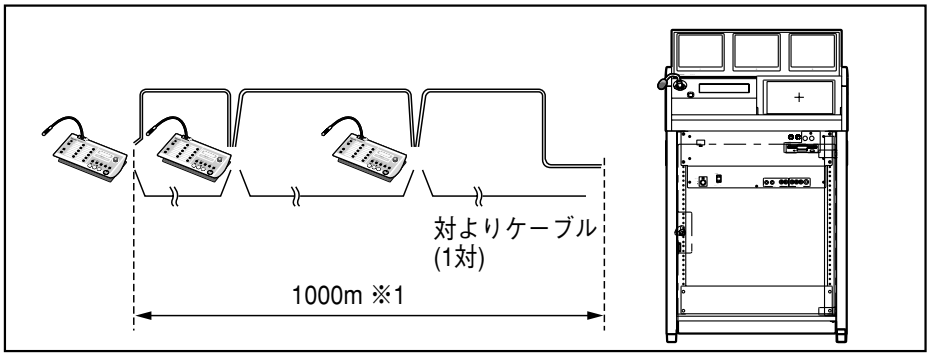
・最大容量は100 mAです。

・ユニット内部に保護用ヒューズが入っています。
短絡等の過電流時に瞬時に遮断されますのでご注意ください。

接続のしかた

■マルチリモートマイクロホン（AV-7042）の接続

詳しくはマルチリモートマイクロホンの取扱説明書をお読みください。



※1 AVコミュニケーションシステムと接続した時の総延長距離は1,000m以内です。

音声線(2芯シールド線)

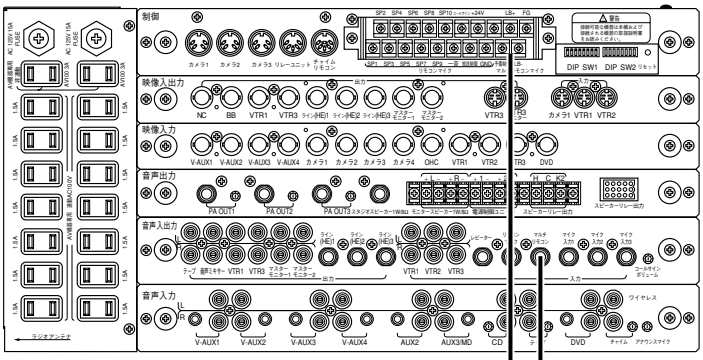
距離	500m以下	1,000m以下
公称断面積	0.35mm²以上	0.5mm²以上

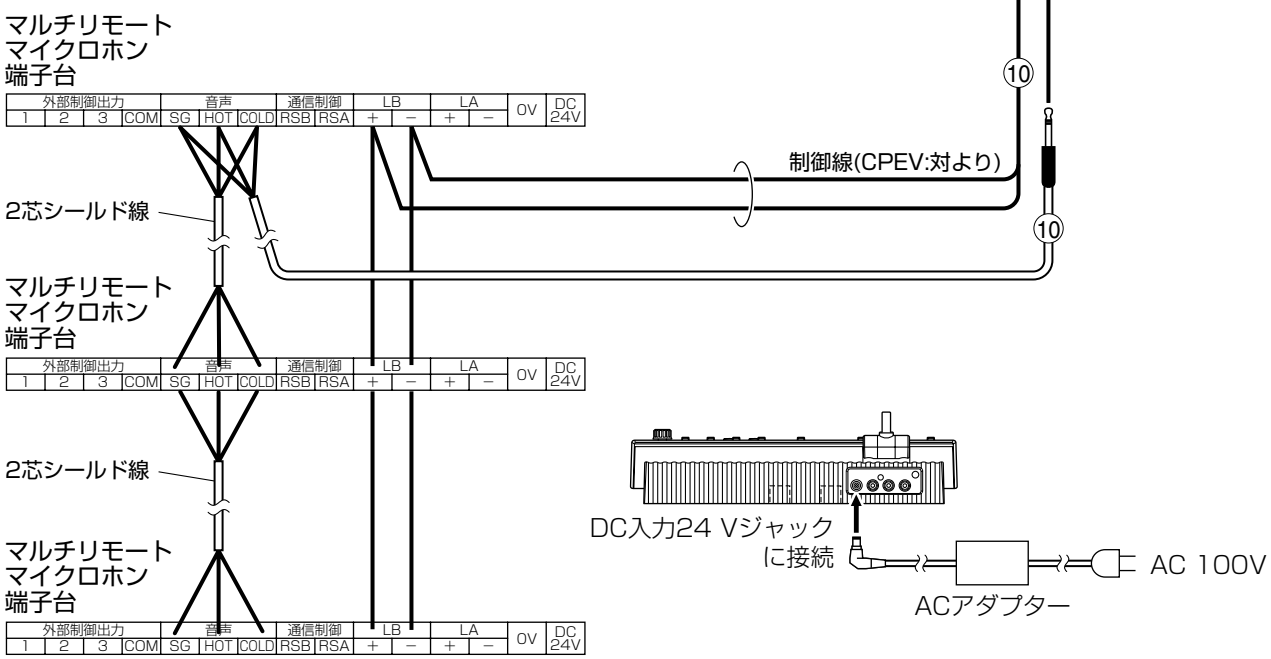
データ線(CPEV:対より)

距離	200m以下	600m以下	1,000m以下
線径	φ0.65mm	φ0.9mm	φ1.2mm

ご注意

- マルチリモートマイクロホン（マルチリモコンマイク）を使用する時は、使用台数に応じて制御パネル右のディップスイッチSW2-5～SW2-8をセットしてください。(30ページ参照)
- マルチリモートマイクロホンの電源は専用のACアダプタを使用してください。
  AVコミュニケーションシステムからDC24V電源は供給できません。
- マルチリモートマイクロホンの通信速度を4800bpsに変更してください。
  変更方法はマルチリモートマイクロホンの取扱説明書をお読みください。

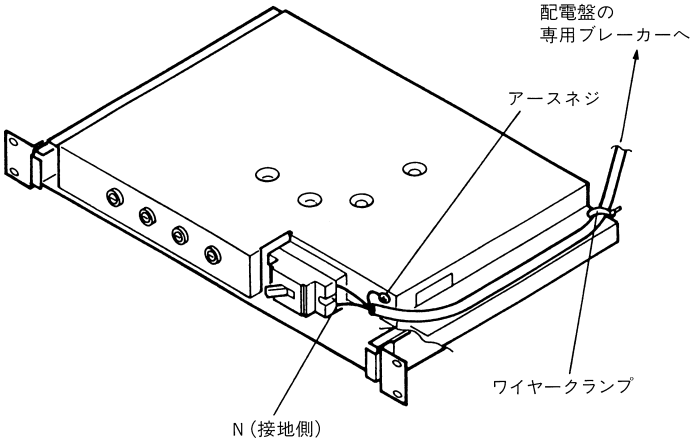




■主電源ユニット(EM-P11)の接続

AV-7100のコンセントボックス(連動)が足りない場合、または容量が不足する場合にアウトレットを増設します。

AC100Vケーブルの接続



①フロントパネルをはずし、内蔵のブレーカーにAC100Vケーブルを直接接続してください。(アース線はアースネジへ)

②AC100Vには極性(片極接地)があります。極性はブレーカーの表示(N=接地)に合わせてください。

③内蔵ブレーカーの接続部分に力が加わらないように、リア側のワイヤークランプでワイヤーを留めてください。

④接続が終わりましたら、ブレーカーを「ON」にして、フロントパネルを取り付けてください。

●EM-P11の必要台数

パワーアンプの定格出力が1080W以下の時…1台
パワーアンプの定格出力が1080Wを超え
1800Wまでの時…2台

AC100 Vケーブルの太さ(芯線径)

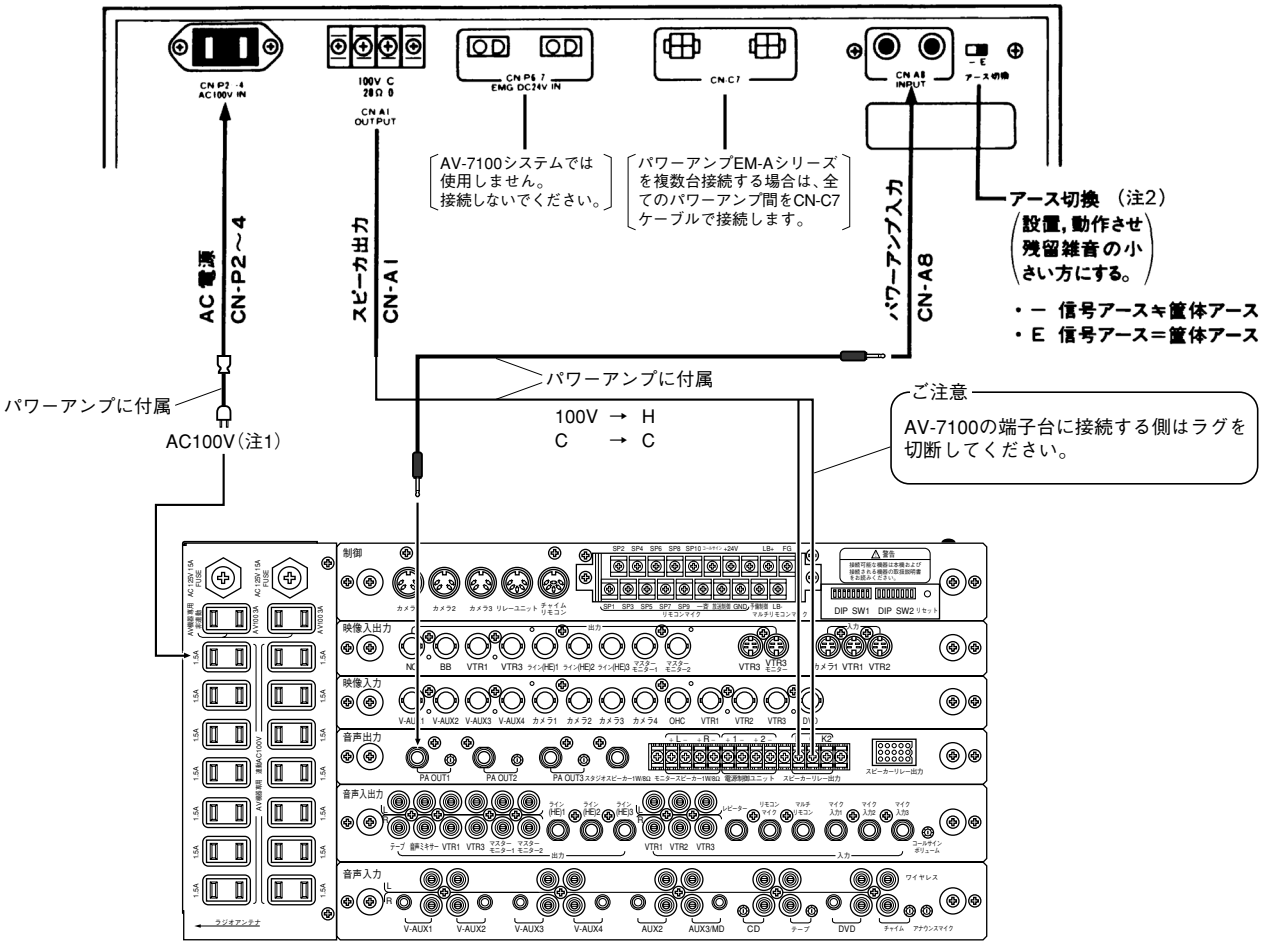
φ1.6 mm……27A、定格出力1320Wまで
φ2.0 mm……35A、定格出力1680Wまで
より線は使わないでください。

ご注意

- AC100Vケーブルの接続は、電気工事士の資格者が行なってください。
- AC100Vケーブルの接続は、ネジを強く締め、ゆるみのないようにしてください。設置後も、定期的にゆるみのないことを確認してください。(ネジのゆるみは、発熱、導通不良等の原因になります。)
- CN-P1～P4へのプラグの差し込みは誤挿入のないように正しく接続してください。誤挿入は、本機または各機器の故障や事故の原因となります。

接続のしかた

■パワーアンプEM-Aシリーズの接続



ご注意

注1）AC電源について

- AV-7100のコンセントボックスの連動コンセントは2系統に分れており、各系統1050Wまでです。他の接続機器との合計が越えないようにしてください。
- 連動コンセントの容量が不足する場合は主電源ユニットEM-P11を増設してください。

注2）「アース切換」について

- パワーアンプ1台の時は、「アース切換」は“E”にしてください。
- パワーアンプが複数台の時は、その内の1台だけ“E”にし、他は“ー”とし、1点アースとしてください。ただし、システムによっては何台か“E”にした方が良い場合もありますので、雑音の小さい方にしてください。
- テープレコーダー（カセットデッキ）、CDプレーヤーなどをパワーアンプと同じラックに組込む時は、信号アースが筐体に接続されています。したがって「アース切換」は必ず“ー”にし、2点アースを避けてください。

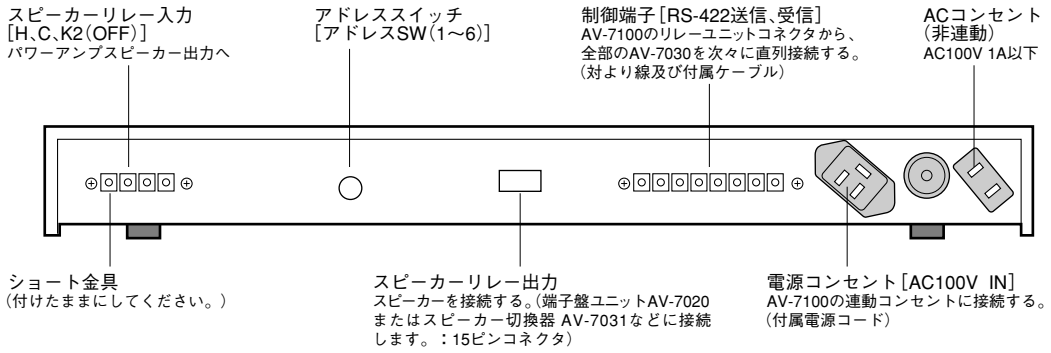
注3）ラックマウントについて

- サイドデスクにラックマウントしてください。（AV-7100収納部には取り付けないでください。）
- ラックマウント時、必ずブランクパネル（1U）を上に取り付けてください。
- パワーアンプに付属の棚板は取り付けることができませんのでご了承ください。
- パワーアンプ収納時は、サイドデスク（AV-7050）にドアユニット（AV-7053）は取り付けできません。

■リレーユニット(AV-7030)の設定

スピーカー回線が、1系統11回線以上、または3系統とするときに増設する10回線分のリレーユニットです。
最大6台まで増設することにより、最大70回線(AVコミュニケーションシステム本体内蔵の10回線と合計)まで制御できます。(接続については52ページをご覧ください。)

●背面端子の名称と働き

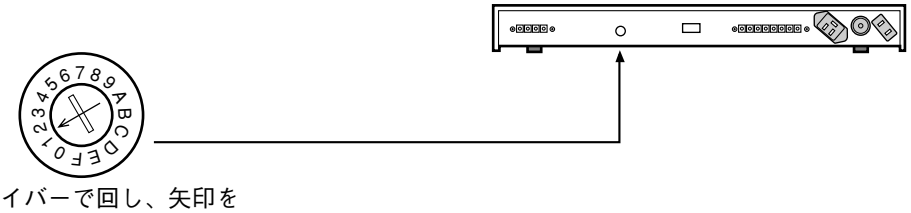


●アドレス設定のしかた

●リレーユニット(AV-7030)は、出荷時に次のように割り当てられています。AVコミュニケーションシステムのディップスイッチ(SW2-2〜SW2-4)で設定した数だけ、操作モニター画面に表示され、動作します。(割当て変更は本体のオフライン機能(84ページ参照)で行ないます。)

リレーユニット	アドレスNo.	1系統の場合	3系統の場合		
A	AVコミュニケーションシステム内蔵分	合計6台70回線	1ch		
B	1			2ch	
C	2				3ch
D	3		1ch		
E	4			2ch	
F	5				3ch
G	6		1ch		

●アドレススイッチの設定は1番リレーユニット(B)から6番リレーユニット(G)まで、順に間をあけずに設定してください。(例:1台のときは1、3台のときは1、2、3とする)
●0と7〜Fは設定しないでください。
●設定、変更は必ず電源プラグを抜いて行なってください。
●AVコミュニケーションシステムの制御パネル右のディップスイッチ(SW2-2〜SW2-4)を、リレーユニット(AV-7030)の台数に合わせて必ず設定してください。

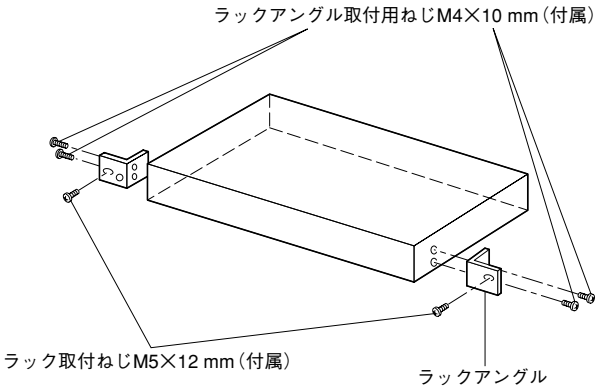


ドライバーで回し、矢印を
番号に合わせる。

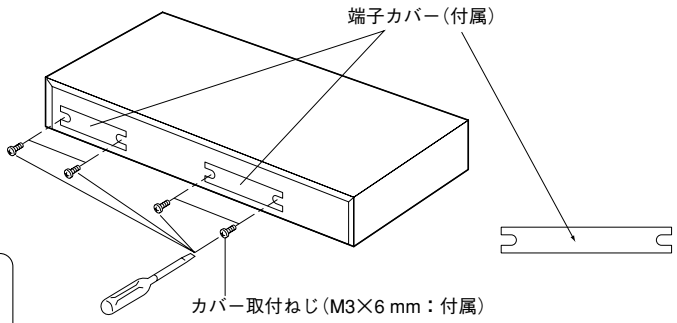
接続のしかた

●ラックアングルの取り付けかた

付属のラックアングルを取付用ねじで取り付けてください。



●端子カバーの取り付けかた

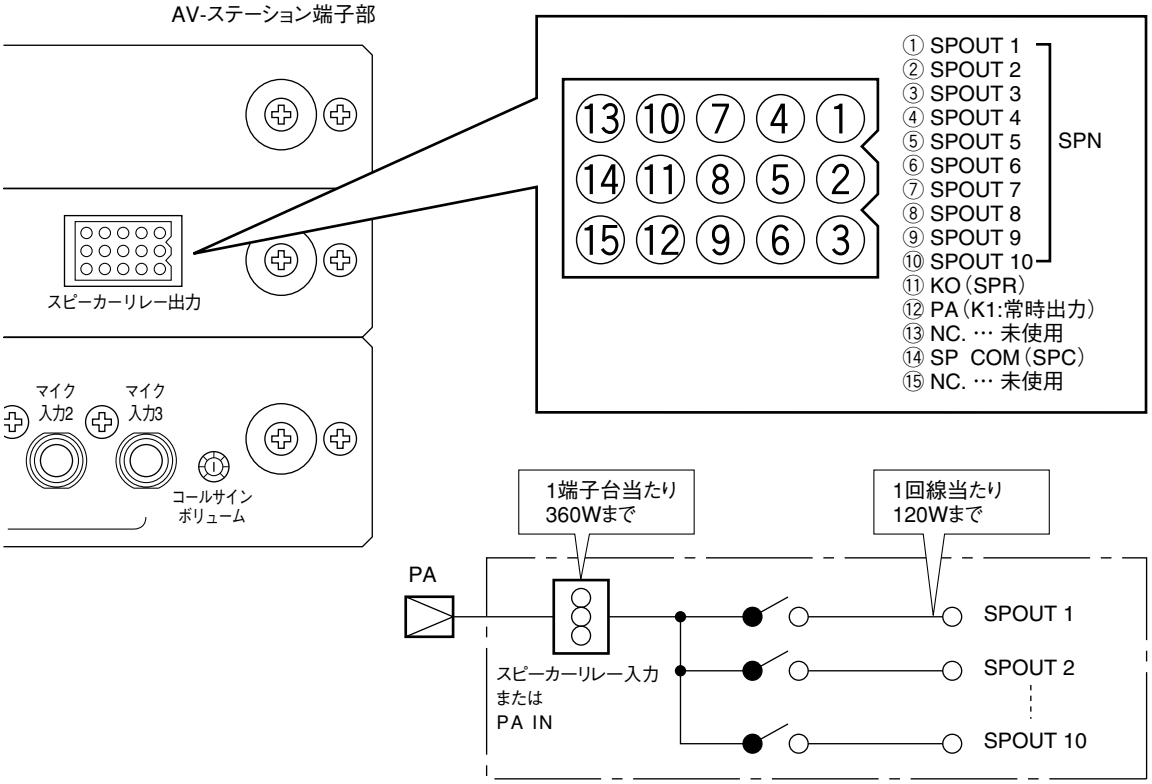


お願い

- 工事後は必ず付属の端子カバーをねじ止め（カバー取付ねじ（付属）使用）してください。

■スピーカーリレー出力コネクターの信号名と最大許容出力

※AV-7100およびAV-7030スピーカーリレー出力コネクター(信号名)



ご注意

- リレーユニット、パワーアンプ、スピーカーの接続では、次のことにご注意願います。
  - 各機器の配線長はユニットを引き出せるくらいの余裕をとってください。
  - 本機端子部のスピーカーリレー入力端子(CとK2間)、及びAV-7030のPA IN端子(CとK2間)に付いているショート金具は外さないでください。
  - AV-7030のアドレス設定※1と、AVコミュニケーションシステムのディップスイッチ設定※2を忘れずに行なってください。

    ※1 それぞれアドレス設定(1～6)が必要です。アドレスは抜けやダブリの無いように1から順番に設定する。

    ※2 リレーユニット(AV-7030)を使用する時は使用台数に応じてAVコミュニケーションシステムのディップスイッチSW2-2～SW2-4を設定する。
- AV-7100およびAV-7030のスピーカーリレー入力端子(H,C)は最大360 Wまでです。360 Wをこえる場合は、リレーユニットを増設して、1台で360 Wをこえないようにしてください。
- スピーカーリレーは、1回線あたり、最大120 Wまでです。各回線のスピーカー出力の合計が、120 Wをこえないようにしてください。

接続のしかた

■リレーユニットAV-7030、パワーアンプ、スピーカーの接続

●非常用放送設備と接続しない場合

●パワーアンプ

IN PUT ——► AVコミュニケーションシステム端子部の［PA OUT］へ

OUT PUT ——► 1chの［OUT PUT］はAVコミュニケーションシステム端子部の［スピーカーリレー入力］を通り、1chのリレーユニットAV-7030の［スピーカーリレー入力（PA IN）］を並列接続する。

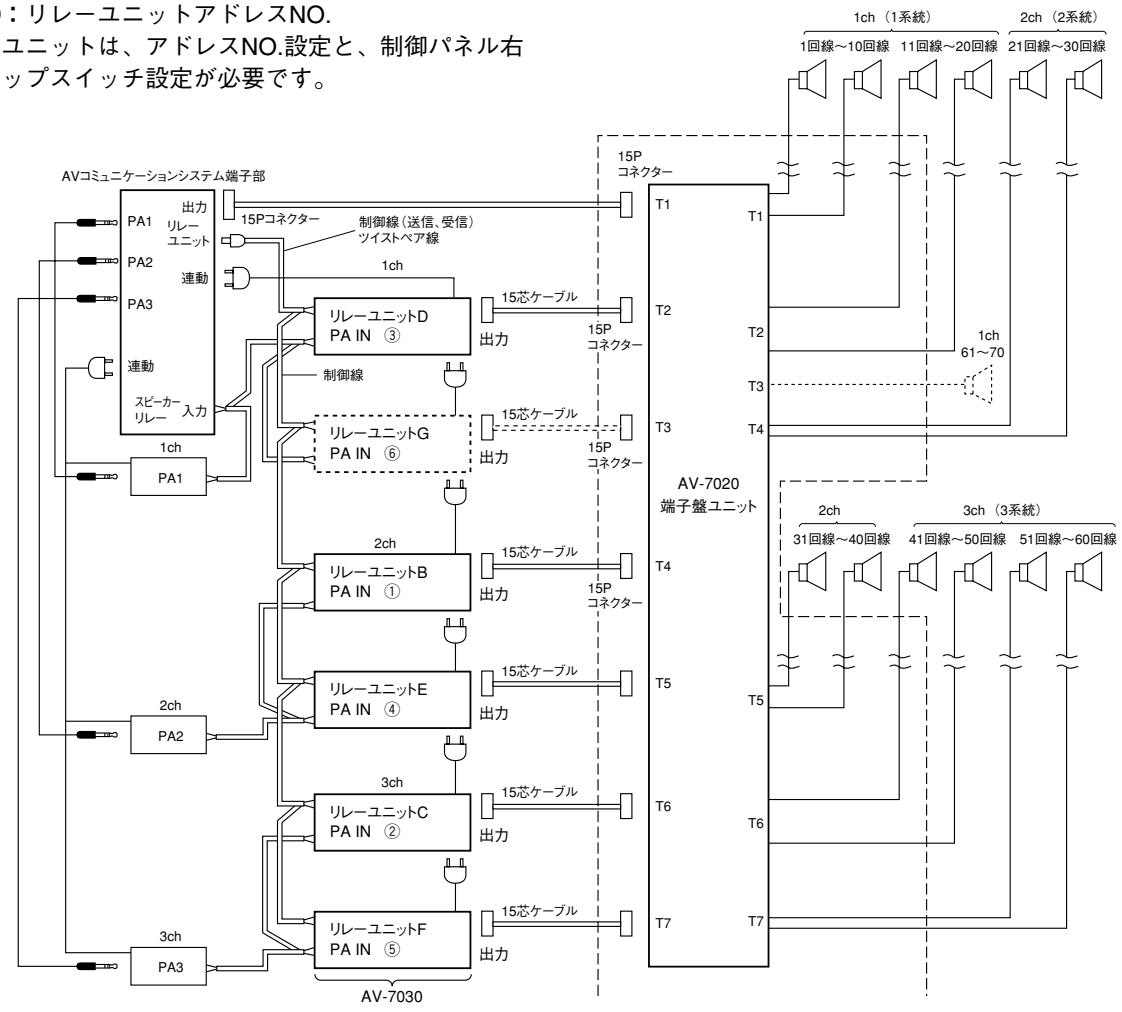
2ch、3chの［OUT PUT］は、各々2ch、3chのリレーユニットAV-7030「スピーカーリレー入力（PA IN）」を並列接続する。

●リレーユニットAV-7030 制御端子(送信、受信) ——► AVコミュニケーションシステム端子部のリレーユニットコネクター(5P DIN)から、全部のリレーユニットを次々に接続する。(本機とリレーユニット間はツイストペア線2本、各リレーユニット間はAV-7030の付属ケーブル使用)

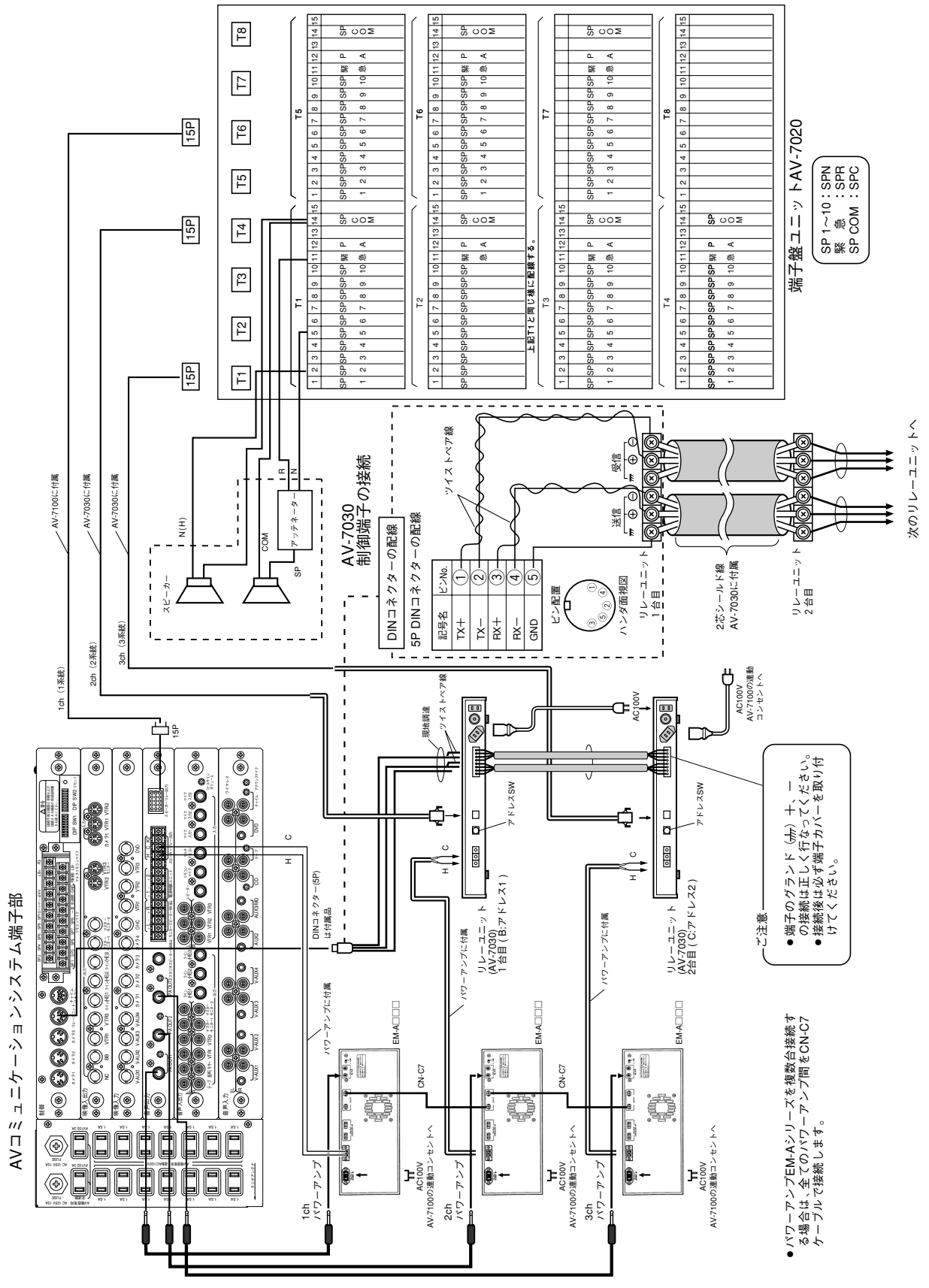
スピーカーリレー入力(PA IN) ——► パワーアンプ「OUT PUT」へ

スピーカーリレー出力(15Pコネクター) ——► 端子盤ユニットAV-7020へ

(注)①～⑥：リレーユニットアドレスNO.
リレーユニットは、アドレスNO.設定と、制御パネル右のディップスイッチ設定が必要です。



●接続例(AV-7020を使用する場合)

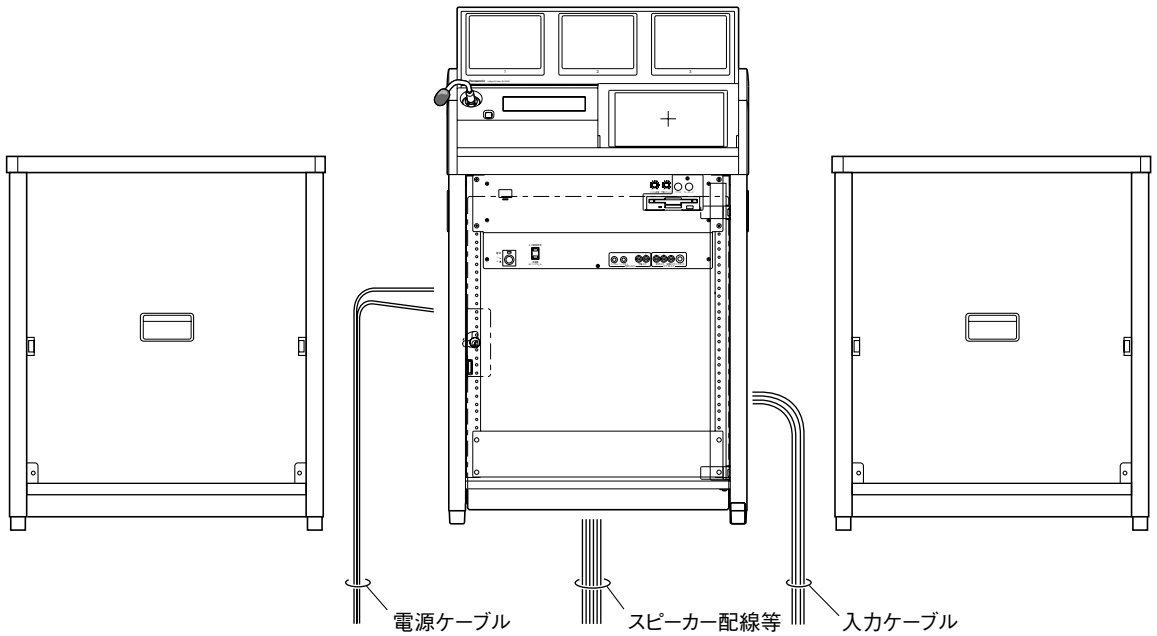


接続のしかた

■束線のご注意

非常用放送設備と接続する場合は、先に次ページ以降をご覧ください。

●図のように電源ケーブル、スピーカーケーブル、入力ケーブルをそれぞれ別々に束線してください。
●電源ケーブルと入力ケーブルなどのレベルの極端に異なるケーブルを一緒に束線しないでください。
●束線はある程度余裕をとり、ユニットが前へ引出せる位の長さにしてください。



■接続・配線の点検

①すべての接続が終わりましたら電源をONにする前に再度配線・接続を点検してください。
②各ユニット間、リモコンマイクやチャイムの接続ミスや配線忘れがないことを確認してください。
③AVコミュニケーションシステムのディップスイッチ設定（30ページ参照）を再確認してください。

非常用放送設備との接続［AV-7031］
設備工事の前に

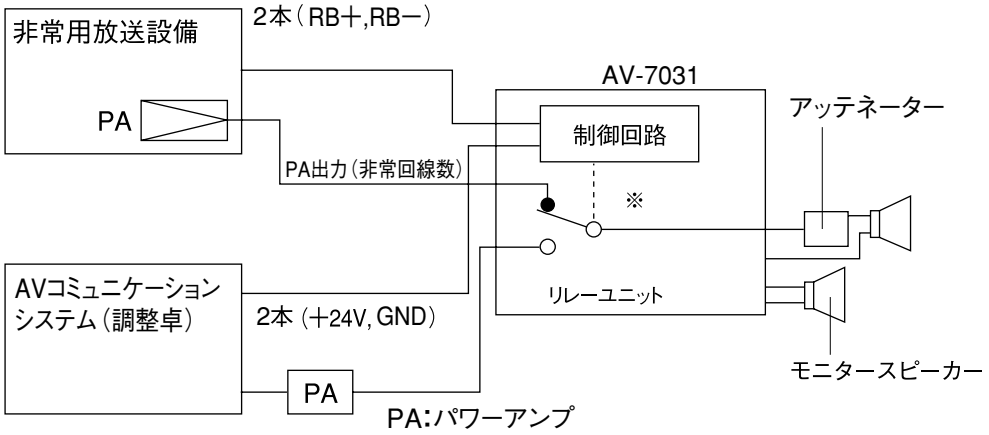
■優先順位について

	放送内容	RU＋を接続しない	RU＋を「放送時 24V 出力」で制御 ※1
		増設リレー不要	増設リレー必要
非常用放送設備からの放送	非常放送	1	1
	通常（業務）放送	3	2
AVコミュニケーションシステム（調整卓）からの放送	通常（業務）放送	2	3

ご注意

- 通常（業務）放送とは、非常放送以外の一般放送のことです。
  通常放送内の優先順位は、各システムで設定してください。
  AVコミュニケーションシステムでは、各リモコン放送（チャイム、リモコンマイク、マルチリモコンマイク）の優先順位をオフライン機能で設定できます。
- 「RU＋」の制御について
  ※1「放送時 24V 出力」は、非常用放送設備からの「通常および非常放送」時にDC24V を出力する制御出力です。
  ビクター製非常用放送設備の場合は「放送時24V出力：RU＋」がありませんので、リレーの増設が必要になります。（65ページ参照）

■動作のしかた



※AC100 V断（停電）時は、SP切換リレーは非常放送側になります。

非常用放送設備との接続［AV-7031］
設備工事の前に

■スピーカー切換器の制御動作

		待機状態（電源ON）	通常（業務）放送		非常放送時	備考
			調整卓（デスク）で放送時	非常用放送設備で放送時		
制御入力	EMG24 Vブレイク（RB⊕）（DC24 V）※1	24 V	24 V	24 V	0 V	
	ラック起動〈デスク側〉（DC24 V）	0 V	24 V	0 V または 24 V ※5	0 V または 24 V ※5	
	ラック起動〈ラック側〉（メイク入力）※2	開放	短絡	開放または短絡	開放または短絡	
	RU＋（DC24 V）	0 V	0 V	24 V	24 V	非常用放送設備が放送時DC24 V出力
SP切換リレー ※3		非常用スピーカー側	業務用スピーカー側	非常用スピーカー側	非常用スピーカー側	
制御出力	優先表示 ※4（オープンコレクタ）	OFF	OFF	ON	ON	デスクの優先放送LED制御

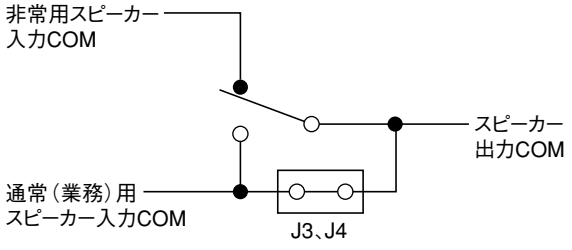
※1：EMG 24 Vブレイク（RB⊕）入力時にDC 24 V印加されていないと、SP切換制御されません。
※2：ラック起動制御入力は、ジャンパーコネクタを切り換えて、メイク入力になります。
※3：AC 100 V断（停電）時は、SP切換リレーは、非常用スピーカー側になります。
※4：優先表示出力は、RU＋（放送時24V出力）の制御入力信号で制御され、EMG 24 Vブレイク（RB＋）と無関係に単独で制御できます。
※5：調整卓の電源がON時、DC24 Vが印加されます。

■スピーカー入力の一斉（R,K0）、COMについて

- 業務用スピーカー入力は、1～5と6～10の入力共通の一斉（K0）、COMになっており、内部ジャンパー（J1、J2）で5回線毎に分離できます。
- 非常用スピーカー入力は、1～5と6～10の入力共通COMになっており、5回線毎に分離されています。また、一斉（R）は、回線毎に分離されています。

メモ

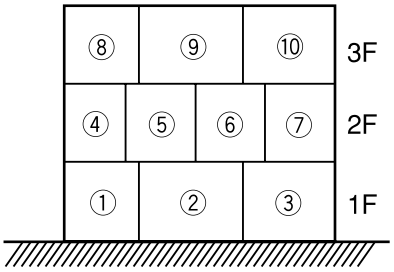
- スピーカー出力のCOMと通常（業務）用スピーカー入力のCOMはジャンパー（J3～J4）で接続されています。



■非常放送系統表の作成

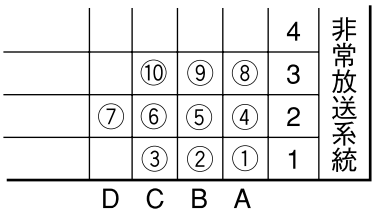
非常放送は、消防法(消防庁告示第6号)により、必要な階別に放送できなければなりません。
調整卓からの通常(業務)放送は、校内放送のため階とは関係なく回線分けされていますので、これらを階別にまとめる必要があります。

例 : ○印は調整卓の通常(業務)放送系統です。



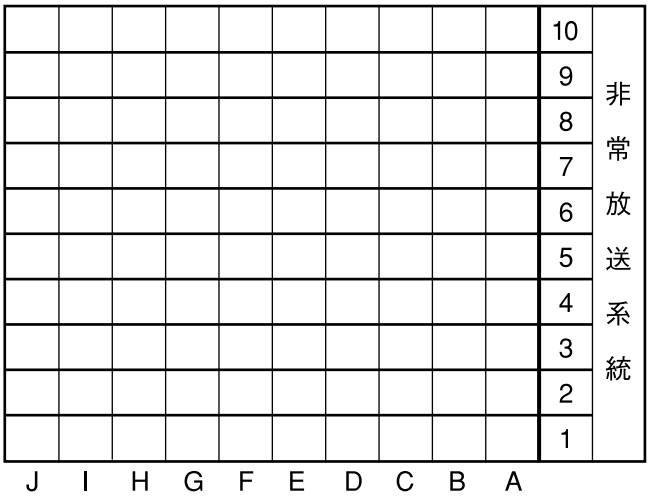
建物例

下表のように系統をまとめると、非常用放送設備のスイッチひとつでいくつかの通常(業務)放送系統スピーカーに出力させることができます。



●非常放送系統表

工事の前に、建物の通常(業務)放送系統表を作成してください。
右表は、必要に応じてコピーしてお使いください。

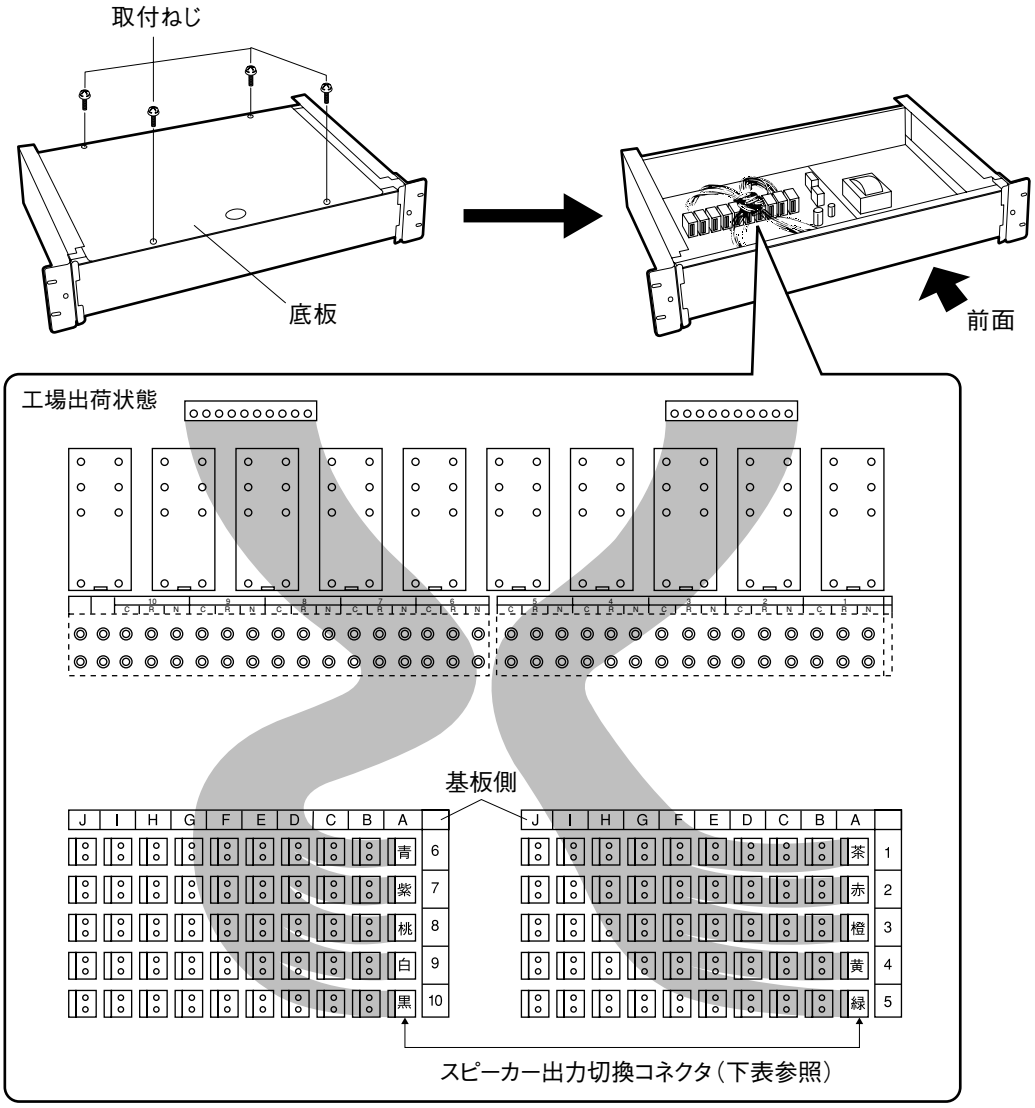


非常用放送設備との接続［AV-7031］内部設定

■通常（業務）放送の配線

作成した非常放送系統表（57ページ参照）にしたがって、通常（業務）放送回線の配線をします。

1. 取付ねじ4個所をはずして、底板をはずす。



スピーカー出力切換コネクタ　　基板側

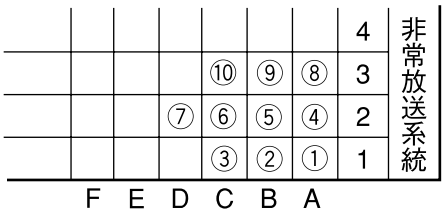
通常（業務）放送系統		非常放送系統									
SP出力	コネクタ線色	非常SP	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	茶	1	○									
2	赤	2	○									
3	橙	3	○									
4	黄	4	○									
5	緑	5	○									
6	青	6	○									
7	紫	7	○									
8	桃	8	○									
9	白	9	○									
10	黒	10	○									

↑
カラーコード順

※工場出荷時は、非常1回線につき通常（業務）放送1回線となるように配線されています。(工場出荷時は、すべて「A」に設定)
設定に応じて、コネクタの接続を変えてください。

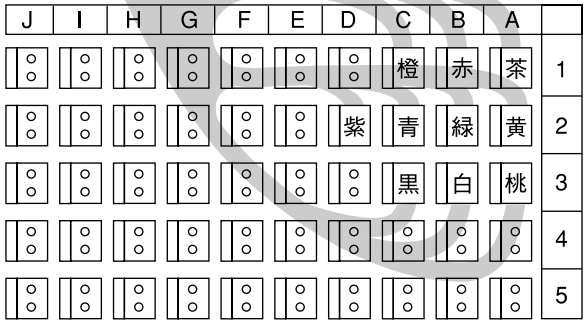
2. スピーカー出力切換コネクタを差し換える。

作成した非常放送系統表(57ページ参照)にしたがって、スピーカー出力切換コネクタを差し換えます。

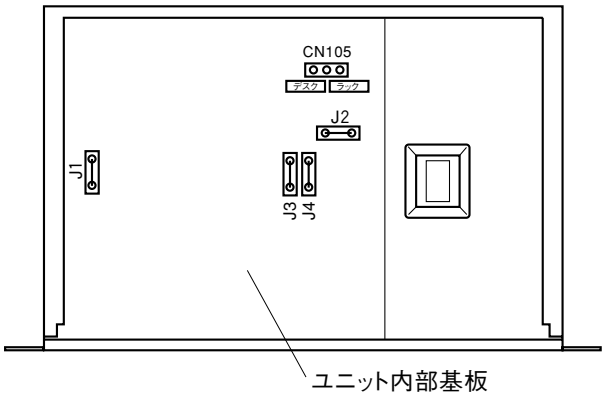


非常放送系統表(例)

スピーカー出力切換コネクタ



■内部ジャンパーの設定



ジャンパー	接続内容
J1	業務用スピーカー入力 1～5のK0と6～10のK0間
J2	業務用スピーカー入力 1～5のCOMと6～10のCOM間
J3	スピーカー出力1～5のCOMと 業務用スピーカー入力1～5のCOM間
J4	スピーカー出力6～10のCOMと 業務用スピーカー入力6～10のCOM間

●スピーカー回線を5回線ごとに分離し放送系統を分ける場合

ジャンパー（J1,J2）をニッパーなどで切断します。

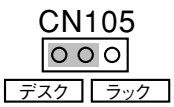
●非常用スピーカー入力と業務用スピーカー入力のスピーカーCOMを完全に分離する場合

ジャンパー（J3、J4）をニッパーなどで切断します。

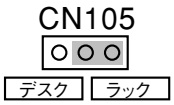
●ラック起動の設定

外部制御端子のラック起動を、DC24V入力または、メイク（短絡）入力で制御する場合、
ジャンパーコネクタ CN105 を差し換えます。

DC 24 V入力の場合 : デスク 側に差し換え
(工場出荷時設定)



メイク(短絡)入力の場合 : ラック 側に差し換え

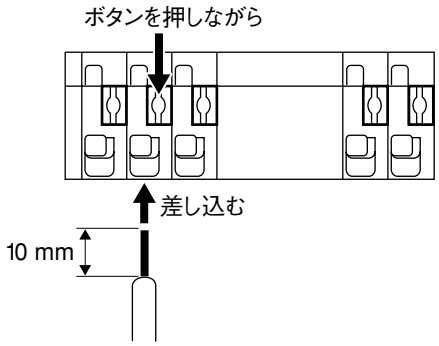


非常用放送設備との接続［AV-7031］
接続のしかた

■スピーカー入出力端子の接続

端子台のボタンをマイナスドライバーなどで
押しながら、線材を抜き差しします。
線材のむきしろが製品本体に触れないように、
奥に突き当たるまで差し込んでください。

- 接 続 可 能 電 線 : 単線φ0.65 mm～φ1.6 mm
  (AWG22～AWG14)
- 電線被覆むきしろ : 10 mm



●より線を使用する場合

単線専用のため、より線を使用する場合は、はんだ処理するか絶縁被覆付棒端子[現地調達]を圧着してから接続してください。

[現地調達]
ニ チ フ (株) 製
- 絶縁被覆付棒端子……TMEVTC-0.5　[圧着工具 : NH-5]
  TMENTC-0.5　[圧着工具 : NH-5]

●複数接続する場合

単線で1本のみ接続できます。
複数接続する場合は、スリーブまたはフルコネクタ(差込形コネクタ)を使用し[現地調達]、1本にまとめてから配線してください。

[現地調達]
松下電工(株) 製
- スリーブ(小) ……WV-2007　[絶縁キャップ : WV-2237]
- スリーブ(中) ……WV-2008　[絶縁キャップ : WV-2239]

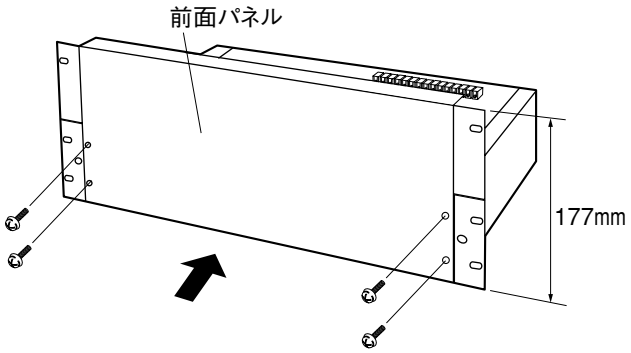
ワゴジャパン(株) 製
- 差込形コネクター(5線形)……273-101　0.75 ㎟～1.5 ㎟単線/AWG20～16
- 差込形コネクター(3線形)……WGT3　1 ㎟～2.5 ㎟単線/AWG18～12
- 差込形コネクター(4線形)……WGT4　1 ㎟～2.5 ㎟単線/AWG18～12
- 差込形コネクター(5線形)……WGT5　1 ㎟～2.5 ㎟単線/AWG18～12

収納のしかた

本機を調整卓または非常用放送設備に収納します。
収納寸法は、4U（177 mm）です。

お願い

収納する機器の説明書を合わせてご参照ください。

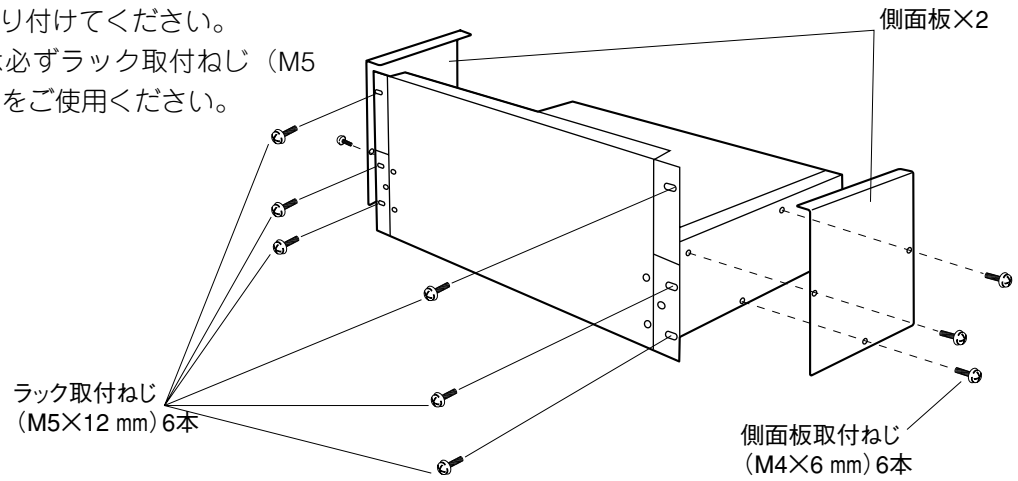


●前面パネルの取付

前面のねじ4本をはずして、前面パネルを取り付けます。

●ラックに収納するときは

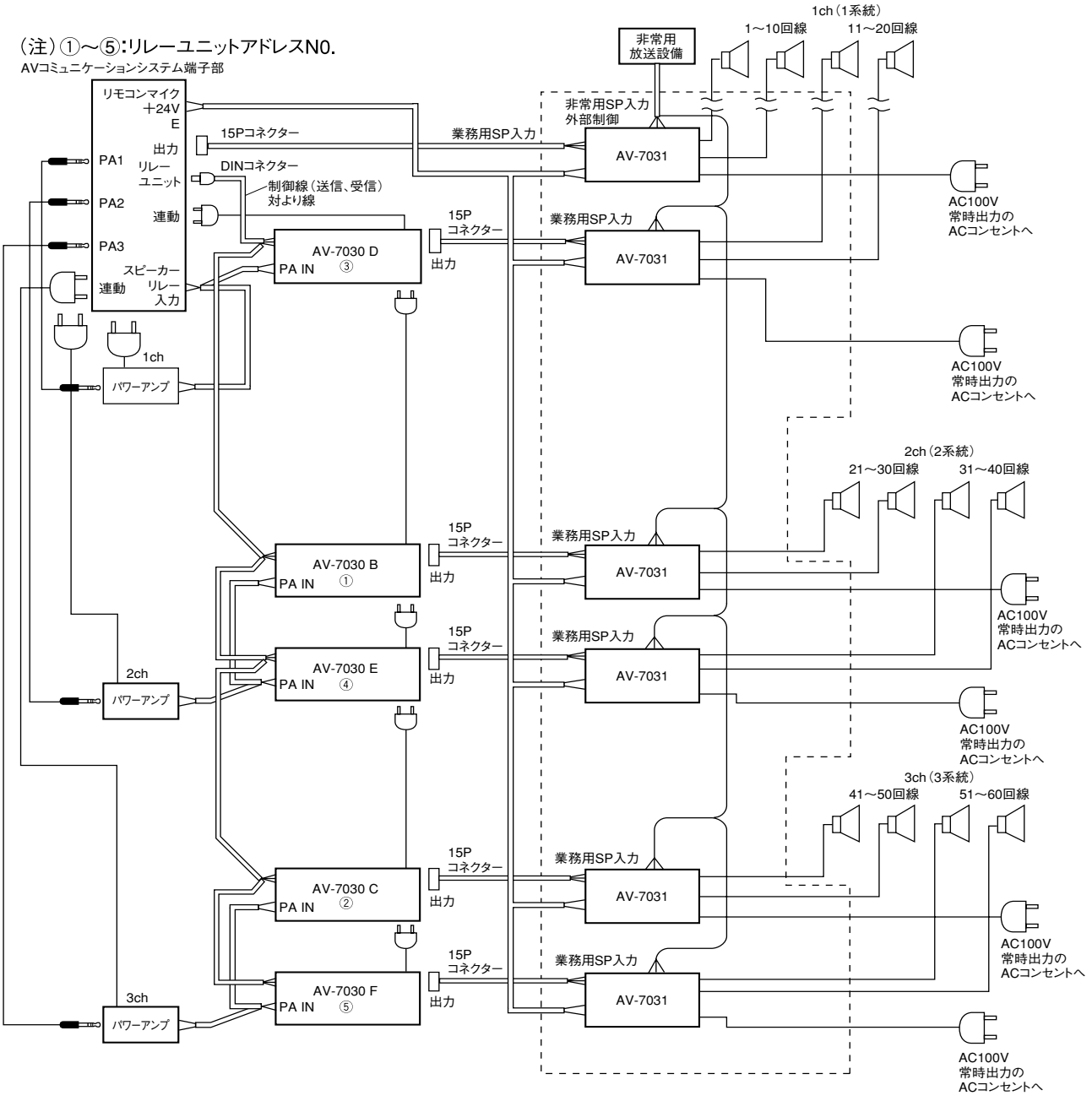
- 上のユニットの安定性を確保するために、側面板(付属品)を側面板取付ねじ（M4×6 mm）6本（付属品）で両側面に取り付けてください。
- ラックマウント時には必ずラック取付ねじ（M5×12 mm）6本（付属品）をご使用ください。



非常用放送設備との接続［AV-7031］
接続例

■10回線スピーカー切換器を使って非常用放送設備と接続した例

- パワーアンプ(PA)は非常用放送設備、AVコミュニケーションシステムの両方に持ちます。
- 非常系統、AVコミュニケーションシステムの出力は、1系統あたり最大360 Wまでです。
- AV-7031内部基板のラック起動の設定CN105は、デスク側(工場出荷時設定)です。
- AV-7100の「リモコンマイク用：＋24V端子とGND端子」をAV-7031の「ラック起動端子とE端子」に接続します。
- AV-7100、およびAV-7030のスピーカーリレー入力端子(CとK2間)に付いているショート金具は外さないでください。
- AV-7030のアドレス設定(31ページ参照)と、AV-7100のディップスイッチ設定(30ページ参照)を必ず行なってください。
- AV-7031をAVコミュニケーションシステム側に収納する場合は、非常用放送設備との接続線に耐熱ケーブル(現地調達)を使用してください。

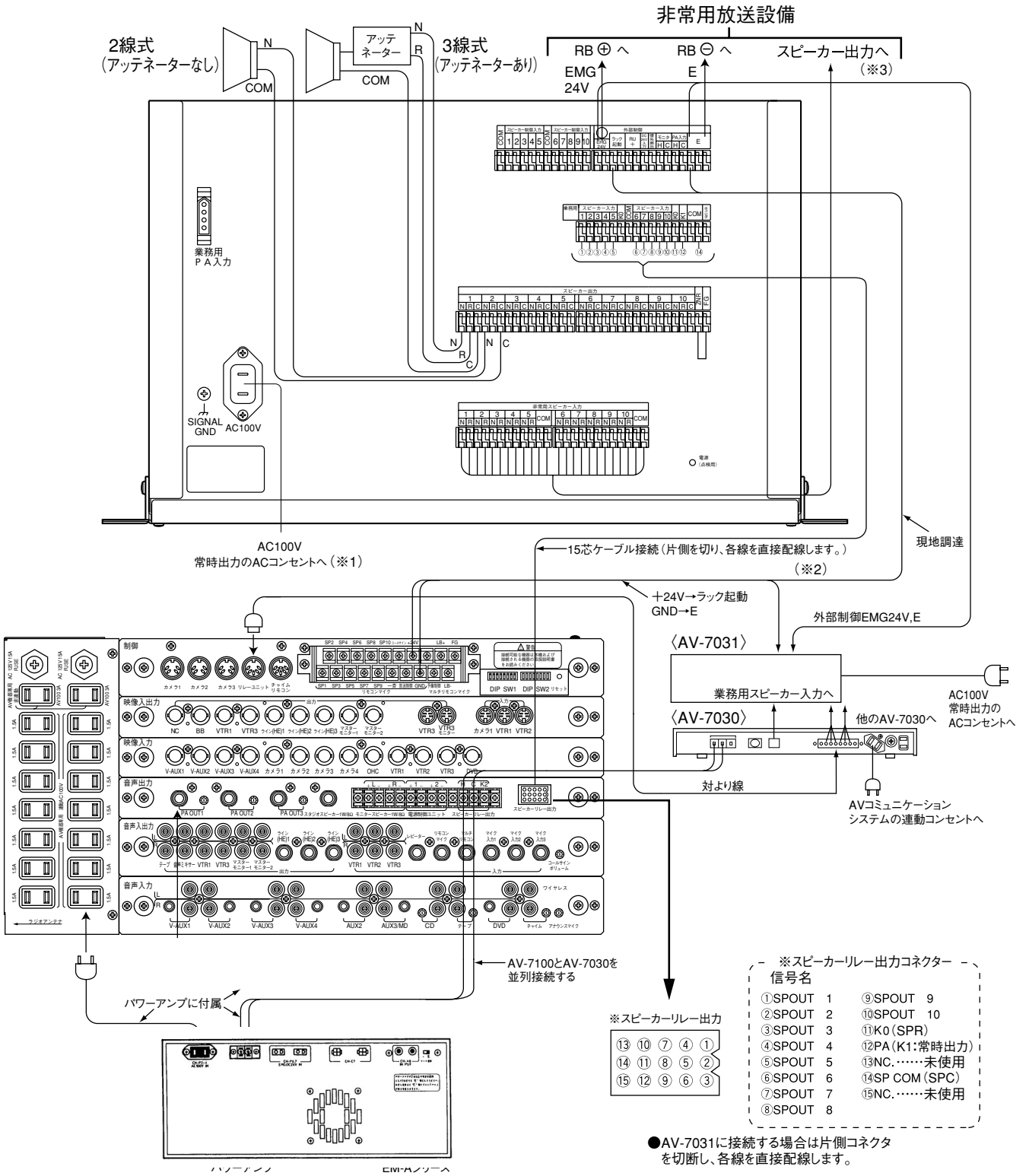


●パワーアンプEM-Aシリーズを複数台接続する場合は、全てのパワーアンプ間をCN-C7ケーブルで接続します。

●接続例（1chのみ）

非常用放送設備からのCOM（SPC）線（※3）

AV-7031がAV調整卓側に設置される場合には、COM（SPC）線は回線数分接続し、5本づつ1本にまとめてからAV-7032の端子に接続します。（60ページ参照）



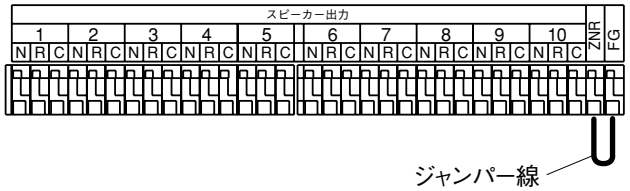
●AV-7031をAV調整卓側に収納し、AC電源をAV調整卓と連動するACコンセントに接続する場合（※1）は、（※2）の接続を廃止し、外部制御の「ラック起動」端子と「E」端子間をジャンパー線で接続してください。この場合は、AV-7031内部基板のCN22を ラック 側にします。（59ページ参照）工場出荷設定は デスク 側になっています。

●パワーアンプEM-Aシリーズを複数台接続する場合は、全てのパワーアンプ間をCN-C7ケーブルで接続します。

非常用放送設備との接続［AV-7031］
動作確認

■スピーカー回線の絶縁耐力・絶縁抵抗試験

- スピーカー出力端子台のZNRとFG間のジャンパー線をはずして、試験を行なってください。
- はずしたジャンパー線は、試験後もとに戻してください。

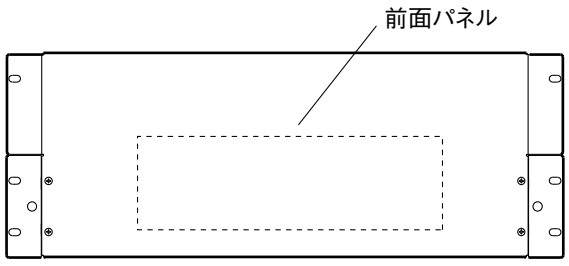


ご注意

- スピーカー接続端子には、雷サージおよび静電気保護のためにシャーシとの間に、ZNR（サージアブソーバー）が取り付けられています。非常用放送設備側の絶縁抵抗試験時には、非常用放送設備側のコネクタもはずしてから、行なってください。（非常用放送設備の工事説明書 参照）はずさないで試験を行うと試験結果はNGとなります。
  また、絶縁抵抗試験は配線の片側と大地間で行ないます。配線相互間で行うと接続されている機器（含む本機）を破損する場合があります。
- AV-7031で、非常用スピーカー入力と業務用スピーカー入力のスピーカーコモン（COM）が接続されているため、業務用スピーカー入力側も同時に絶縁耐力絶縁抵抗試験が印加されます。業務用スピーカー入力側を切り離すか、ジャンパー（J3、J4）を切断する（内部ジャンパーの設定59ページ参照）ことにより、業務用スピーカー側に印加されなくなります。
  スピーカー制御入力端子を使用時は、ジャンパー（J3、J4）は切断しません。

記名シートの使いかた

記名シート（付属品）に各スピーカー入出力の放送場所を記入します。
本機は、10回線です。表のヌキ文字欄（1〜10）を使用してください。
前面パネル裏側に貼り付けます。



記名シート

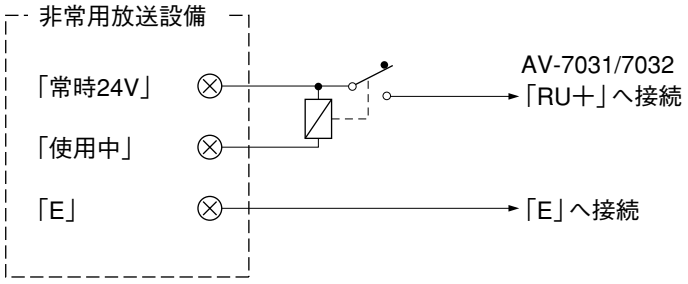
非常用スピーカー入力						スピーカー出力					
1		11		21		1		11		21	
2		12		22		2		12		22	
3		13		23		3		13		23	
4		14		24		4		14		24	
5		15		25		5		15		25	
6		16		26		6		16		26	
7		17		27		7		17		27	
8		18		28		8		18		28	
9		19		29		9		19		29	
10		20		30		10		20		30	

業務用スピーカー入力（デスク側）					
1ch		2ch		3ch	
1		1		1	
2		2		2	
3		3		3	
4		4		4	
5		5		5	
6		6		6	
7		7		7	
8		8		8	
9		9		9	
10		10		10	

非常用放送設備との接続 [AV-7031／7032] 接続のしかた

■通常（業務）放送の優先順位の変更

AVコミュニケーションシステム（調整卓）からの放送より非常放送設備からの通常（業務）放送の優先順位を上げるには、スピーカー切換器 AV-7031/7032 の「RU＋」端子に、非常用放送設備からの「通常および非常放送」時に DC24V を印加する必要があります。
ビクター製非常用放送設備の場合は「放送時24V出力：RU＋」がありません。
非常放送設備からの通常（業務）放送の優先順位を上げる場合には、下記のようにリレーを増設して対応してください。



ご注意

- 増設用のリレーを取り付ける場所は用意されておりません。危険のない場所に固定し、配線をしてください。
- RU＋の制御電流は、「DC24 V 約 3 mA」です。

非常用放送設備との接続［AV-7032］
設置工事の前に

■優先順位について

●パワーアンプを共用しない場合

	放送内容	RU十を接続しない	RU十を「放送時 24V 出力」で制御 ※1
		増設リレー不要	増設リレー必要
非常用放送設備からの放送	非常放送	1	1
	通常(業務)放送	3	2
AVコミュニケーションシステム(調整卓)からの放送	通常(業務)放送	2	3

●パワーアンプを共用する場合

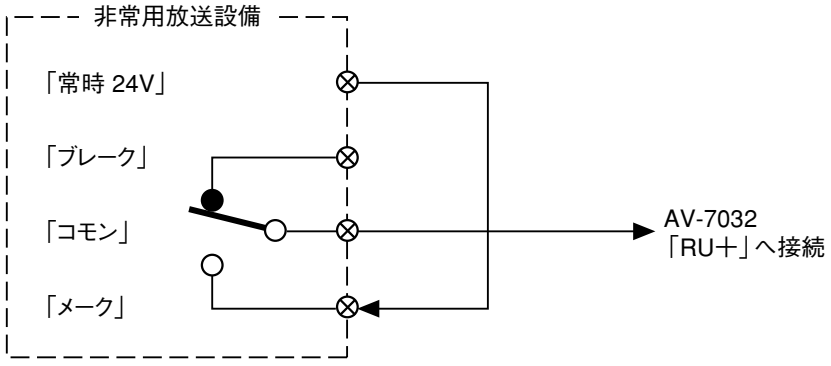
	放送内容	RU十を「非常時 24V 出力」で制御 ※2	RU十を「放送時 24V 出力」で制御 ※1
		増設リレー不要	増設リレー必要
非常用放送設備からの放送	非常放送	1	1
	通常(業務)放送	3	2
AVコミュニケーションシステム(調整卓)からの放送	通常(業務)放送	2	3

ご注意

- 通常(業務)放送とは、非常放送以外の一般放送のことです。
  通常放送内の優先順位は、各システムで設定してください。
  AVコミュニケーションシステムでは、各リモコン放送(チャイム、リモコンマイク、マルチリモコンマイク)の優先順位をオフライン機能で設定できます。
- 「RU十」の制御について

※1「放送時 24V 出力」は、非常用放送設備からの「通常および非常放送」時にDC24V を出力する制御出力です。
ビクター製非常用放送設備の場合は「放送時24V出力：RU十」がありませんので、リレーの増設が必要になります。(65ページ参照)

※2「非常時 24V 出力」は、非常用放送設備からの「非常放送」時にDC24V を出力する制御出力です。
非常用放送設備の「常時 24V」と「非常時リレー端子（メーク側)」を使用して下図のように接続します。(79ページ参照)

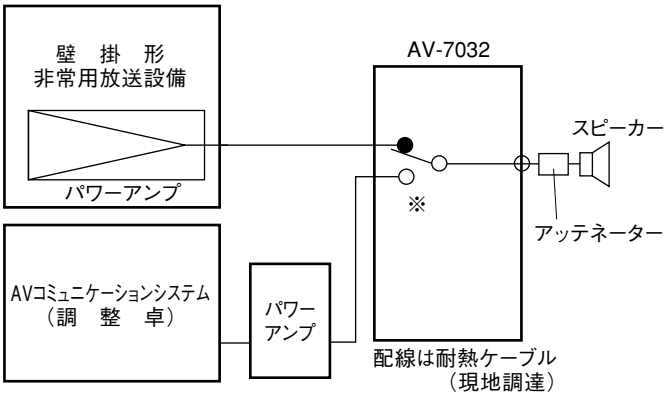


■動作のしかた

調整卓からの通常(業務)放送と非常用放送設備からの非常放送をAV-7032のリレーで切り換えます。
(通常(業務)放送30回線、非常放送30回線)

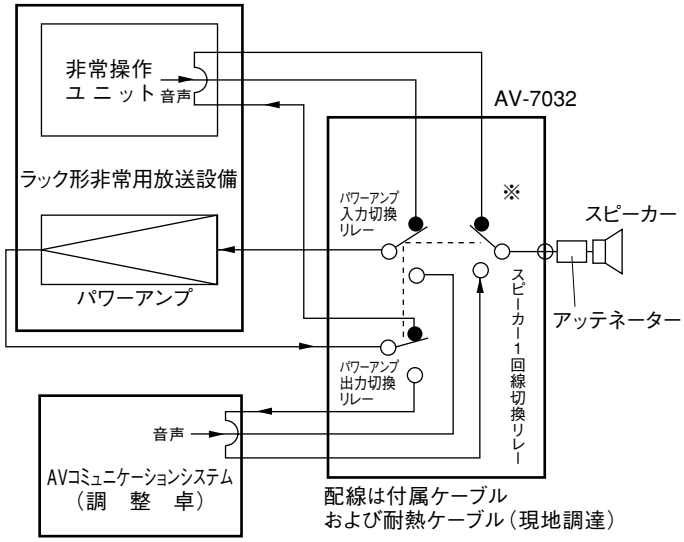
●壁掛形非常用放送設備と組み合わせた場合

調整卓内のパワーアンプと壁掛形非常用放送設備内のパワーアンプを切り換えることにより、通常(業務)放送と非常放送を切り換えます。



●ラック形非常用放送設備と組み合わせた場合

ラック形非常用放送設備に収納したパワーアンプを共用します。そのため、AV-7032内では通常 (業務)放送または非常放送のスピーカーラインの切換の他に調整卓からの音声線と非常操作ユニットからの音声線の切り換えもします。

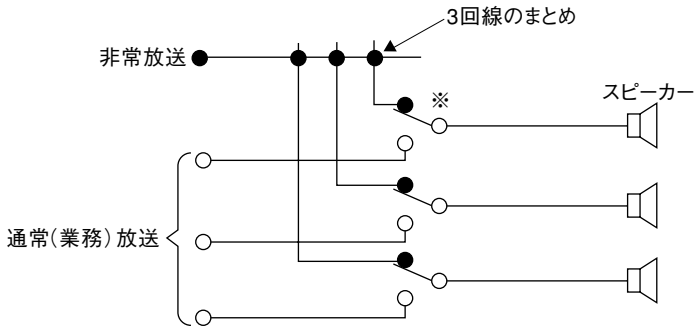


●本機内で通常(業務)放送と非常放送を組み合わせることができます。

非常放送は、消防法(消防庁告示第6号)により、必要な階別に放送できなければなりません。調整卓からの通常(業務)放送は校内放送のため、階とは関係なく配線されていますので、これらを階別にまとめる必要があります。

例 : 通常(業務)放送3回線を非常放送1回線にまとめる(右図参照)

工場出荷時には、非常1回線につき通常(業務)放送1回線となるように配線してあります。



※AC100V断(停電)時は、SP切換リレーは、非常放送側になります。

非常用放送設備との接続［AV-7032］
設置工事の前に

■スピーカー切換器の制御動作

		待機状態（電源ON）	通常（業務）放送時			非常放送時	備考
			調整卓（デスク）	非常用放送設備	デスク・チャイム		
制御入力	EMG24 Vブレイク（RB⊕）（DC24 V）※1	24 V	24 V	24 V	24 V	0 V	
	ラック起動〈デスク側〉（DC24 V）	0 V	24 V	0 V または 24 V ※6	24 V	0 V または 24V ※6	
	ラック起動〈ラック側〉（メイク入力）※2	開放	短絡	開放または短絡	短絡	開放または短絡	
	RU＋（DC24 V）	0 V	0 V	24 V	0 V または 24 V	24 V ※8	非常用放送設備が放送時DC24 V出力
	チャイム優先（メイク入力）	開放	開放	開放	短絡	開放	
SP切換リレー ※3		非常用スピーカー入力側	業務用スピーカー入力側	非常用スピーカー入力側	業務用スピーカー入力側	非常用スピーカー入力側	
制御出力	PWR OUT ※4（オープンコレクタ）	OFF	ON	OFF または ON ※7	ON	OFF または ON ※7	非常用放送設備側のPA電源制御
	優先放送 ※5（オープンコレクタ）	OFF	OFF	ON	OFF	ON	デスクの優先放送LED制御

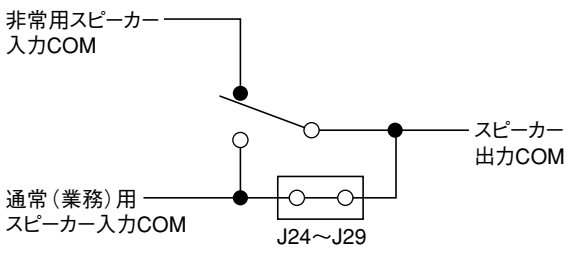
※1：EMG 24 Vブレイク入力（RB⊕）時にDC 24 V印加されていないと、SP切換制御されません。
※2：ラック起動制御入力は、ジャンパーコネクタを切り換えて、メイク入力になります。（73ページ参照）
※3：AC 100 V断（停電）時は、SP切換リレーは、非常用スピーカー側になります。
※4：PWR OUT出力は、ラック起動の制御入力信号で単独制御されています。
※5：優先放送出力は、RU＋（放送時24V出力）とチャイム優先の制御入力信号で制御され、EMG 24 Vブレイク（RB⊕）と無関係に単独で制御できます。
優先順位は、1位：チャイム優先、2位：RU＋です。
※6：音声卓の電源がON時、DC24 Vが印加されます。
※7：ラック起動が24 Vまたは短絡時、ONになります。
※8：パワーアンプを共用する場合には、非常放送時に必ずDC24Vを印加する必要があります。

■スピーカー入力の一斉（R,K0）、COMについて

- 業務用スピーカー入力は、1～5と6～10の入力共通の一斉（K0）、COMになっており、内部ジャンパー（J11～J20）で5回線ごとに分離できます。
- 非常用スピーカー入力のCOMは、5回線ごとに共通COMで分離されています。また、一斉（R）は、回線ごとに分離されています。

メモ

- スピーカー出力のCOMと業務用スピーカー入力のCOMはジャンパー（J24～J29）で接続されています。

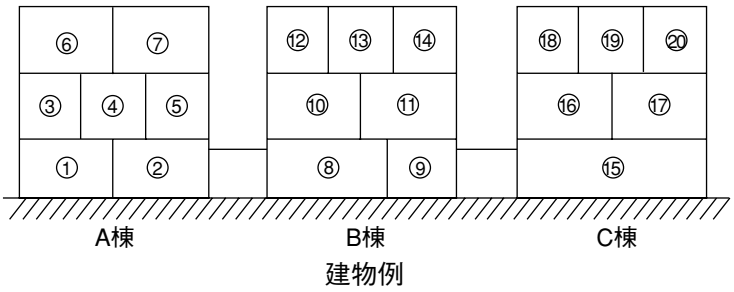


■非常放送系統表の作成

非常放送は、消防法(消防庁告示第6号)により、必要な階別に放送できなければなりません。
調整卓からの通常(業務)放送は、校内放送のため階とは関係なく回線分けされていますので、これらを階別にまとめる必要があります。

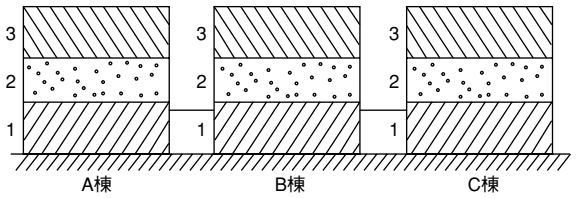
例：○印は調整卓通常(業務)放送系統です。

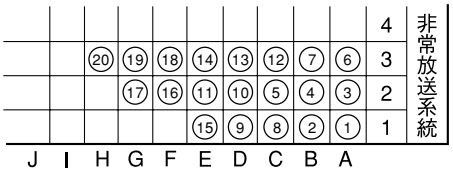
右記のように系統をまとめると、非常用放送設備のスイッチひとつでいくつかの通常(業務)放送系統スピーカーに出力させることができます。



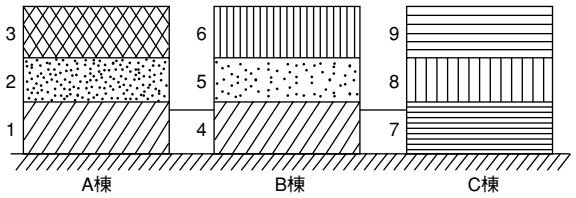
建物例

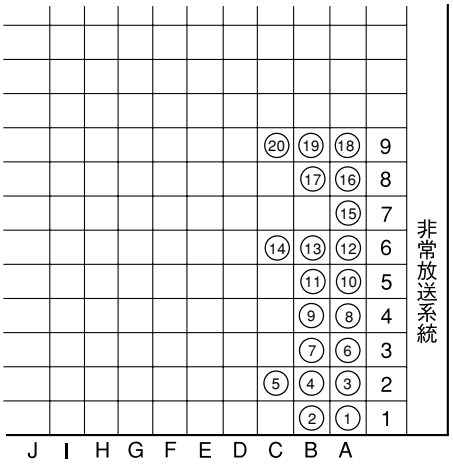
●棟に関係なく階別放送をする場合





●棟別に階別放送をする場合





メモ

この場合、非常用放送設備にて、出火階、連動階をこの建物に合わせた設定に書き込んでください。

非常用放送設備との接続［AV-7032］
設置工事の前に

●非常放送系統表

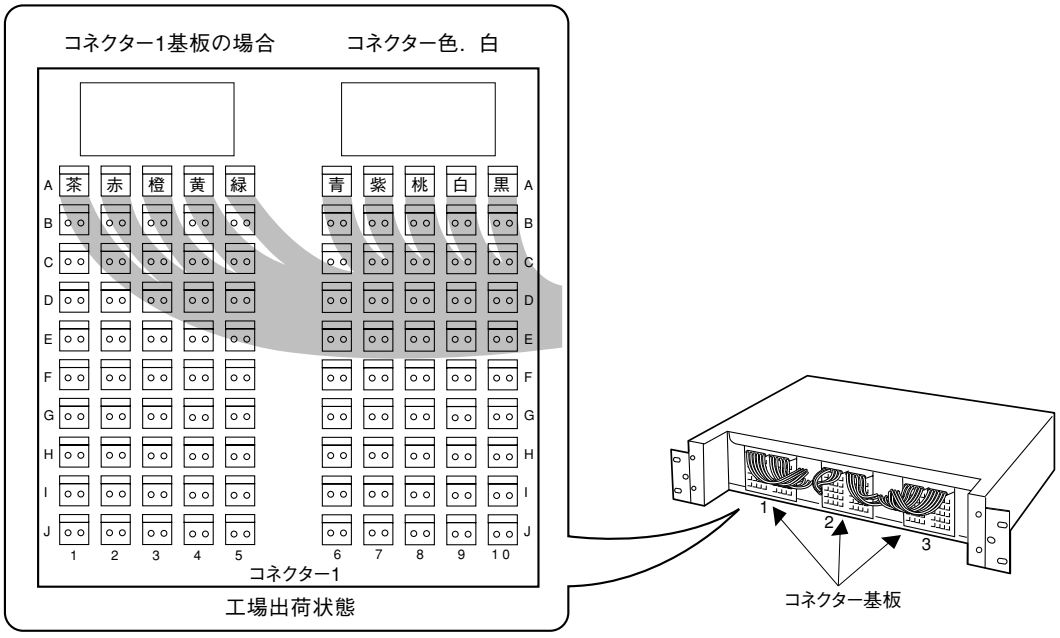
工事の前に、建物の業務放送系統表を作成してください。
右表は、必要に応じてコピーしてお使いください。

										30	非常放送系統
										29	
										28	
										27	
										26	
										25	
										24	
										23	
										22	
										21	
										20	
										19	
										18	
										17	
										16	
										15	
										14	
										13	
										12	
										11	
										10	
										9	
										8	
										7	
										6	
										5	
										4	
										3	
										2	
										1	
J	I	H	G	F	E	D	C	B	A		

内部設定

■通常（業務）放送の配線

作成した非常放送系統表にしたがって、通常（業務）放送回線の配線をします。



内部設定

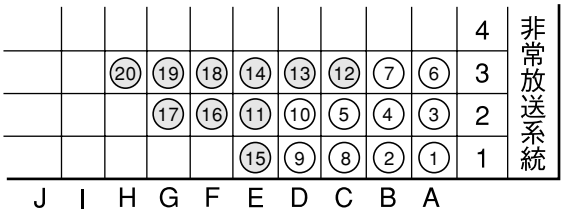
スピーカー出力切換コネクター　　基板側

通常(業務)放送系統			非常放送系統											
SP出力	コネクター	コネクター線色	非常SP	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	基板
1	白	茶	1	○										コネクター1
2		赤	2	○										
3		橙	3	○										
4		黄	4	○										
5		緑	5	○										
6		青	6	○										
7		紫	7	○										
8		桃	8	○										
9		白	9	○										
10		黒	10	○										
11	黒	茶	11	○										コネクター2
12		赤	12	○										
13		橙	13	○										
14		黄	14	○										
15		緑	15	○										
16		青	16	○										
17		紫	17	○										
18		桃	18	○										
19		白	19	○										
20		黒	20	○										
21	青	茶	21	○										コネクター3
22		赤	22	○										
23		橙	23	○										
24		黄	24	○										
25		緑	25	○										
26		青	26	○										
27		紫	27	○										
28		桃	28	○										
29		白	29	○										
30		黒	30	○										

↑
カラーコード順

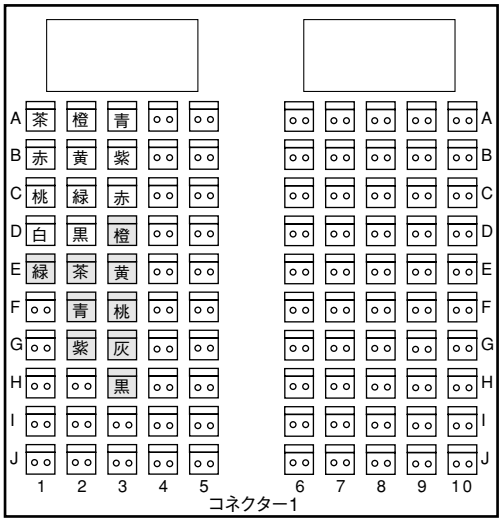
※工場出荷時は、非常1回線につき通常(業務)放送1回線となるように配線されています。(工場出荷時はすべて「A」に設定)設定に応じて、コネクターの接続を変えてください。

作成した非常放送系統表（70ページ参照）に従って、スピーカー出力切換コネクターを差し換えます。



非常放送系統表(例)

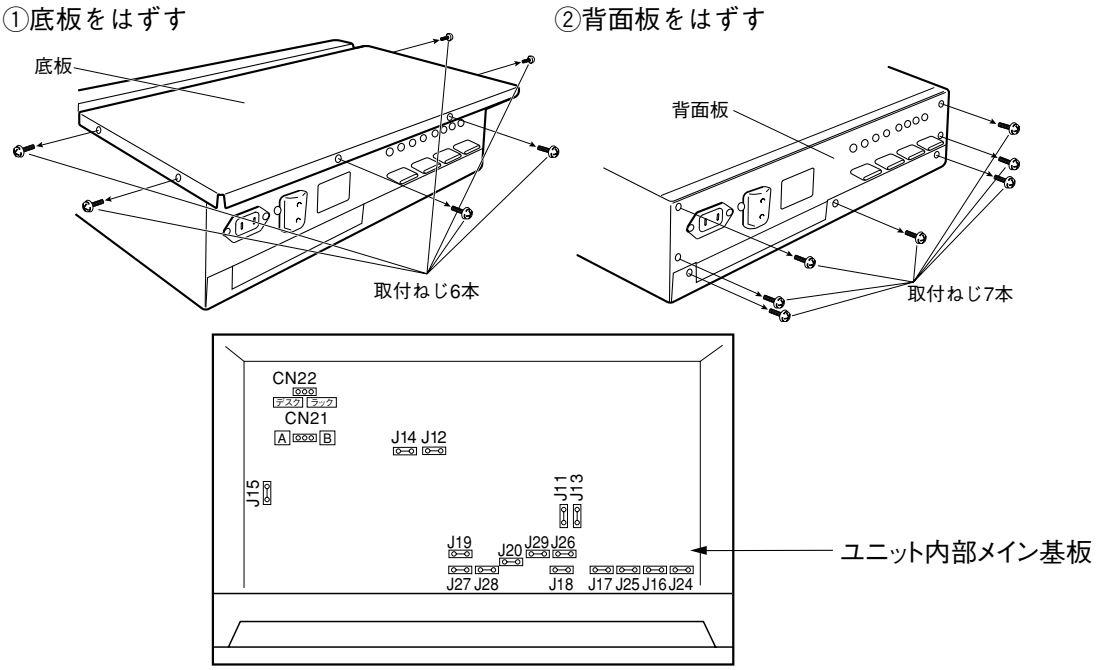
①～⑩　コネクター色：白
⑪～⑳　コネクター色：黒



非常用放送設備との接続［AV-7032］内部設定

■内部ジャンパーの設定

内部ジャンパーの設定は、背面板をはずして行なってください。



ジャンパー	接続内容	
J11	業務スピーカーのK0間（SPR）	1～5のK0と6～10のK0間
J12		6～10のK0と11～15のK0間
J13		11～15のK0と16～20のK0間
J14		16～20のK0と21～25のK0間
J15		21～25のK0と26～30のK0間
J16	業務スピーカー入力のCOM間（SPC）	1～5のCOMと6～10のCOM間
J17		6～10のCOMと11～15のCOM間
J18		11～15のCOMと16～20のCOM間
J19		16～20のCOMと21～25のCOM間
J20		21～25のCOMと26～30のCOM間
J24	スピーカー出力と業務スピーカー入力のCOM間（SPC）	1～5のCOM
J25		6～10のCOM
J26		11～15のCOM
J27		16～20のCOM
J28		21～25のCOM
J29		26～30のCOM

●出力系統の分離

工場出荷時は、調整卓1系統30回線に設定されています。

●調整卓2系統、3系統の場合（10回線毎に分離）

ジャンパー 4本（J12,J14,J17,J19）をニッパーなどで切断します。

●スピーカー回線を5回線ごとに分離し放送系統を分ける場合

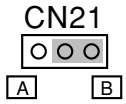
ジャンパー J11～J20をニッパーなどで切断します。

●非常用スピーカー入力と業務用スピーカー入力のスピーカーコモン（COM）を完全に分離する場合

ジャンパー（J24～J29）をニッパーなどで切断します。

●モニター設定

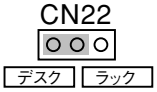
調整卓が2系統または3系統の場合、モニターを系統別に分けるため、ジャンパーコネクター CN21 を B 側に差し換えます。
工場出荷時は、A 側に挿入されています。



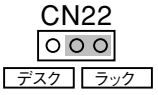
●ラック起動の設定

外部制御端子のラック起動を、DC24V入力または、メイク（短絡）入力で制御する場合、ジャンパーコネクター CN22 を差し換えます。

DC24V入力の場合：デスク 側に差し換え
（工場出荷時設定）



メイク（短絡）入力の場合：ラック 側に差し換え

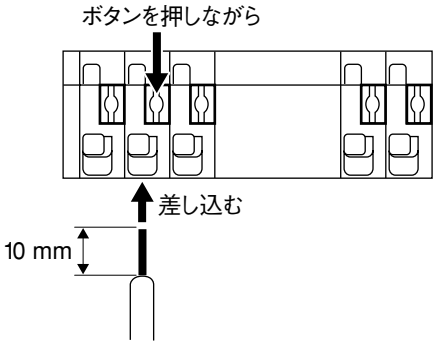


非常用放送設備との接続［AV-7032］内部設定

■スピーカー入出力端子の接続

端子台のボタンをマイナスドライバーなどで押しながら、線材を抜き差しします。
線材のむきしろが製品本体に触れないように、奥に突き当たるまで差し込んでください。

- 接続可能電線：単線φ0.65 mm～φ1.6 mm（AWG22～AWG14）
- 電線被覆むきしろ：10 mm



●より線を使用する場合

単線専用のため、より線を使用する場合は、はんだ処理するか絶縁被覆付棒端子[現地調達]を圧着してから接続してください。

[現地調達]
ニチフ(株) 製
- 絶縁被覆付棒端子……TMEVTC-0.5　[圧着工具：NH-5]
  TMENTC-0.5　[圧着工具：NH-5]

●複数接続する場合

単線で1本のみ接続できます。
複数接続する場合は、スリーブまたはフルコネクター(差込形コネクター)を使用し[現地調達]、1本にまとめてから配線してください。

[現地調達]
松下電工(株) 製
- スリーブ(小) ……WV-2007　[絶縁キャップ：WV-2237]
- スリーブ(中) ……WV-2008　[絶縁キャップ：WV-2239]

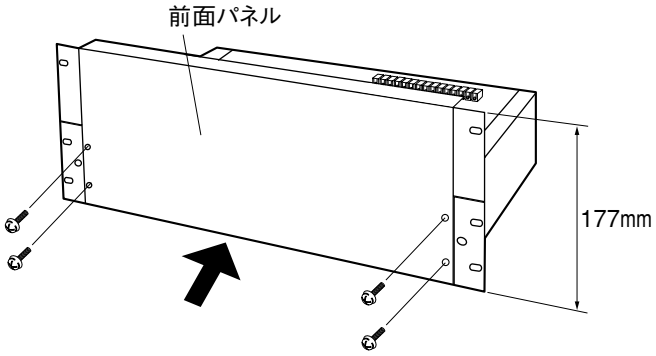
ワゴジャパン(株) 製
- 差込形コネクター(5線形)……273-101　0.75 ㎟～1.5 ㎟ 単線/AWG20～16
- 差込形コネクター(3線形)……WGT3　1 ㎟～2.5 ㎟ 単線/AWG18～12
- 差込形コネクター(4線形)……WGT4　1 ㎟～2.5 ㎟ 単線/AWG18～12
- 差込形コネクター(5線形)……WGT5　1 ㎟～2.5 ㎟ 単線/AWG18～12

収納のしかた

本機を調整卓または非常用放送設備に収納します。
収納寸法は、4U（177 mm）です。

お願い

収納する機器の説明書を合わせてご参照ください。

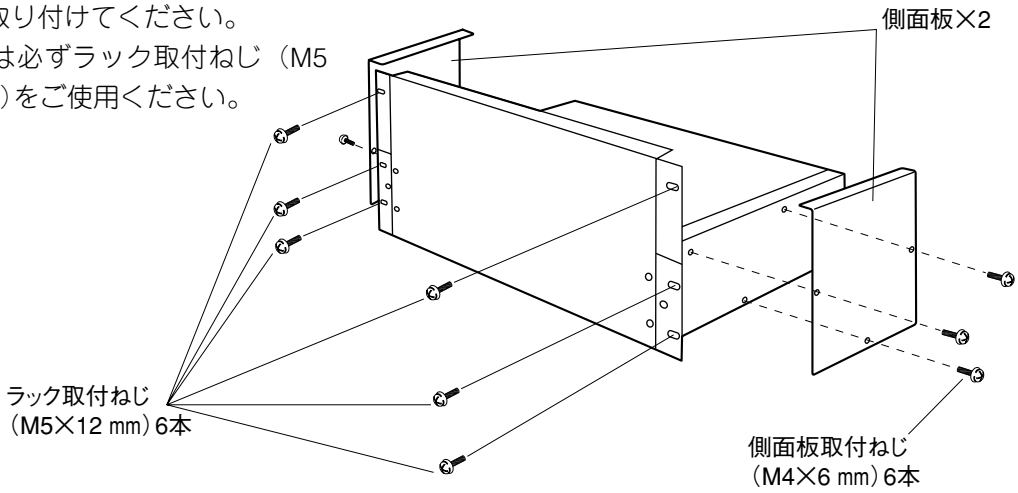


●前面パネルの取付

前面のねじ4本をはずして、前面パネルを取り付けます。

●ラックに収納するときは

- 上のユニットの安定性を確保するために、側面板(付属品)を側面板取付ねじ（M4×6 mm）6本（付属品）で両側面に取り付けてください。
- ラックマウント時には必ずラック取付ねじ（M5×12 mm）6本（付属品）をご使用ください。



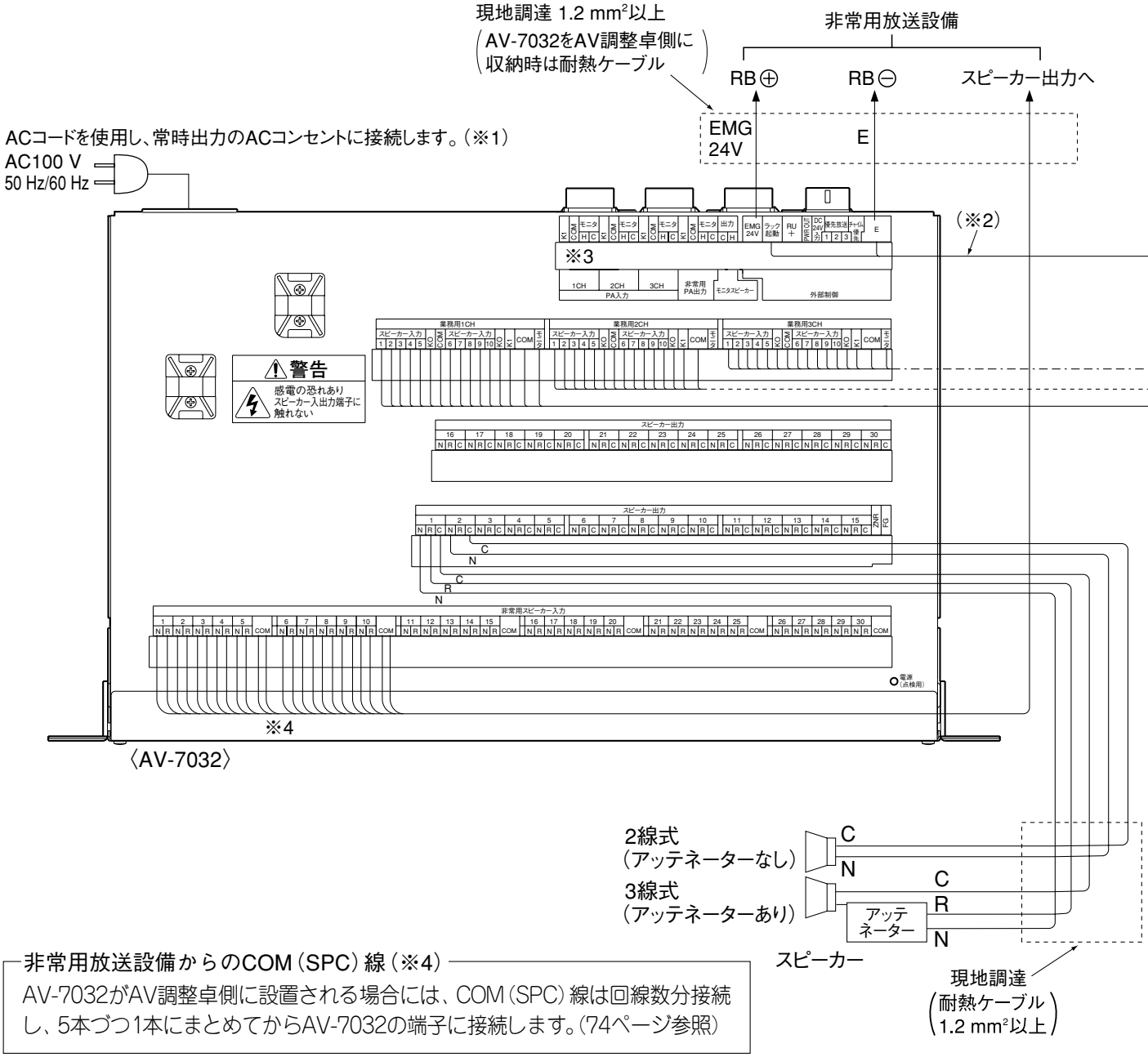
非常用放送設備との接続［AV-7032］
接続例

■30回線スピーカー切換器を使って非常用放送設備と接続した例

- パワーアンプ(PA)は、非常用放送設備・調整卓の両方に持ちます。
- 非常系統、調整卓の出力は1系統あたり最大360Wまでです。
- 放送室に非常専用のスピーカーが必要です。
  (放送室の階の系統へ接続)

接続ケーブル
- 1系統調整卓 ———
- 2系統または1系統20回線調整卓 ——、- - - - -
- 3系統または1系統30回線調整卓 ——、- - - -、-・-

※3
パワーアンプが1台の1系統11回線以上の接続について
- 1系統20回線の場合：PA入力1chと2chのK1間及びCOM間を、それぞれ渡り配線します。
- 1系統30回線の場合：PA入力1chと2chと3chのK1間及びCOM間を、それぞれ渡り配線します。

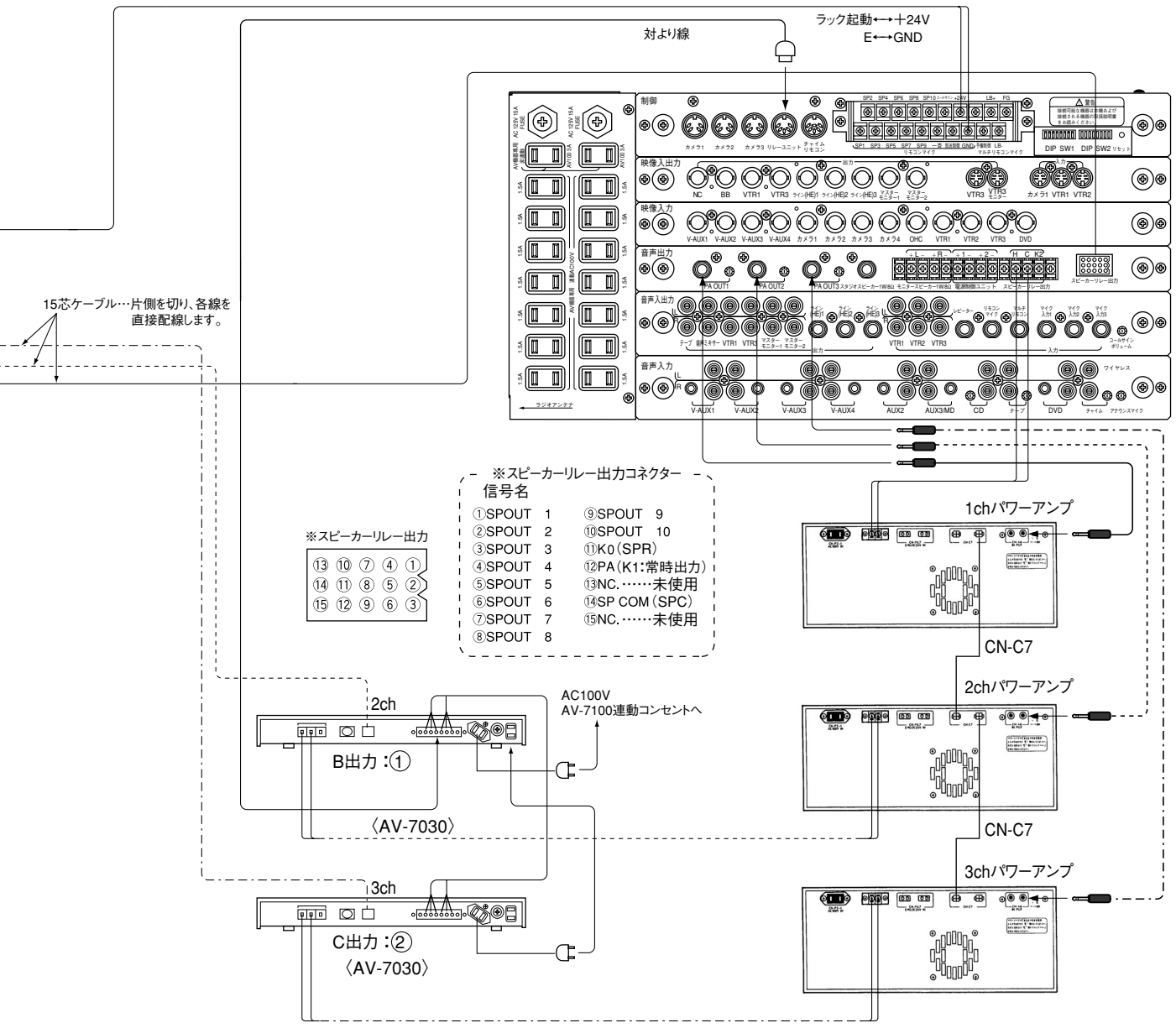


非常用放送設備からのCOM(SPC)線(※4)

AV-7032がAV調整卓側に設置される場合には、COM(SPC)線は回線数分接続し、5本づつ1本にまとめてからAV-7032の端子に接続します。(74ページ参照)

お願い

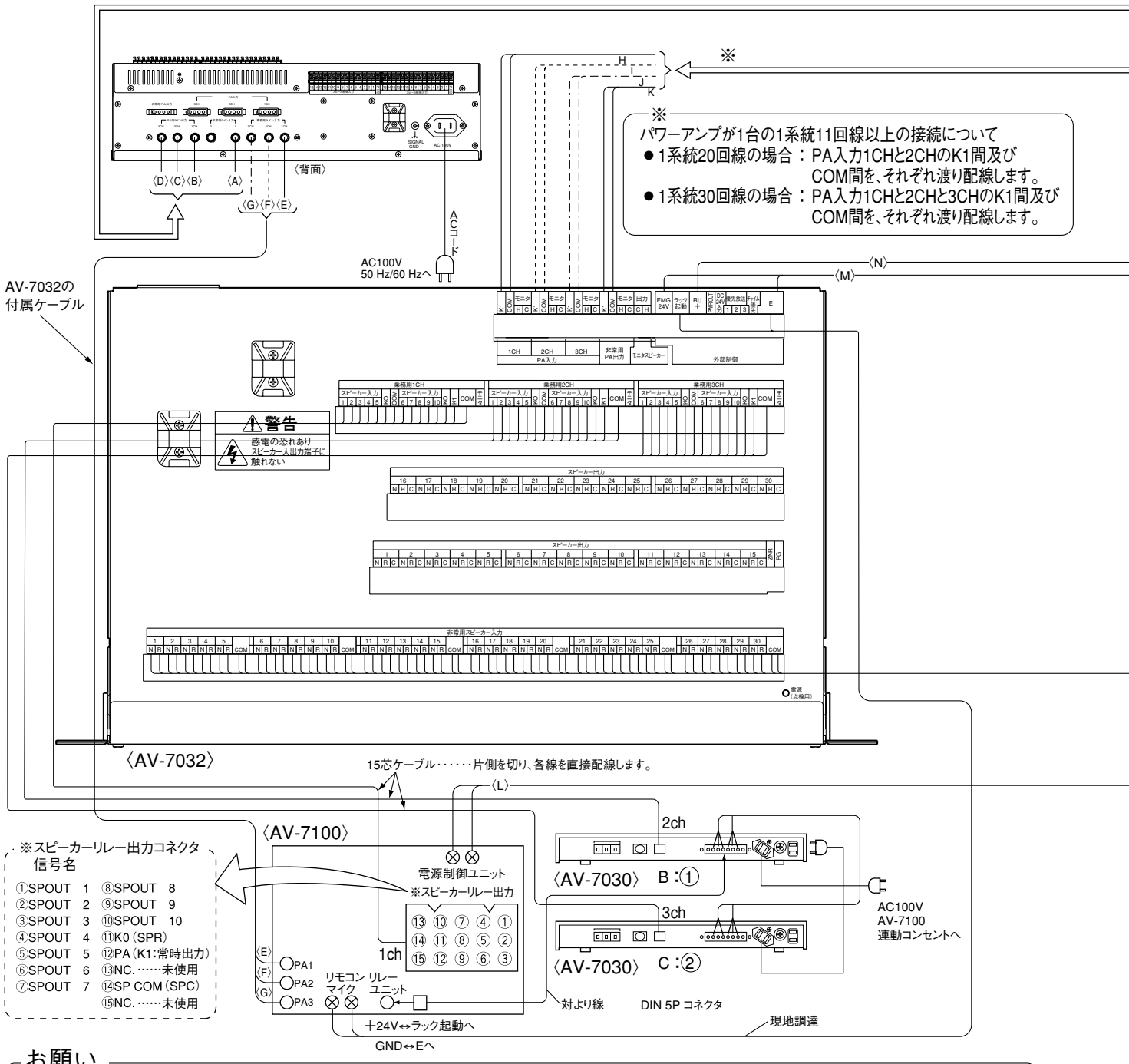
- リレーユニットを非常用放送設備に収納する場合は、AV調整卓側に端子板ユニットAV-7020が必要です。
- 各機器の配線長はユニットを引き出せる程度の余裕をとってください。
- AV-7100およびAV-7030のスピーカーリレー入力端子(CとK2間)に付いているショート金具は外さないでください。
- AV-7030のアドレス設定(31ページ参照)とAV-7100のディップスイッチ設定(30ページ参照)を必ず行なってください。
- AV-7032をAV調整卓に収納する場合は、非常用放送設備からの線は、耐熱ケーブル(現地調達)を使用してください。
- AV-7030の制御端子(送信・受信)の配線は、53ページをご参照ください。
- 2系統、3系統の調整卓の場合は、内部ジャンパー(出力系統の分離とモニター)の設定が必要です。(73ページ参照)
- スピーカー切換器(AV-7032)内部基板のラック起動の設定(CN22)は デスク 側(工場出荷時設定)です。
- AV-7032をAV調整卓側に収納し、AC電源をAV調整卓と連動するACコンセントに接続する場合(※1)は、(※2)の接続を廃止し、外部制御の「ラック起動」端子と「E」端子間をジャンパー線で接続してください。この場合は、AV-7032内部基板のCN22を ラック 側にします。(73ページ参照)工場出荷設定は デスク 側になっています。
- パワーアンプEM-Aシリーズを複数台接続する場合は、全てのパワーアンプ間をCN-C7ケーブルで接続します。



非常用放送設備との接続［AV-7032］
接続例

■30回線スピーカー切換器を使ってパワーアンプを共用する接続例

●非常・調整卓共に1080 Wまでです（1chあたり出力は360 Wまでです）
●調整卓30回線、非常放送30回線までです。
●放送室に非常専用のスピーカーが必要です。（放送室の階の系統へ接続）

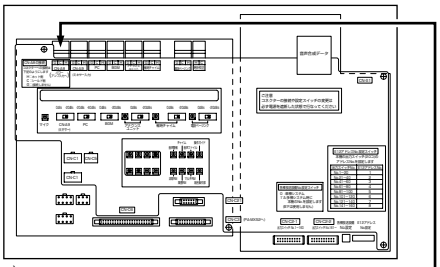


お願い

- AV-7032内部基板のCN22は、デスク 側（工場出荷時設定）です。
- 2系統、3系統の調整卓の場合はAV-7032の内部ジャンパー（出力系統の分離とモニター）の設定が必要です。（73ページ参照）
- AV-7030のアドレス設定（31ページ参照）と、AV-7100のディップスイッチ設定（30ページ参照）を必ず行なってください。
- AV-7030の制御端子（送信、受信）の配線は53ページをご参照ください。
- AV-7030のスピーカーリレー入力（PA IN）は接続しません。
- 各機器の配線長はユニットを引き出せる程度の余裕をとってください。
- AV-7100及びAV-7030のスピーカーリレー入力端子（CとK2間）に付いているショート金具は外さないでください。
- AV-7032をAV調整卓側に収納する場合は、非常用放送設備からの線は、耐熱ケーブル（現地調達）を使用してください。
- 非常放送設備からの放送時にパワーアンプは並列運転されます。並列運転できる機種、台数を選定してください。
- パワーアンプEM-Aシリーズを接続する場合は、EM-Y92と全てのパワーアンプ間をCN-C7ケーブルで接続します。

接続ケーブル
- 1系統調整卓 ———
- 2系統または1系統20回線調整卓 ——、- - - - -
- 3系統または1系統30回線調整卓 ——、- - - -、- - -

※その他内部の結線については
非常用放送設備の設置説明書をご参照ください。

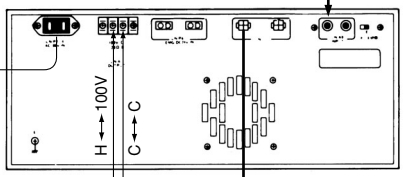


EM-E96

現地調達 1.2mm²以上
（AV-7032をAV調整卓側に
収納時は耐熱ケーブル）

CN-A8（パワーアンプ入力へ）
〈A〉
〈B〉
〈C〉
〈D〉

CN-A8（INPUT）



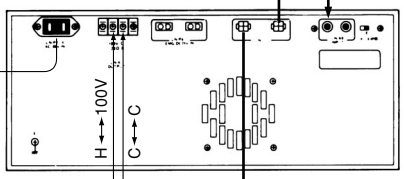
EM-A364など
（1CH用パワーアンプ）

K1 ↔ 100V
1CH COM ↔ C

〈H〉
〈I〉
〈J〉
〈K〉

CN-C7

CN-A8（INPUT）



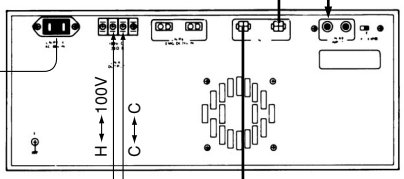
EM-A364など
（2CH用パワーアンプ）

K1 ↔ 100V
2CH COM ↔ C

〈M〉

CN-C7

CN-A8（INPUT）



EM-A364など
（3CH用パワーアンプ）

K1 ↔ 100V
3CH COM ↔ C

CN-C7

EM-P11

＋ ↔
－ ↔ 電源起動

〈L〉

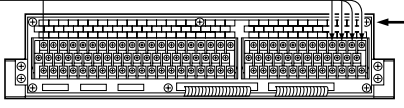
EMG 24V ↔ RB⊕
E ↔ RB⊖

常時 24V ↔ メーク

（CN-C7へ接続）

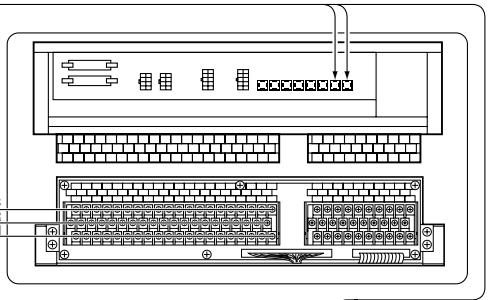
RU＋ ↔ コモン

〈N〉



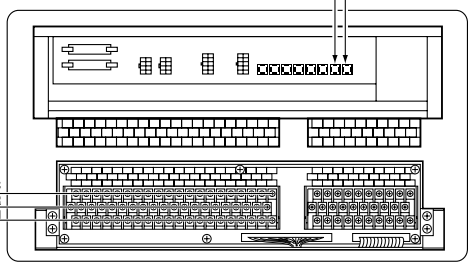
EM-Y92

非常用 K1 ↔ H
PA出力 COM ↔ C



EM-L92
（1～20回線）

COM ↔ SPC
R ↔ SPR
N ↔ SPN



EM-L92
（21～30回線）

COM ↔ SPC
R ↔ SPR
N ↔ SPN

「RU＋」の制御について

パワーアンプを共用する場合は、必ず「RU＋」端子の接続が必要になります。
上図は、「非常時 24V 出力」で制御してAV 調整卓側を優先にする場合で、「常時24V」を「非常時リレー端子（メーク側）」を経由して接続します。（66ページ参照）
非常用放送設備側を優先にする場合は、リレーを増設して「放送時 24V 出力」で制御します。（65ページ参照）

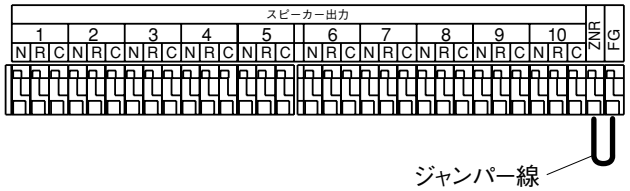
COM(SPC)線について

AV-7032 が AV 調整卓側に設置されている場合には、COM(SPC)線は回線数分接続し、5本づつ1本にまとめてから AV-7032 の端子に接続します。（74ページ参照）

非常用放送設備との接続［AV-7032］
動作確認

■スピーカー回線の絶縁耐力・絶縁抵抗試験

- スピーカー出力端子台のZNRとFG間のジャンパー線をはずして、試験を行なってください。
- はずしたジャンパー線は、試験後もとにもどしてください。

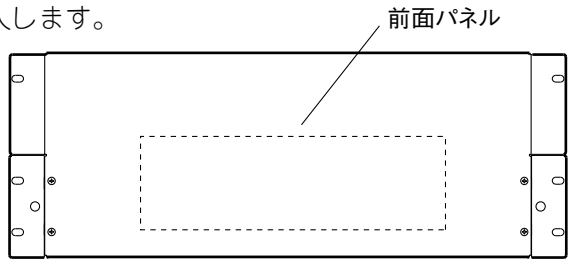


ご注意

- スピーカー接続端子には、雷サージおよび静電気保護のためにシャーシとの間に、ZNR（サージアブソーバー）が取り付けられています。非常用放送設備側の絶縁抵抗試験時には、非常用放送設備側のコネクタもはずしてから、行なってください。（非常用放送設備の工事説明書 参照）はずさないで試験を行うと試験結果はNGとなります。
  また、絶縁抵抗試験は配線の片側と大地間で行ないます。配線相互間で行うと接続されている機器（含む本機）を破損する場合があります。
- AV-7032で、非常用スピーカー入力と業務用スピーカー入力のスピーカーコモン（COM）が接続されているため、業務用スピーカー入力側も同時に絶縁耐力絶縁抵抗試験が印加されます。業務用スピーカー入力側を切り離すか、ジャンパー（J24～J29）を切断する（内部ジャンパーの設定73ページ参照）ことにより、業務用スピーカー側に印加されなくなります。
  スピーカー制御入力端子を使用時は、ジャンパー（J24～J29）は切断しません。

記名シートの使いかた

記名シート（付属品）に各スピーカー入出力の放送場所を記入します。
前面パネル裏側に貼り付けます。



記名シート

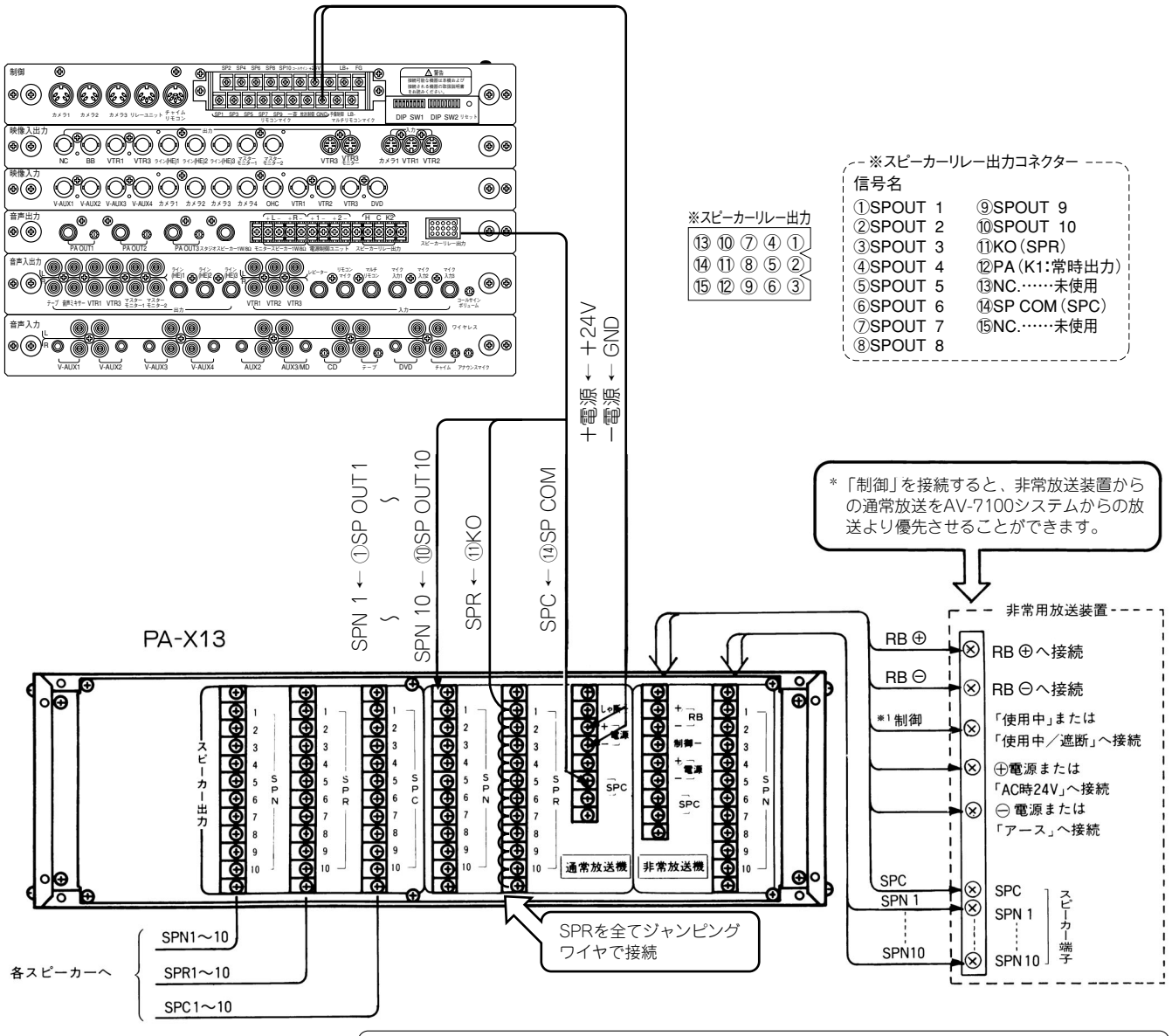
非常用スピーカー入力						スピーカー出力					
1		11		21		1		11		21	
2		12		22		2		12		22	
3		13		23		3		13		23	
4		14		24		4		14		24	
5		15		25		5		15		25	
6		16		26		6		16		26	
7		17		27		7		17		27	
8		18		28		8		18		28	
9		19		29		9		19		29	
10		20		30		10		20		30	

業務用スピーカー入力（デスク側）					
1ch		2ch		3ch	
1		1		1	
2		2		2	
3		3		3	
4		4		4	
5		5		5	
6		6		6	
7		7		7	
8		8		8	
9		9		9	
10		10		10	

非常用放送設備との接続［PA-X13］
接続のしかた

■スピーカー切換器 PA-X13の接続例

- AV-7100 本体収納部およびサイドデスク AV-7050 にはラックマウントできません。壁掛型として設置してください。（詳しくは PA-X13 の設置説明書をご参照ください）
- 非常用放送設備からのスピーカー線は2線式のため、非常用放送設備からの通常放送は常に各スピーカーのアッテネーターが無効になります。
- 非常放送が最優先ですが、非常用放送装置からの通常放送とAVコミュニケーションシステムからの放送は、優先順位を接続により設定できます。（下図参照）
- AV-7100 からの制御用電源はリモコンマイク用の電源＋24V（MAX100 mA）から供給します。
  PA-X13 は1台あたり約20 mAですので、リモコンマイク（PA-C50/C51/C52）未接続時で、最大5台（50回線）までです。リモコンマイク（PA-C50/C51/C52：1台あたり約55 mA）接続時は、最大2台（20回線）までとなります。



※SP COM（SPC）線について
PA-X13がAV調整卓側に設置される場合には、非常用放送装置からのSP COM（SPC） 線は必ず回線数分接続してください。また、非常用放送装置側に設置される場合でも、AV調整卓との距離が長くなる場合にはAV調整卓からのSP COM（SPC） 線は回線数分接続してください。

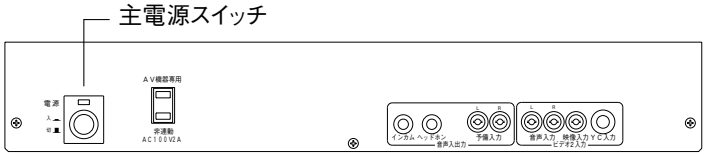
ディップスイッチの設定と初期化

■AVコミュニケーションシステムのディップスイッチ設定

すべての機器の接続が終わりましたら、接続した機器の構成に合わせて、AVコミュニケーションシステム（AV-7100）の制御パネル右にあるディップスイッチの設定および確認をしてください。設定方法は、30ページを参照してください。

■電源の確認

①主電源スイッチをONにしてヒューズが切れたりしないか確認します。
②テスターでAC電圧を確認してください。
③各機器の電源を、1つずつONにしてください。異常があれば、すぐに全ての電源をOFFにし、接続を再確認してください。



■ディップスイッチ変更後の初期化

AVコミュニケーションシステム端子部のディップスイッチを出荷状態から変更（30ページ参照）したら、次の操作を行ない初期化を行なってください。

●操作部の初期化（データの初期化）

①主電源が切れている状態でディップスイッチの設定をします。

②[主電源]スイッチを入れます。

③しばらくすると、操作モニターにメッセージが表示され、操作部の電源が切れます。

④数秒間待ちます。その後、[登録]スイッチ→[スタジオ連絡]スイッチ→[ラストワンメモリー]スイッチの順に押します。[登録]スイッチを押したときにスイッチの表示灯が点灯しなかった場合は、再度[登録]スイッチを押してください。

⑤操作部の[電源]スイッチをONにします。

⑥「名称変更・環境設定」画面が開きます。

⑦[データー管理]を選択します。

⑧[データーの初期化]を選択し、[実行]を押します。

⑨確認パネルの[初期化]を押します。以上でデーターの初期化が終了します。

⑩データーの初期化終了後、引き続き制御部の初期化を行ないます。

●制御部の初期化

①[主電源]スイッチを切り、約5秒間待って入れ直します。

②[登録]スイッチ→[スタジオ連絡]スイッチ→[一斉放送]スイッチの順に押します。

③操作パネルの表示灯がすべて点灯後、消灯します。

④[パターン]スイッチが順番に点灯し、少し待つとすべての[パターン]スイッチが消灯したままになります。（初期化完了）

⑤[主電源]スイッチを切り、約5秒間待って入れ直します。

⑥しばらくすると、操作モニターにメッセージが表示され、操作部の電源が切れます。

⑦数秒間待って操作パネルの[電源]スイッチを入れます。

⑧取扱説明書を参照して、音声放送パターンと映像放送パターンの各7個のスイッチの内容を確認してください。操作画面が説明書通りになっていれば完了です。

ご注意

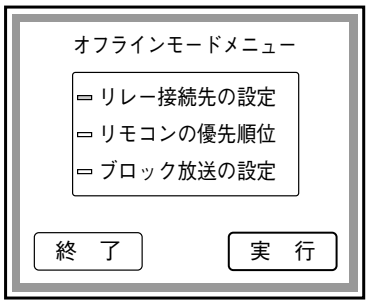
- この初期化操作を行なわないと、取扱説明書と操作画面の内容が合わなくなりますので必ず実施してください。(ディップスイッチの変更は、30ページ参照)
- 増設時などに既設のディップスイッチを変更し、本初期化を行なう場合、音声・映像放送パターンで設定している内容は全て消去されますので必ずデータのバックアップをしてください。（111ページ参照）

オフライン機能

オフライン機能では、各リレーの音声放送系統との関連付け、リモコンブロックの優先順位の設定、および、各リモコンブロックで制御するリレーの設定が行なえます。

■オフライン機能の立ち上げ

①主電源スイッチを入れ、システムを起動します。起動するとタッチパネル画面の表示がいったん消えます。
②操作パネルの登録スイッチを押します（表示灯の点灯を確認）。
③スタジオ連絡スイッチを押します。
④コールサインスイッチを押します。
⑤電源スイッチを押します。
オフライン機能が立ち上がると、下図のようなパネルオフラインモードメニューが表示されます。



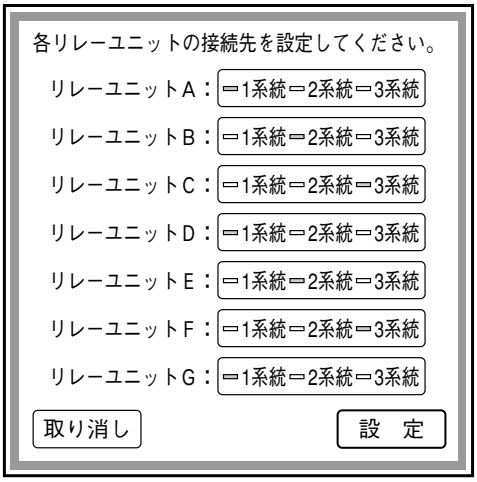
■オフライン機能の終了

オフラインモードメニューパネルの[終了]を押すと、オフラインモードから抜けます。

■リレー接続先の設定

本機では最大7台までのリレーユニット(6台増設のとき、本体内蔵分を含む)をシステムに接続することができますが、各リレーユニットが音声放送のどの系統に属するのかを設定します。

①オフラインモードメニューを表示させ、[リレー接続先の設定]を選択して[実行]を押します。
リレー接続先設定パネルが表示されます。



②各リレーユニットの接続先の系統を選択します。
リレーユニットAが本体内蔵のリレーユニット、B～Gが増設リレーユニットを示します。増設リレーユニットの項目は、増設した台数に応じて一部が操作不能となります。例えば3台増設を行なった場合は、リレーユニットE～Gの選択肢は表示がかすれて設定できなくなります。また、音声系統が1系統に設定されている場合は、全て[1系統]が選択状態となり、他の選択肢はかすれて選択できません。

③全てのリレーユニットの接続先を設定したら、[設定]を押します。設定内容が保存されてオフラインモードメニューのパネルに戻ります。なお、設定を取り消したい場合は、[取り消し]を押してください。設定内容を廃棄してオフラインモードメニューのパネルに戻ります。

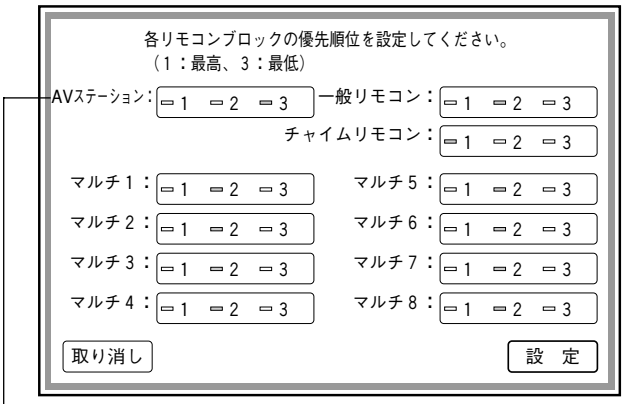
ご注意

工場出荷状態（初期化直後）の音声標準パターン1～3は、標準のリレー接続先設定を前提にした動作を行ないます。
このため、リレー接続先の設定を変更すると、これらのパターン動作内容が変わります。リレー接続先の設定に合わせて、音声放送パターンを再設定（108ページ参照）してください。

■リモコンの優先順位の設定

各リモコンブロックの優先順位を設定します。優先順位は1～3の3種類あり、少ない数字に設定するほど優先して動作します。複数のブロックを同じ優先順位にすることも可能です。優先順位が同じに設定された場合、動作時は後押し優先となります。

①オフラインモードメニューを表示させ、[リモコンの優先順位]を選択して[実行]を押します。リモコン優先順位設定パネルが表示されます。



「AVステーション」はAVコミュニケーションシステム本体からの放送です。

②各リモコンブロックの優先順位を設定します。
マルチ1～8は、接続されているマルチリモコンの数に応じて一部が操作できなくなります。
例えば4台のマルチリモコンが接続されている場合、マルチ5～8の選択肢の表示がかすれて選択できなくなります。

③全てのリモコンブロックの優先順位を設定したら、[設定]を押します。設定内容が保存されてオフラインモードメニューのパネルに戻ります。なお、設定を取り消したい場合は、[取り消し]を押してください。設定内容を廃棄してオフラインモードメニューのパネルに戻ります。

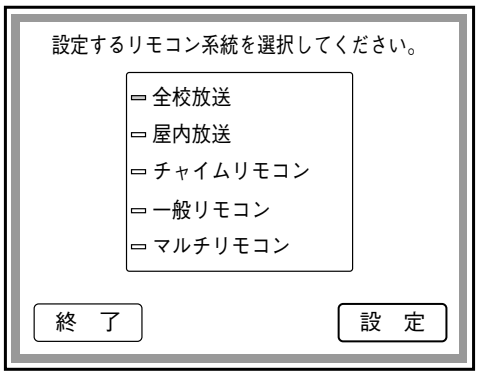
ご注意

チャイムリモコンの優先順位は、ディップスイッチの設定（30ページ参照）に影響されます。
「チャイム優先放送カット」の場合：上記設定が有効になります。（通常はチャイムリモコンを最優先に設定します。）
「等レベルミキシング」「チャイム優先・放送ダウン」の場合：音声はミキシングとなるため、AVコミュニケーションシステムとチャイムリモコンの優先関係は無効となります。
なお、42ページの「ご注意」も合わせてご確認ください。

■ブロック放送の設定

各リモコン系統で制御するリレーを設定します。

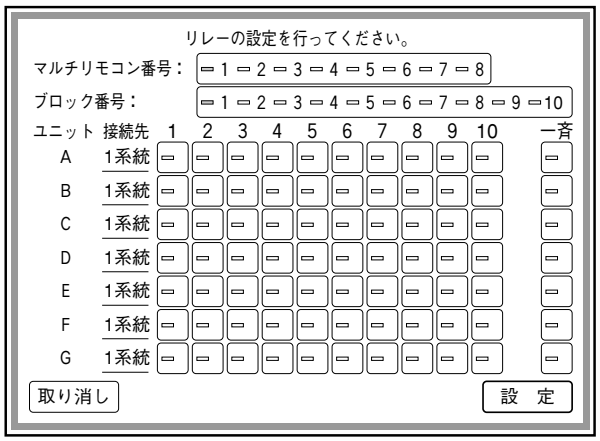
①オフラインモードメニューを表示させ、[ブロック放送の設定]を選択して[実行]を押します。
リモコン系統選択パネルが表示されます。



②リレー設定するリモコン系統を選択し、[設定]を押します。

オフライン機能

リレー設定のパネルが表示されます。



一番上の[マルチリモコン番号]は、リモコン系統選択パネルで[マルチリモコン]が選択されたときのみ選択可能です。その他の場合はかすれて選択できません。また、[マルチリモコン]が選択された場合も、接続されているマルチリモコンの台数を越える選択肢はかすれて選択できません。

2番目の[ブロック番号]は、リモコン系統選択パネルで[一般リモコン]または[マルチリモコン]が選択されたときのみ選択可能です。その他の場合はかすれて選択できません。

以降のA～Gの行は各々のリレーユニットに対応しており、増設台数に応じて一部が操作できなくなります。例えば、リレーユニットが3台増設されている場合は、E～Gの各行のボタンがかすれて操作できなくなります。

③マルチリモコンの設定を行なう場合は、マルチリモコン番号を選択します。

④一般リモコンまたはマルチリモコンの設定を行なう場合は、更にブロック番号を選択します。

⑤接続されているリレーユニットの個々のリレーについて、制御するかどうか設定します。
ボタンが押されて表示灯が点灯している状態は、そのリレーを制御対象にすることを示します。
表示灯が消灯の状態は、そのリレーを制御対象にしないことを示します。
表示灯の点灯／消灯は、そのボタンを押すたびに切り換わります。

⑥全てのリレーを設定したら、[設定]を押します。設定内容が保存されてリモコン系統選択のパネルに戻ります。一般リモコンやマルチリモコンの場合は、[設定]を押さずにブロック番号やマルチリモコン番号を選択し直すことで、他のブロックや他のマルチリモコンに対する設定を一度に行なうこともできます。
なお、設定を取り消したい場合は、[取り消し]を押してください。設定内容を廃棄してリモコン系統選択のパネルに戻ります。

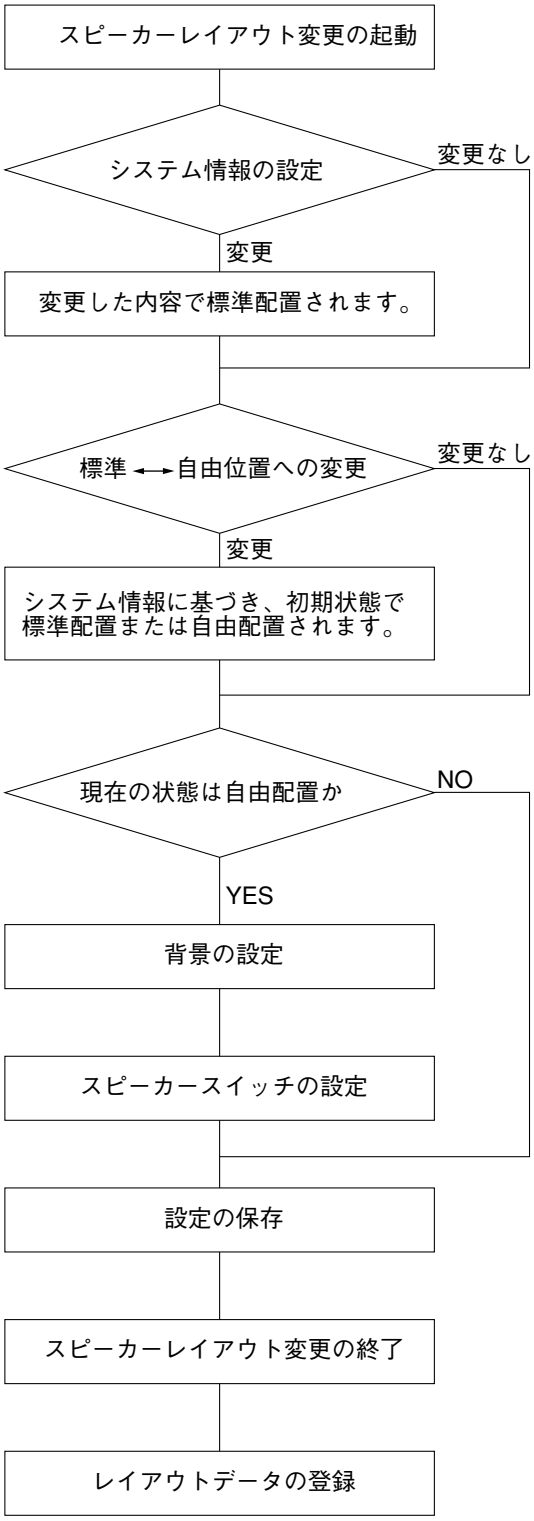
⑦続いて他のリモコン系統の設定を行なう場合は、次のリモコン系統を選択して[設定]を押します。
リモコン系統の設定を終わる場合は、[終了]を押します。オフラインモードメニューのパネルに戻ります。

ご注意

オフライン機能の操作中は、電源スイッチや音声／映像放送パターンスイッチなどのタッチパネル画面以外の操作は行なわないでください。
（誤作動を起こす場合があります。）

スピーカースイッチ配置のしかた

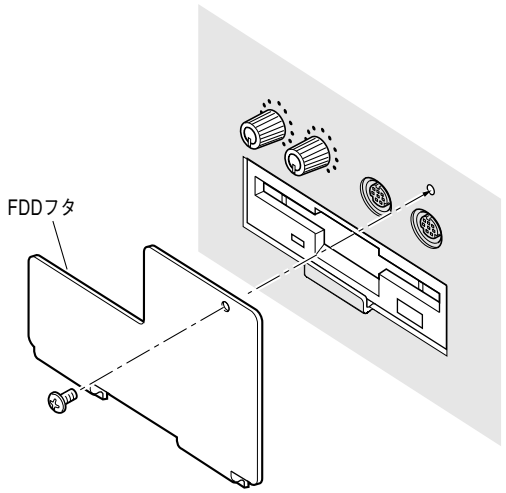
■スピーカースイッチ配置のフローチャート



■スピーカーレイアウト変更の起動

ご注意

FDDフタを外し、マウスとキーボードを本機前面予備入力パネル部のそれぞれのコネクターに接続しておいてください。

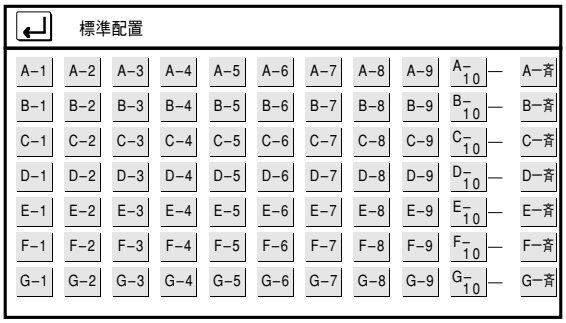


1 主電源スイッチを入れます。

2 システムが起動すると、タッチパネル画面の表示がいったん消えます。表示が消えてから数秒後に、操作パネルの電源スイッチを入れてください。

3 マウスの右ボタンを押します。[小物]メニューの[スピーカーレイアウト変更]を選択します。

4 スピーカースイッチの「標準配置」ウインドウが開き、スピーカースイッチ配置が表示されます。(すでに設定されたものがあるときは、その配置が表示されます。)

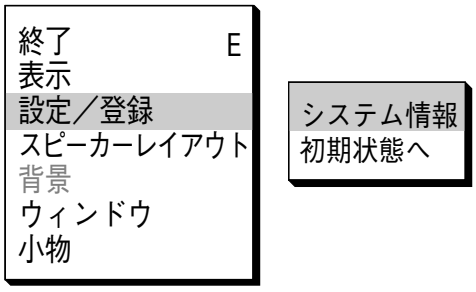


スピーカースイッチ配置のしかた

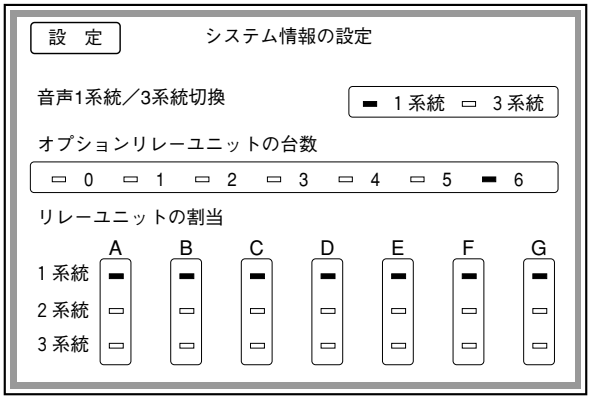
■システム情報の設定

システム情報には音声放送1系統／3系統、リレーユニットの接続台数の設定があります。必ずシステムに合わせてください。

1 マウス右ボタンを押します。[設定/登録]メニューの[システム情報]を選択します。



次のようなパネルが開きます。



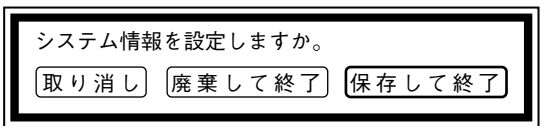
出荷時は上記の設定になっています。次回の起動時、設定した値が初期値として表示されます。

2 以下の項目を設定します。これらの項目は「AVコミュニケーションシステムのディップスイッチの設定」と「オフラインモードのリレー接続先の設定」とを一致させる必要があります。

- 音声1系統／3系統切り換え
- オプションリレーユニットの台数
- リレーユニットの割当（1系統のときは設定できません）
  選択すると表示灯が点灯します。

3 以上の設定が終わったら[設定]をクリックします。

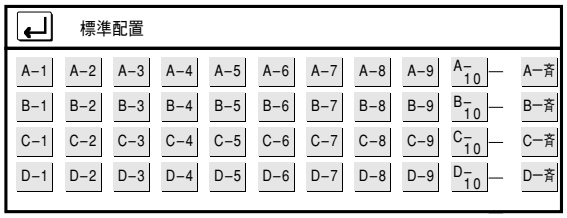
次のようなパネルが開きます。どれかを選択してください。



取り消し　：確認パネルを閉じ、システム情報の設定に戻ります。
廃棄して終了：今回の設定を無効にしてシステム情報の設定を終了します。
保存して終了：今回の設定を保存してシステム情報の設定を終了します。

4 ［保存して終了］の場合、設定した内容にしたがって標準配置されます。

例：1系統でオプションリレーユニットの台数を3に設定した場合



ご注意

すでに自由配置で設定されたものがある場合、そ

■標準↔自由配置への変更

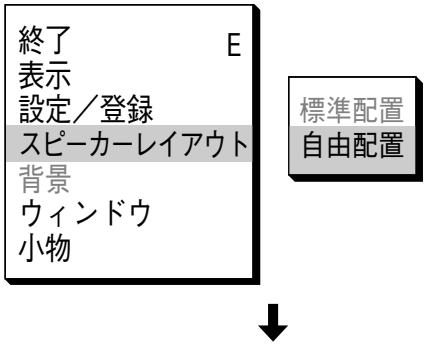
音声放送[どこへ]の[えらぶ]選択時に表示するウィンドウの画面を変更できます。
[標準配置]と[自由配置]があります。

- [標準配置]ではスピーカースイッチが行と列に並びます。
- [自由配置]では建物内の実際の配置に合わせたスピーカー配置で表示することができます。またあらかじめ作成した背景図形を貼り込めば、より実際に近いレイアウトにすることができます。
  これらのレイアウトについては導入する学校などの要望を聞いて決めてください。

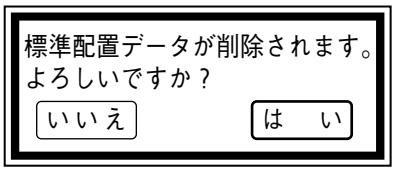
●標準配置から自由配置へ変更の場合

現在の状態が標準配置で自由配置に変更する場合、以下の操作を行なってください。

1 [スピーカーレイアウト]メニューの[自由配置]を選択します。



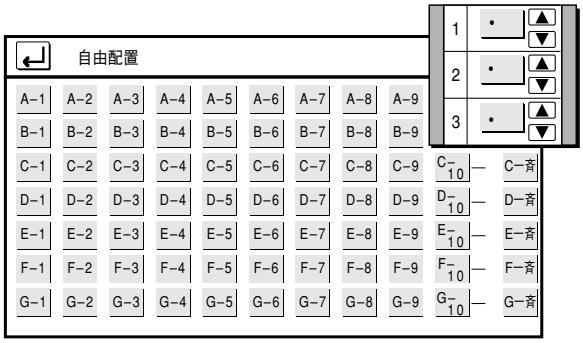
すでに標準配置で設定されたものを起動しているときは次のような確認パネルが開きますのでどちらかを選択してください。



はい　：標準配置のデーターを削除し、確認パネルを閉じ、自由配置の表示を行ないます。
いいえ：何もせずに確認パネルを閉じます。

2 [はい]を選択した場合、「標準配置」ウィンドウが消え、「自由配置」ウィンドウ（下図のような2つのウィンドウ）が表示されます。

- スイッチの配置を表示するウィンドウが「自由配置」ウィンドウとして表示されます。
- スイッチを選択する「スイッチ選択」ウィンドウがサブウィンドウとして表示されます。
- リレーユニットの接続台数によって表示状態が変化します。



システム情報設定で1系統が設定されているとき「スイッチ選択」ウィンドウの2、3は動作しません。

スピーカースイッチ配置のしかた

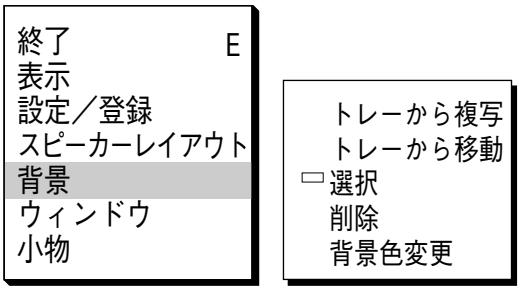
3 背景の設定をします。

■背景の作成

自由配置で使用する背景は、基本エディタの「基本図形編集」で作成した図形を使用します。図形の作り方は、電子マニュアルの「自由配置の背景の作り方」や「基本図形編集」をご覧ください。（114ページ参照）

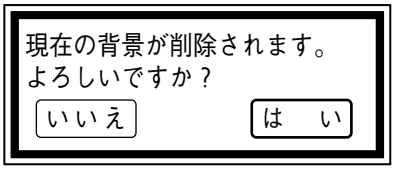
ただし、背景図形のデーターサイズが64Kバイトを超える場合はイメージデーターのみが使用可能です。

基本エディタで作成した背景を設定するには、背景の貼り込み、背景の移動、背景の削除などの操作により行ないます。



■背景の貼り込み

作成した図形はドラッグもしくはトレー経由で自由配置のウィンドウに貼り込みます。ウィンドウの左上を原点とし、スイッチの図形の後ろに表示されます。すでに背景がある場合、背景を貼り込むと削除確認パネルが表示されますので、いずれかを選択してください。



はい　：背景を削除し、確認パネルを閉じます。
いいえ：何もせずに確認パネルを閉じます。

- データーサイズが大きすぎたり、ウィンドウより大きな背景は貼り込むことができません。

■背景の移動

背景の位置を変更したいときは、背景をウィンドウ内で移動させます。背景が設定されている状態で[背景]メニューの[選択]を選択すると、背景の矩形がちらつき枠で示されます。ちらつき枠内部で左ボタンを押しながらマウスをドラッグ移動します。

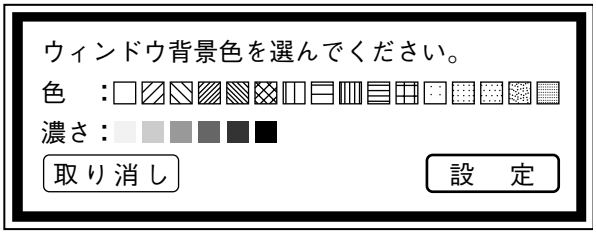
- ドラッグ移動中に自由配置ウィンドウの外で左ボタンをリリースするとドラッグ移動は無視されます。
- 背景が選択されている状態でちらつき枠外部で左ボタンをプレスすると選択状態は解除されます。
- 現在のウィンドウからはみ出した位置への移動はできません。

■背景の削除

背景を削除したいときは、背景が選択されている状態で[背景]メニューの[削除]を選択します。

■背景色の変更

背景色（背景の地の色）を設定する場合は[背景]メニューの[背景色変更]を選択します。色設定のパネルが表示されますので、設定する色と濃さをクリックにより選択し、[設定]をクリックします。



4 スピーカースイッチの設定

「自由配置」ウィンドウにスピーカースイッチを設定していきます。

「自由配置」ウィンドウ／「スイッチ選択」ウィンドウの上にスピーカースイッチをドラッグにより移動／貼り込みします。「自由配置」ウィンドウ上の未使用及び一時待避するスピーカースイッチは先に削除しておくと便利です。

（参考）スピーカースイッチは系統ごとに色分けされています。

スイッチの削除：

「自由配置」ウィンドウ上のスイッチ選択後、キーボードの[Delete]を押してそのスイッチを削除します。削除されたスイッチは自動的に「スイッチ選択」ウィンドウ内に移動されます。3系統のときはスイッチのアドレスにより自動的に1から3系統を認識します。

スイッチの選択：

「自由配置」ウィンドウまたは「スイッチ選択」ウィンドウ上のスイッチをクリックすることでそのスイッチを選択します。

スイッチの移動：

「自由配置」ウィンドウ上のスイッチをドラッグで移動し、「自由配置」ウィンドウ上でリリースする事で移動が確定します。現在の「自由配置」ウィンドウからはみ出した位置への移動はできません。

スイッチ貼り込み：

「スイッチ選択」ウィンドウ上の三角形をクリックするたびにスイッチのアドレスがアップ／ダウンしますので貼り込みたいアドレスに設定します。そのウィンドウ上のスイッチをドラッグで移動し、「自由配置」ウィンドウ上でリリースする事で貼り込みが確定します。使用するアドレスが全て「自由配置」ウィンドウ上にある場合は、貼り込みはできません。

ご注意

- スイッチの移動／貼り込みで、スイッチが重なり合うことはできません。
- スイッチの設定後、背景を貼り込むと、1番下に貼り込まれます。

格子点拘束

[表示]メニューの[格子点拘束]を選択すると、以降のスピーカースイッチの配置を格子点で拘束することができます。編集するものを整然と配置することができます。自由配置の編集中のみ有効で、4ドッド間隔の格子点です。

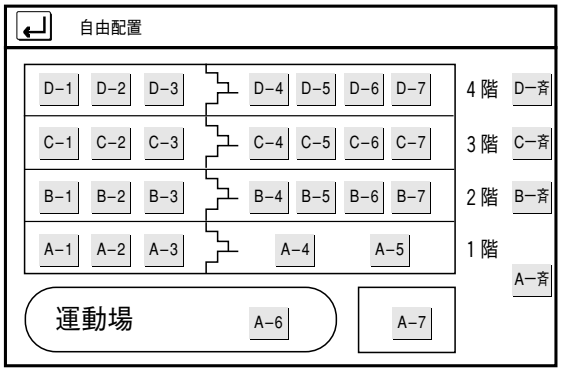
5 「自由配置」ウィンドウをスピーカースイッチ数に応じた見やすいウィンドウサイズに変更します。ウィンドウ右下部分をドラックして、ウィンドウサイズを変更してください。

このとき変更可能な範囲は以下の通りです。

最大：横幅：画面サイズ
　　縦幅：画面サイズの上から5/6位まで

最小：スピーカースイッチがはみ出さないサイズ。横幅は標準配置でスイッチ約4個分以下にはなりません。

• 自由配置の例を示します。

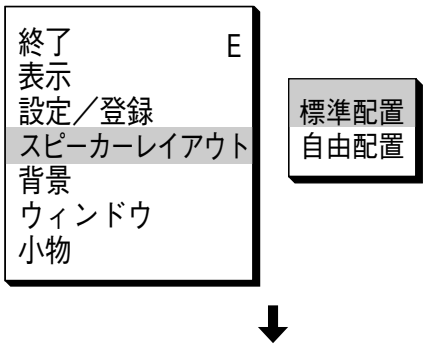


スピーカースイッチ配置のしかた

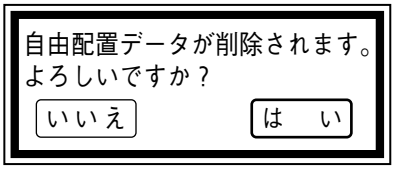
●自由配置から標準配置へ変更の場合

現在の状態が自由配置で標準配置に変更する場合以下の操作を行ってください。

1 [スピーカーレイアウト]メニューの[標準配置]を選択します。



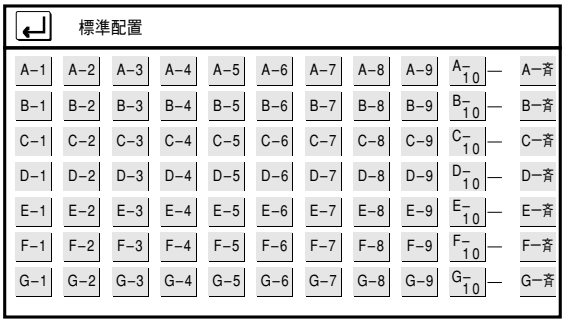
既に自由配置で設定されたものを、再び起動しているときは確認パネルが表示されますのでどちらかを選択してください。



はい　：自由配置のデーターを削除し、確認パネルを閉じ、標準配置の表示を行います。
いいえ：何もせずに確認パネルを閉じます。

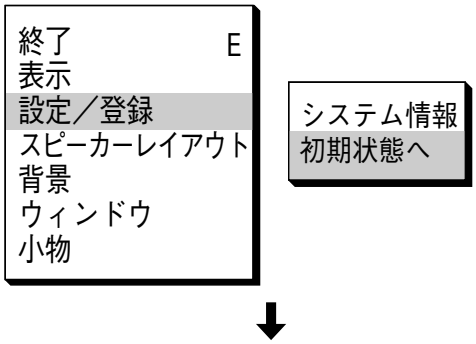
2 「はい」を選択した場合、「自由配置」ウィンドウが消え、「標準配置」ウィンドウが表示されます。ウィンドウにマトリクス状の配置で表示されます。

- リレーユニットの接続台数によって表示状態が変化します。

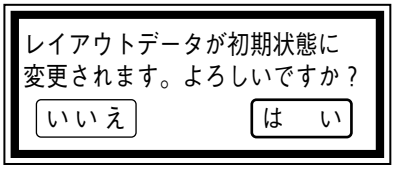


■初期状態へ戻るとき

1 [設定／登録]メニューの[初期状態へ]を選択します。

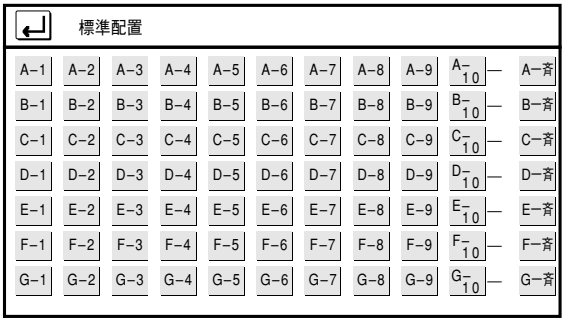


次のようなパネルが開きます。



はい　：配置のデーターを削除し、確認パネルを閉じ、出荷状態の表示を行います。
いいえ：何もせずに確認パネルを閉じます。

2 [はい]を選択した場合、「標準配置」ウィンドウが出荷状態で表示されます。



■スピーカーレイアウト変更の終了

設定を終える場合は、「自由配置」または「標準配置」ウィンドウ内の[↲]をクリックします。

システム情報、自由または標準配置、背景色に変更があれば、保存確認パネルを表示しますので選択してください。

取り消し　　：確認パネルを閉じ、自由配置または標準配置の設定に戻ります。
廃棄して終了：今回の設定を無効にして自由配置または標準配置の設定を終了します。
保存して終了：今回の設定を保存にして自由配置または標準配置の設定を終了します。

保存したデーターは、主電源を入れ直すとシステムに反映されます。主電源スイッチを切り、5秒程度待って入れ直してください。

ご注意

スピーカーレイアウト変更の操作中は、電源スイッチや音声／映像パターンスイッチなどのタッチパネル画面（マウス、キーボード）以外の操作は行なわないでください。
（誤動作を起こす可能性があります。）

スイッチの名前の変更・環境設定

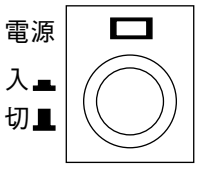
●クラス換えなどで、スピーカースイッチの名前の変更や入れ換えをしたいときに使用します。
次のスイッチの名前を変更できます。
- スピーカースイッチ
- 音声／映像　拡張パターンスイッチ
- 音声／映像予備入力

ご注意

・キーボードを接続する必要があります。
・本画面の操作中は、以降の説明で指示された場合を除き、タッチパネル以外（電源スイッチや音声／映像パターンスイッチなど）は操作しないでください。誤動作を起こす可能性があります。

■スピーカースイッチの名称変更状態の入りかた

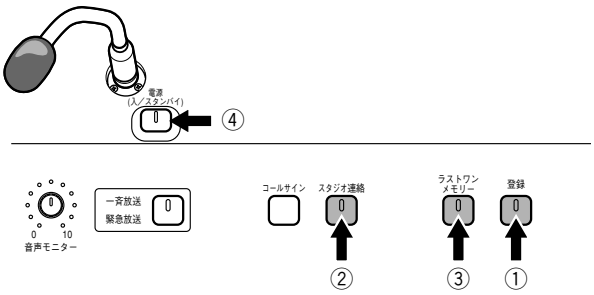
1 主電源スイッチが「入」ならスイッチを押し「切」状態にする。



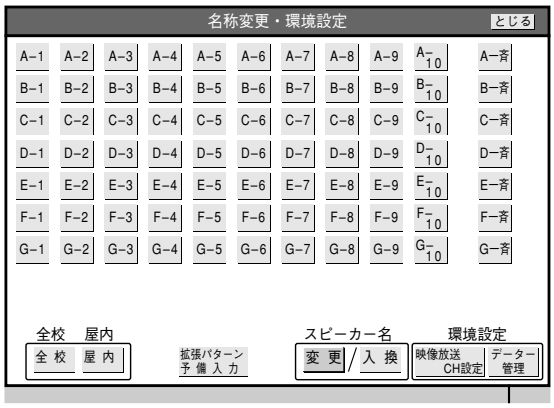
2 予備入力パネルにキーボードを接続し操作可能な状態にする。
キーボード接続については、87ページを参照してください。

3 主電源スイッチを入れ、システムを起動する。
起動すると、タッチパネルの画面がいったん消えます。

4 ①登録スイッチを押す。登録スイッチの表示灯が点灯したら②スタジオ連絡スイッチ→③ラストワンメモリースイッチ→④電源スイッチの順に押す。
登録スイッチの表示灯が点灯しない場合は、再度登録スイッチを押してください（スタジオ連絡、ラストワンメモリースイッチは押しても点灯しません）。



「名称変更・環境設定」画面が表示されます。
（スピーカー表示の数はオプションのリレーユニットによって変化します。またレイアウトによってすでに設定された物がある場合はその配置で表示されます。）

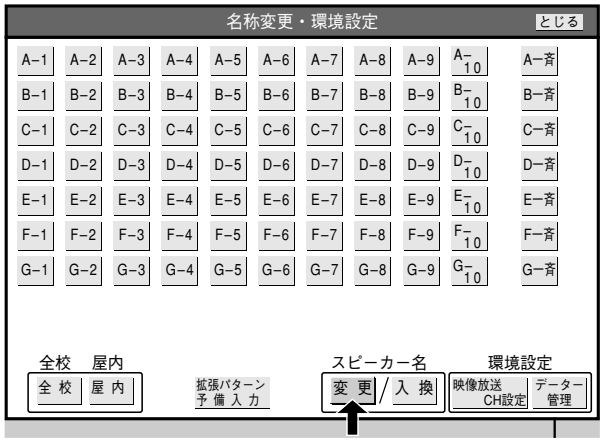


この画面では以下のことが行なえます。

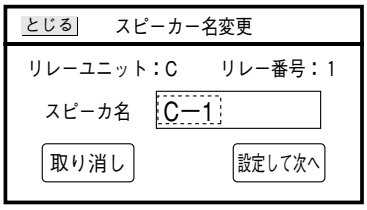
名　前　変　更：全角1〜6文字までの範囲で名前が変更できます。
名前入れ換え：指定した2個所の名前を入れ換えます。
拡張パターン予備入力：拡張パターンスイッチと予備入力の名前を変更できます。
映像放送CH設定：映像放送チャンネル表示の設定ができます。
データー管理：各種データーのバックアップ・復元・初期化を行うことができます。

■スピーカースイッチの名称変更のしかた

1 [変更] 表示が緑色になっていない場合は［変更］を押し緑にします。次に名前を変更したいスイッチを押します。



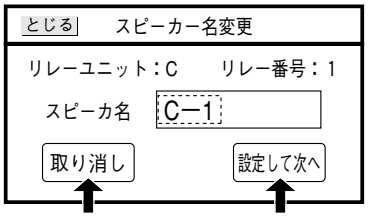
選んだスピーカースイッチが緑色に変わり、「スピーカー名変更」パネルが表示され名前変更状態になります。



2 キーボードを使って文字を入力する。

・全角文字で6文字（1行3文字で2行）まで入力することができます。
・全角文字で3または6文字全て入力しないときは、スペースキーで文字の位置を調整します。

3 文字入力後、内容を確認して「スピーカー名変更」パネルの［設定して次へ］または［取り消し］を押す。



・［設定して次へ］を押すと、自動的に入力した名前を登録し、次の放送場所の、名前入力状態になります。

移動方向
［A-1］→［A-2］→･･･［A-8］→［B-1］･･･

・［取り消し］を押すと現在入力中の名前をもとに戻して、名前入力状態を継続します。

4 1〜3を繰り返して次々に入力する。

5 変更が終了したら、「スピーカー名変更」パネルの［とじる］を押す。

現在入力中の名前をもとに戻して、名前入力状態を終了します。

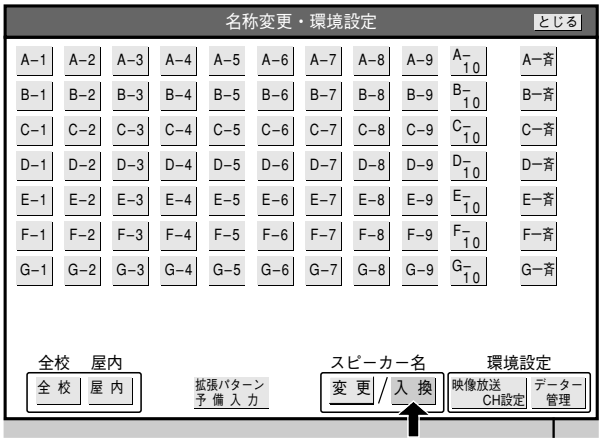
ご注意

・本機の文字入力は、ローマ字かな変換方式です。
・かなを直接入力することはできません。
・文字は全て全角です。半角は入力できません。
・文字入力の詳細については、電子マニュアル（115ページ参照）の「システムの使い方：システムの予備知識：文字を入力する」をご覧ください。

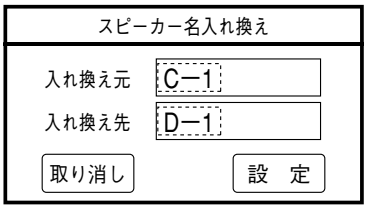
スイッチの名前の変更・環境設定

■スピーカースイッチの名前を入れ換えるときの操作のしかた

1 ①［入換］を押し緑色にする。
②名前の入れ換え元と③入れ換え先の場所を押します。



選んだスピーカースイッチが緑に変わり、「スピーカー名入れ換え」パネルが表示され名前入れ換え状態になります。



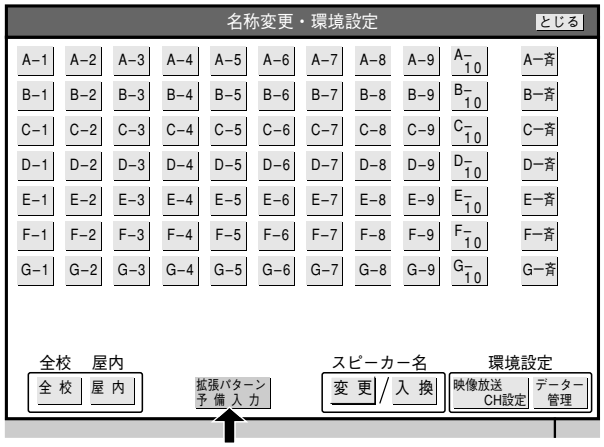
2 内容を確認してパネルの［設定］または［取り消し］を押します。

- ［設定］を押すと、入れ換え元と入れ換え先が入れ換わり、「スピーカー名入れ換え」パネルが消えます。そして次の放送場所の入れ換え状態になります。
- ［取り消し］を押すと入れ換えられずに、「スピーカー名入れ換え」パネルが消えます。そして次のスピーカースイッチの入れ換え状態になります。

3 継続して行う場合は1〜2を繰り返します。

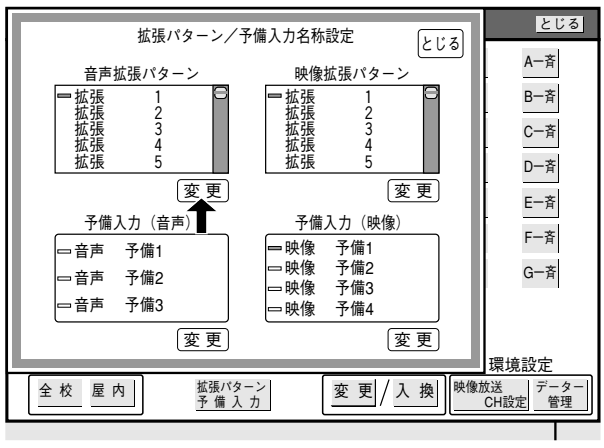
■拡張パターン・予備入力機器の名称変更操作のしかた

1 「名称変更・環境設定」画面で［拡張パターン予備入力］を押します。



「拡張パターン／予備入力名称設定」パネルが表示されます。

2 「音声拡張パターン」欄には、現在設定されている音声拡張パターンの名称が一覧表示されます。名称変更したいパターンを選択して、[変更]をクリックします。変更したい名称が表示されていない場合は、スクロールバーを操作して表示させてください。

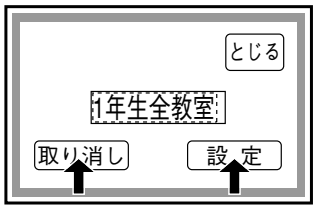


名称入力パネルが表示されます。

3 新しい名称をキーボードから入力します。

- 全角文字で6文字（1行3文字で2行）まで入力する事ができます。
- 全角文字で3または6文字全て入力しない時は、スペースキーで文字の位置を調整します。

4 名称入力後、内容を確認して[設定]または[取り消し]をクリックします。



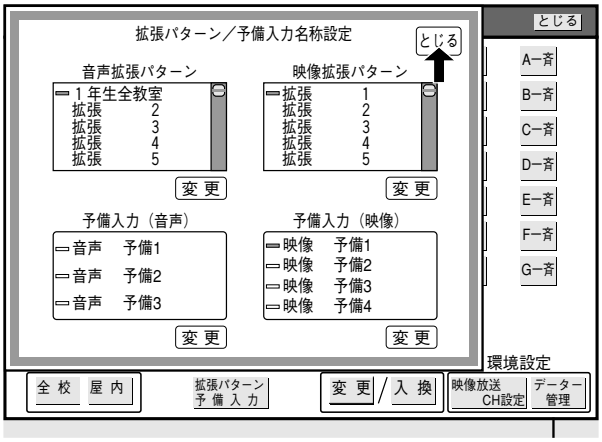
- [設定]をクリックすると自動的に入力した名称を登録し、次のパターンの名称入力状態になります。
- [取り消し]をクリックすると現在入力中の名称をもとに戻して、名称入力状態を継続します。

5 3～4を繰り返して次々に入力します。

6 変更が終了したら[とじる]をクリックします。名称入力状態を終了します。その時入力の名称は、もとの名称に戻ります。

7 1～6と同様の操作を行ない、拡張映像パターン・予備入力（音声）・予備入力（映像）のうち必要なものの名称変更を順次行ないます。

8 全ての名称変更が終了したら、「拡張パターン／予備入力名称設定」パネルの［とじる］をクリックします。



⬇

「名称変更・環境設定」画面に戻ります。

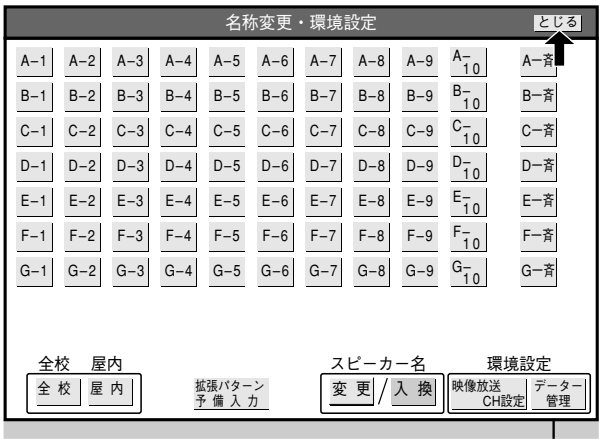
ご注意

- 本機の文字入力は、ローマ字かな変換方式です。
- かなを直接入力することはできません。
- 文字は全て全角です。半角は入力できません。
- 文字入力の詳細については、電子マニュアル（115ページ参照）の「システムの使い方：システムの予備知識：文字を入力する」をご覧くだ

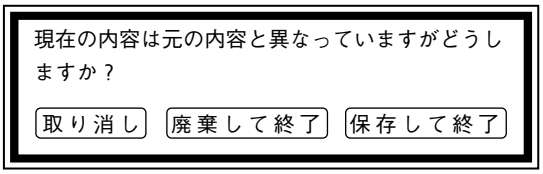
スイッチの名前の変更・環境設定

■名称変更・入れ換え状態の終了のしかた

1 「スピーカー名称変更・環境設定」画面でパネルが表示されていないときに、［とじる］を押します。



内容に変更があれば、保存確認パネルを表示しますので選択してください。

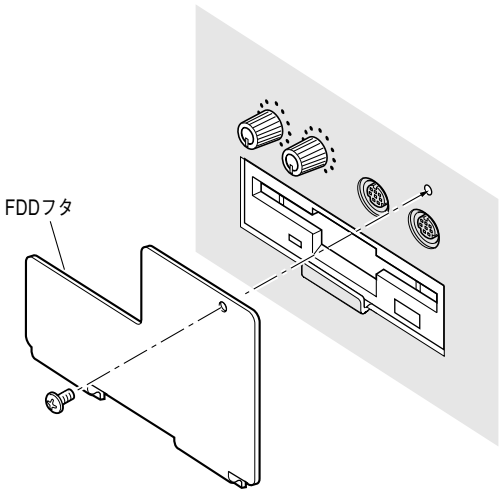


取 り 消 し：確認パネルを閉じ、「スピーカー名称変更・環境設定」画面に戻ります。

廃棄して終了：今回の設定を無効にして「スピーカー名称変更・環境設定」画面を終了し「音声映像放送」画面に戻ります。

保存して終了：今回の設定を保存して「スピーカー名称変更・環境設定」画面を終了し「音声映像放送」画面に戻ります。

2 キーボードを外しネジ1本でFDDフタを取り付けます。



ご注意

内容を変更したら必ず「スピーカー名称変更・環境設定」画面の［とじる］を押して終了してください。電源スイッチを切るなど、［とじる］を押さずに終了すると、変更内容をバックアップすることはできません。また、この状態で、主電源スイッチを切ると変更内容は破棄されます。

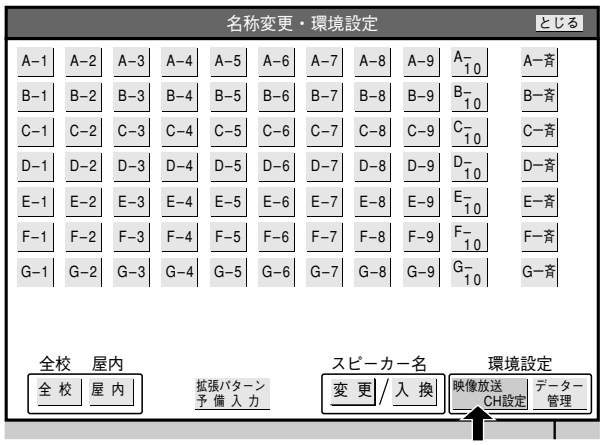
映像放送CH設定の変更のしかた

■映像放送CH設定状態の入りかた

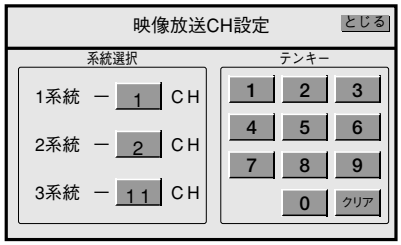
注：本設定では画面に表示されているチャンネルの設定のみを行ないます。実際の放送チャンネルはヘッドエンド側で設定します。

1 スピーカースイッチの名称変更状態の入りかた（94ページ参照）の1～4の手順を行ない「スピーカー名称変更・環境設定」画面を表示さます。

2 ［映像放送CH設定］を押します。



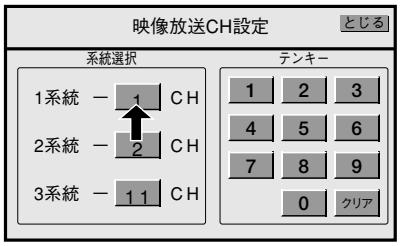
「映像放送CH設定」パネルが表示されます。



■映像放送CH設定・変更

映像放送画面で、「どこへ」欄のch番号（1、2、3と設定されている。）を変えることができます。ヘッドエンドのch番号に合わせるときなどに利用します。

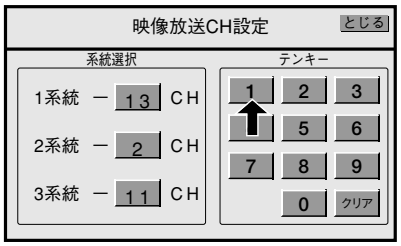
1 1系統ー［ 1］CHを押します。



緑に変わります。

2 テンキーでch番号（2桁）を設定します。

・1桁のch番号は最初の桁を0とします。
（例） 13chに設定するとき。



2桁入力すると入力した番号に画面のCH表示が変わります。

3 2系統ー［ 2］CHを押す。
緑に変わります。

4 テンキーでch番号（2桁）を設定します。（2と同じ）

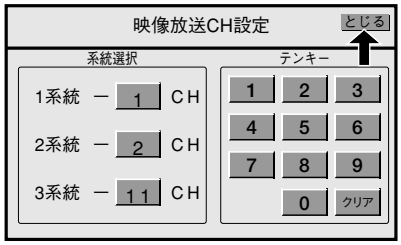
5 3系統ー［ 3］CHを押します。
緑に変わります。

6 テンキーでch番号（2桁）を設定します。（2と同じ）

映像放送CH設定の変更のしかた

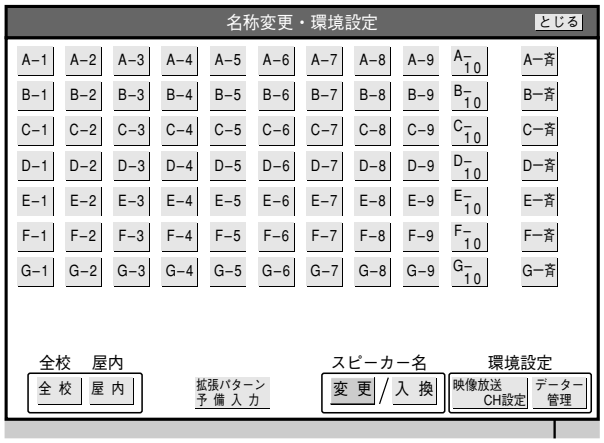
■映像放送CH設定状態の終了のしかた

1 ［とじる］を押します。



「スピーカー名称変更・環境設定」画面に戻ります。

2 「スピーカー名称変更・環境設定」画面の［とじる］を押します。

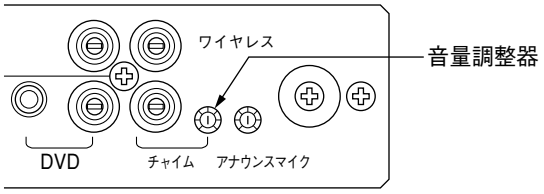


「スピーカー名称変更・環境設定」画面を終了し「音声映像放送」画面に戻ります。

設置時の調整

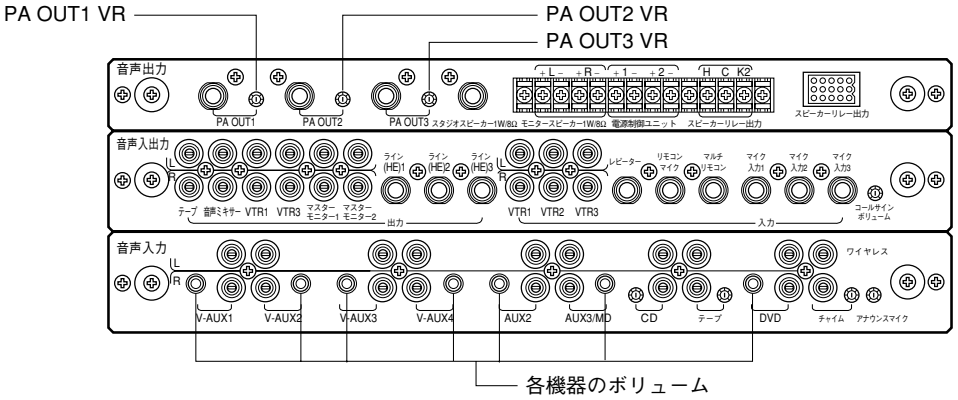
■チャイム放送の音量調整

AVコミュニケーションシステム端子部にある音量調整器で調整してください。（出荷時は定格レベルにセットしてあります。）



■音声入出力の音量プリセット調整

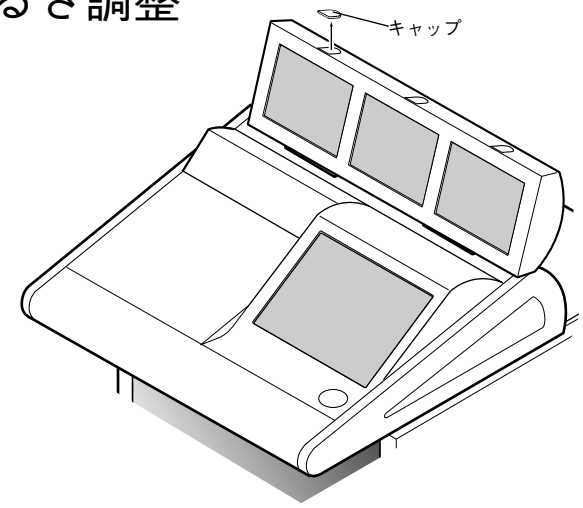
①主電源スイッチを切ります。
②ケーブルカバーをはずします。（15ページ参照）
③主電源スイッチを入れて、システムを立ち上げます。
④操作部の電源スイッチを入れます。
⑤音声放送1系統の［なにを］を押します。
「なにを」選択画面が開きます。
⑥［マイク］を選んで、［とじる］を押します。
⑦同じく1系統の「どこへ」欄で［全校］を選び、放送をONにします。
⑧アナウンスマイクから話して、その音を聞きながらAVコミュニケーションシステム端子部の音声入力にあるPA OUT1 VRをまわし、教室スピーカーへの出力音量を調整します。（3系統のときは、同様にPA OUT2 VR、PA OUT3 VRも調整します。出荷時は定格出力にセットしてあります。）
⑨音声放送１系統の［なにを］を押します。
「なにを」選択画面が開きます。
⑩「音声ミキサー」を選び、スライドボリュームを全て同じレベルにして、各機器の音声レベルをアナウンスマイクと比較します。レベルが合っていない場合は各機器のボリュームを調整します。（図参照）
⑪音声のAUX1～AUX3は、設定を変更して確認します。（106ページ参照）



注：ツマミ付きのボリュームは入力感度調整用です

設置時の調整

■映像モニター1～モニター3の明るさ調整



①映像モニター上部のキャップを外します。
②キャップの下にあるボリュームを回し、明るさを調整します。
③キャップをもとに戻します。

動作の確認

■動作の確認

①各ユニットの動作確認をします。
②下表を参考に映像放送を確認します。
③各種リモコン動作が正しく行なわれるか確認します。
④音声放送を確認します。

	項目	方法	チェック
映像放送	一般映像出力	[放送]をONにしたとき、「なにを」で選択された映像がテレビの画面にそれぞれ映りますか。	
	モニター出力 (モニター1～モニター3、マスターモニター)	各モニターに選択した映像が映りますか。	
	映像ミキサー入出力	＜映像ミキサーを接続した場合＞ ● 電源投入直後の画面右下に、［映像ミキサー］ボタンが表示されますか。 ●「なにを」で映像ミキサーを選択し、A、Bの入力映像を次々に切り換えるとその映像がマスターモニターに表示されますか。（取扱説明書47ページを参照） ＜映像ミキサーを接続しない場合＞ ● 電源投入直後の画面右下の、［映像ミキサー］ボタンは消えていますか。	
	VTR 1、3録画	マスターモニターをVTR1(3)に設定し、VTR1(3)録画選択画面の映像を次々と切り換えたとき、切り換えた映像が録画されますか。	
音声放送	アナウンスマイク放送	「なにを」でアナウンスマイクを選択し、「どこへ」で[全校]を選択して放送したとき、すべての教室のスピーカーから音が聞こえますか。	
	他の音声放送	マイク1～3、テープレコーダーなどを放送したとき、全ての教室のスピーカーから音が聞こえますか。	
	モニター	[モニター]で[ミキサー]を選択し、アナウンスマイクなどの音量を上げたときモニタースピーカーから音が聞こえますか。	
	録音	テープレコーダーを録音状態にして「録音」でミキサーを選択しアナウンスマイクなどの音量を上げたとき、テープレコーダーのVUメーターが振れますか。	
	VTRへのアフレコ(録音)	録画画面でVTR 3の[アフレコ]を選択し、アナウンスマイクなどの音量を上げたとき、VTR3のVUメーターが振れますか。	

動作の確認

■スピーカーリレーの動作
(出荷時は次のように設定されています。)

●リモートマイクロホン（PA-C51／C52）のブロック放送パターン

リモコンマイクの各スピーカー選択スイッチを押すと、表のリレーが動作します。
（PA-C51はブロック1～ブロック5まで。）

スピーカー選択スイッチ	1系統	3系統
ブロック1	A-Gの1　がON	A-Gの1　がON
ブロック2	A-Gの2　がON	A-Gの2　がON
ブロック3	A-Gの3　がON	A-Gの3　がON
ブロック4	A-Gの4　がON	A-Gの4　がON
ブロック5	A-Gの5　がON	A-Gの5　がON
ブロック6	A-Gの6　がON	A-Gの6　がON
ブロック7	A-Gの7　がON	A-Gの7　がON
ブロック8	A-Gの8　がON	A-Gの8　がON
ブロック9	A-Gの9　がON	A-Gの9　がON
ブロック10	A-Gの10　がON	A-Gの10　がON

●マルチリモートマイクロホン（AV-7042）のブロック放送パターン（8台とも共通）

スピーカー選択スイッチ	1系統	3系統
ブロック1	A-Gの1　がON	A-Gの1　がON
ブロック2	A-Gの2　がON	A-Gの2　がON
ブロック3	A-Gの3　がON	A-Gの3　がON
ブロック4	A-Gの4　がON	A-Gの4　がON
ブロック5	A-Gの5　がON	A-Gの5　がON
ブロック6	A-Gの6　がON	A-Gの6　がON
ブロック7	A-Gの7　がON	A-Gの7　がON
ブロック8	A-Gの8　がON	A-Gの8　がON
ブロック9	A-Gの9　がON	A-Gの9　がON
ブロック10	A-Gの10　がON	A-Gの10　がON

●報時チャイムのブロック放送パターン

各チャイムリモコン端子に信号を入力すると、表のリレーが動作します。

チャイムリモコン	1系統	3系統
端子NO1	A-Gの緊急リレーON	A、D、Gの緊急リレーON
端子NO2	動作せず	B、Eの緊急リレーON
端子NO3	動作せず	C、Fの緊急リレーON

●音声放送の「全校」と「校内」のリレー割当

音声放送	1系統	3系統
全校	リレーユニットAB..GのNO.1-10=ON	リレーユニットAB..GのNO.1-10=ON
校内　1ch	リレーユニットAB..GのNO.1-9=ON	リレーユニットAD..GのNO.1-9=ON
2ch	なし	リレーユニットB、EのNO.1-9=ON
3ch	なし	リレーユニットC、FのNO.1-9=ON

●一斉放送（緊急放送）のリレー割当

音声放送	1系統	3系統
一斉	リレーユニットAB..GのNO.1-11=ON	リレーユニットAB..GのNO.1-11=ON

ご注意

上記の割当・設定の変更は本体のオフライン機能で行ないます。詳細は本説明書の84ページ以降を参照してください。

入力設定・変更

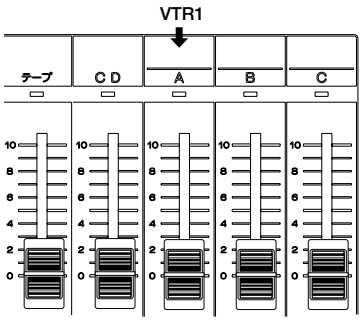
■ラジオ・予備入力・マイクロホンミキサー(レピーター)などを放送、録音するとき（音声ミキサーA、B、Cの入力の設定）

音声ミキサーの音量つまみA、B、Cは、次のように3入力の中から1つを選択することができます。

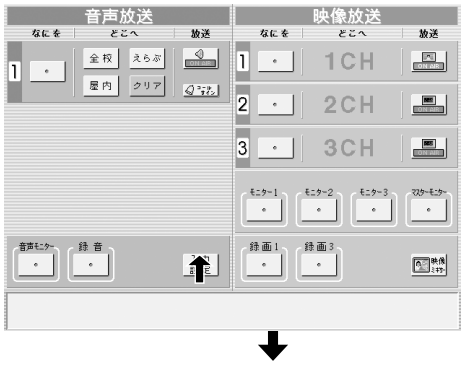
A：VTR1、音声予備1、音声予備3※1の中から1つ選択。
B：VTR2、ワイヤレス、音声予備2※1の中から1つ選択。
C：VTR3、ラジオ、レピーター（マイクロホンミキサー）の中から1つ選択。

※1：予備入力の名称は設定により変わる場合があります。

●（例）入力AをVTR1に設定します。



1 音声放送画面の［入力設定］を押します。



入力設定画面が表示されます。

2 ［VTR1］（選択したいもの）を押します。

［VTR1］（選択したもの）が緑色に変わります。

・B、C入力も変更したい場合は、Aと同様に選択します。

3 ［とじる］を押します。

音声、映像放送画面に戻ります。

ご注意

・この画面を用いて「音声A、B、C設定」を変更して、電源スイッチをOFFにすると、次の電源ONからその内容が反映されます。
音声パターン（登録された内容）により変更された場合は一時的なもので上記の内容は保持されます。
・音声ミキサーA、Bに予備入力1～3を設定して使用する場合は、あらかじめ予備入力レベル調整つまみを回して正常な音量になるように調節してください。このとき、音声ミキサーのつまみA、Bは中央付近に設定してください。

■音声ミキサーの設定

音声ミキサーの音量つまみを個別に有効または無効にできます。無効にすると、該当する音量つまみを操作しても音が出なくなります。

1 音声放送画面の［入力設定］を押します。

⬇

入力設定画面が表示されます。

2 音声ミキサーの動作させたい（動作させない：OFF）入力を押します。

⬇

動作させるもの→緑（ON）に設定。
動作させないもの→白（OFF）に設定。
（ONに設定したものは、パネルの音声ミキサーの表示灯がそれぞれ点灯します。）

3 設定が終わったら［とじる］を押します。

⬇

音声、映像放送画面に戻ります。

■VTR2入力コネクターの切り換え

VTR2は、前面と後面に入力コネクターがあり、画面上で切り換えられます。

1 音声放送画面の［入力設定］を押します。

⬇

入力設定画面が表示されます。

2 ［前面］または［後面］を押します。

3 設定が終了したら［とじる］を押します。

⬇

音声、映像放送画面に戻ります。

音声・映像放送パターン操作の内容変更

■音声・映像放送パターン操作

本機は、あらかじめ放送や、録音、録画の操作を音声・映像37個（標準7個、拡張30個）のスイッチに登録しておき、パターンスイッチを押すと、その内容を呼び出して動作します。出荷時は、標準パターン音声7つ・映像6つのパターンが登録されています。

■内容変更・登録のしかた

新たに登録すると、前に登録されていた状態は消されます。

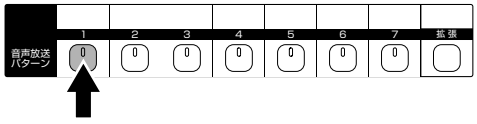
（例）音声放送パターンスイッチ1（個別放送1）「アナウンスマイク」の音を個別指定されたスピーカーに放送する。これを「テープ」の音を「全校」のスピーカーに放送するように変更します。

1 操作パネルの電源スイッチを押します。

⬇

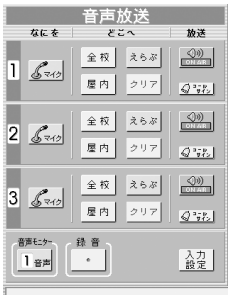
操作モニターに音声、映像放送画面が出ます。

2 音声放送パターンスイッチ1を押します。



⬇

音声放送画面が表示されます。
（ここまではパターン操作と同じです。）

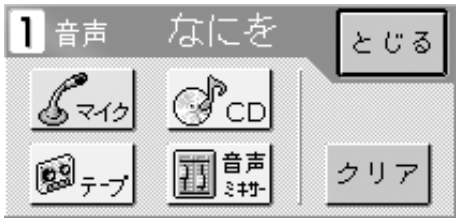


3 必要な変更を行ないます。

ここでは「なにを：アナウンスマイク→テープ」「どこへ：個別→全校」の変更を行ないます。

①［なにを：アナウンスマイク］表示を押します。
（変更したいものを選択します）

［なにを］選択画面が表示されます。



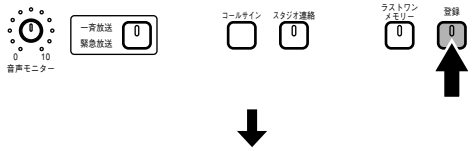
②［テープ］を選択したのち［とじる］を押します。

③［どこへ：全校］を押します。

［全校］が緑色に変わります。

4 パターンスイッチへ登録します。パターンスイッチへは、現在表示されている状態が登録されます。

①登録スイッチを押します。

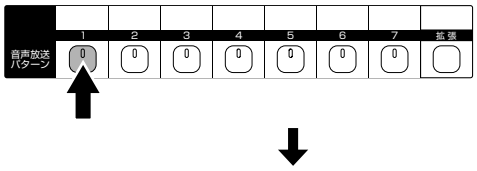


登録スイッチの表示灯が点灯する。

②スタジオ連絡スイッチを押します。

（本来のスタジオ連絡機能は動作しません）

③標準パターンに登録する場合は音声放送パターンスイッチ1（登録したいパターンスイッチ）を押します。



スイッチの表示灯が3秒間点滅します。

④表示灯の点滅中に再び音声放送パターンスイッチ1を押します。
表示灯の点滅が止まり、登録されます。

⑤拡張パターンに登録したい場合は、①、②の操作の後に音声放送パターン拡張スイッチを押します。
音声、映像放送画面の上に30個のスイッチが表示されます。

⑥設定したいパターンスイッチを押します。登録確認のパネルが表示されます。登録するときは[設定]を、取り消すときは[取り消し]を選択します。

5 音声放送でパターンスイッチを押したときに、コールサインを流したい場合。

①登録スイッチを押します。
②スタジオ連絡スイッチを押します。
③コールサインスイッチを押します。(本来のコールサイン機能は動作しません)
④音声放送パターンスイッチ1 (登録したいパターンスイッチ)を押します。スイッチの表示灯3秒間点滅する。
⑤表示灯の点滅中に再び音声放送パターンスイッチ1を押します。表示灯点滅が止まり、登録されます。
⑥拡張パターンに登録したい場合は、以下の通り操作してください。
1. 登録スイッチを押します。
2. スタジオ連絡スイッチを押します。
3. 音声放送パターン拡張スイッチを押します。
音声、映像放送画面の上に30個のスイッチが表示されます。
4. 30個のスイッチの左上部にある[コールサイン]ボタンを押して緑色にします。
5. 設定したいパターンスイッチを押します。登録確認のパネルが表示されます。
登録するときは[設定]を、取り消すときは[取り消し]を選択します。

6 確認するには、操作パネルの電源スイッチを切り、再び電源入りにして、音声放送パターンスイッチ1を押すと、登録した画面が表示されます。

音声・映像放送パターン操作の内容変更

■新規設定登録のしかた

1 音声放送、映像放送、録画について、各項目の説明を参照しながら、必要な設定をしてください。

- 音声放送パターンスイッチへの登録は、操作画面に現在表示されている音声放送の状態が登録されます。
- 映像放送パターンスイッチへの登録は、操作画面に現在表示されている映像放送の状態が登録されます。

2 操作画面設定ができたら、登録したいパターンスイッチについて、前項4、5、6の手順で登録してください。(前に登録されていた状態は消されます。)

ご注意

・映像放送の［なにを］［モニター］［録画］のどこにも［映像ミキサー］が設定されていない場合、映像ミキサー画面の設定内容はパターンスイッチには登録されません。
・パターンの登録内容を変更した場合、取扱説明書の前半部分の内容と動作が変わります。
利用者の方にご確認の上、内容変更を行なってください。また、取扱説明書の最後にある「パターン登録内容記述シート」などを利用し、利用者の方に設定内容・操作方法がわかるようにしてください。

■入力設定内容について

音声・映像放送パターン登録時に、入力設定の音声ミキサーのA、B、C入力の設定を変更して登録した場合は、音声パターンごとにA、B、C入力の設定を変更することができます。またこのパターンスイッチを押すことにより、初期のA、B、C入力設定と変わることがありますので注意してください。

ご注意

・[なにを]、[録音]、[モニター]のいずれかで[音声ミキサー]を選択してある場合に入力設定の[音声ミキサーボリューム有効／無効]と[音声A、B、C]のスイッチの内容が登録されます。
・[録音]で[音声A、B、C]のどれかを選択してある場合には、対応する入力設定[A、B、C]のスイッチの内容が登録されます。

■放送パターンデータのバックアップについて

- 拡張パターンに登録したデータはフロッピーディスクにバックアップすることができます。(P111参照)
- 拡張パターンに空きがある場合は、標準パターンに登録した内容と同じ設定を拡張パターンにも登録しておくことをおすすめします。万一のときには、バックアップデータから再度、標準パターンに登録ができます。

データー管理のしかた

各種データーのバックアップ、復元、初期化を行ないます。

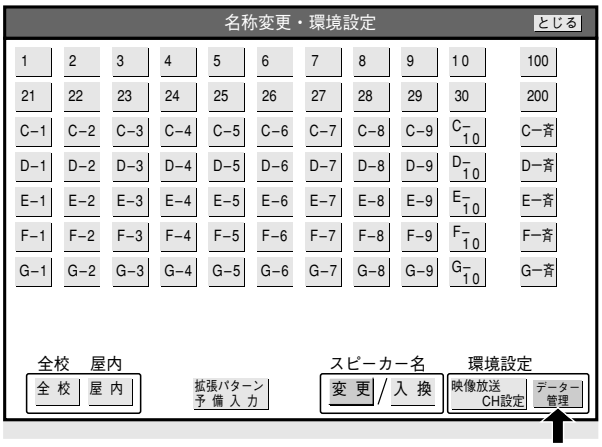
ご注意

キーボードが必要です。キーボードの接続のしかたは、87ページを参照してください。

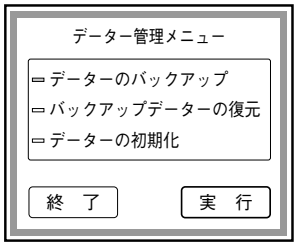
■データー管理メニューの出しかた

1 スピーカースイッチの名称変更状態の入りかた（94ページ参照）の1〜4の手順を行ない、「スピーカー名称変更・環境設定」画面を表示させます。

2 [データー管理]を押します。



「データー管理メニュー」パネルが表示されます。



ご注意

データ管理メニューを表示して操作するときは、説明中に指示されているボタンまたはスイッチ以外操作しないでください（誤動作の原因となります）。

■データーのバックアップ

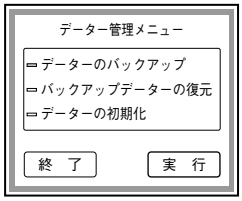
下記のデーターを、フロッピーディスクにバックアップすることができます。

- 音声／映像拡張パターンデーターの設定内容／名称
- スピーカースイッチの名称（全校・屋内含む）
- スピーカースイッチの配置（背景データーを含む）
- 外部入力機器の名称

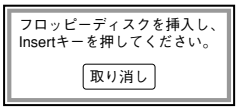
ご注意

- 音声／映像の標準パターンに登録されたデーターは、バックアップできません。
- 3.5インチ2HDタイプのフロッピーディスクが1枚必要です。あらかじめ、ご用意ください。

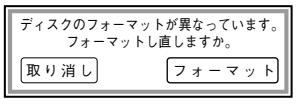
1 「データー管理メニュー」パネルで[データーのバックアップ]を選択して[実行]を押します。



2 ディスク挿入のパネルが表示されるので、フロッピーディスクを挿入します。挿入したら、キーボードの[Insert]を押します。



未フォーマットのフロッピーディスクや、MS-DOSやWindowsでフォーマットされたフロッピーディスクを挿入した場合は、下記のようなパネルが表示されます。

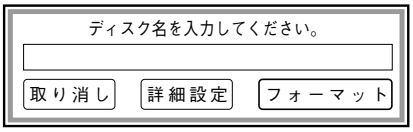


（パネルの表示内容は、ディスクの状態により異なる場合があります。）
フォーマットしてもよい場合は、[フォーマット]を押してください。

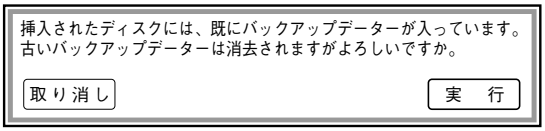
データー管理のしかた

フォーマットしたくない場合は、[取り消し]を押してください。データーのバックアップが中止されます。

[フォーマット]を押した場合は、更に次のようなパネルが表示されます。



キーボードから適当なディスク名を入力し、[フォーマット]を押してください。
[取り消し]を押せば、データーのバックアップを中止します。
また、以前バックアップに使用したことのあるディスクを挿入した場合は、次のようなパネルが表示されます。



古いバックアップデーターを消去してもよい場合は、[実行]を押してください。
消去したくない場合は、[取り消し]を押してください。バックアップを中止します。

3 バックアップが完了すると、メッセージが画面下方に表示されるので、指示にしたがってディスクを取り出します。

4 「スピーカー名称変更・環境設定」画面に戻るので、[とじる]を押します。

「音声放送」画面に戻ります。

ご注意

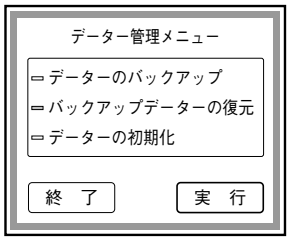
- 本機の文字入力は、ローマ字かな変換方式です。かなを直接入力することはできません。
- 文字は全て全角です。半角は入力できません。
- 文字入力の詳細については、電子マニュアル（115ページ参照）の「システムの使い方：システムの予備知識：文字を入力する」をご覧くだ

■バックアップデーターの復元

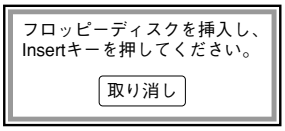
下記のデーターを、フロッピーディスクから復元することができます。

- 音声／映像拡張パターンデーターの設定内容／名称
- スピーカースイッチの名称（全校・屋内含む）
- スピーカースイッチの配置（背景データーを含む）
- 外部入力機器の名称

1 「データー管理メニュー」パネルで[バックアップデーターの復元]を選択して[実行]を押します。



2 ディスク挿入のパネルが表示されるので、バックアップデーターの入ったフロッピーディスクを挿入し、キーボードの[Insert]を押します。



未フォーマットのフロッピーディスクや、MS-DOSやWindowsでフォーマットされたフロッピーディスクを挿入した場合は、フォーマット確認のパネルが表示されますので[取り消し]を押してパネルを一度閉じ、ディスクを確認してもう一度手順1から操作をやり直してください。

3 復元が完了すると、メッセージが画面下方に表示されるので、指示にしたがってディスクを取り出します。

4 画面の指示にしたがい、主電源スイッチを切ってください。

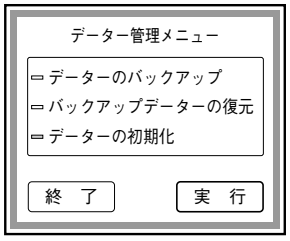
■データーの初期化

下記のデーターを、工場出荷状態に戻します。
・音声／映像拡張パターンデーターの設定内容／名称
・音声／映像拡張パターンデーターの一部（残りのデーターは、制御部の初期化で初期化されます。）
・スピーカースイッチの名称（全校・屋内含む）
・スピーカースイッチの配置（背景データーを含む）
・外部入力機器の名称
・ラストワンメモリーの設定内容

ご注意

・データーの初期化を行なうと、変更していた各種データーは消去されます。
消去されたデーターを復元する必要がある場合は、必ず事前にバックアップを行なってください。音声・映像標準パターンデーター及びラストワンメモリーは、バックアップを行なっても復元できませんのでご注意ください。
・本初期化の操作を行なった後は、必ず制御部の初期化(P83参照)を行なってください。いずれか片方だけの初期化しか行なわれていないと、一部のデーターが初期化されない場合があります。

1 「データー管理メニュー」パネルで[データーの初期化]を選択して[実行]を押します。



2 確認のためパネルが表示されます。
内容を確認し、初期化してもよければ、[初期化]を押します。[取り消し]を押すと初期化操作を中止できます。

3 データーの初期化完了後は、引き続き制御部の初期化を行なう必要があります。
画面に初期化完了のパネルが表示されたら主電源スイッチを切り、約5秒待って入れ直してください。起動後、引き続き制御部の初期化を行なってください。
・制御部の初期化の手順は、83ページの「制御部の初期化」を参照してください。

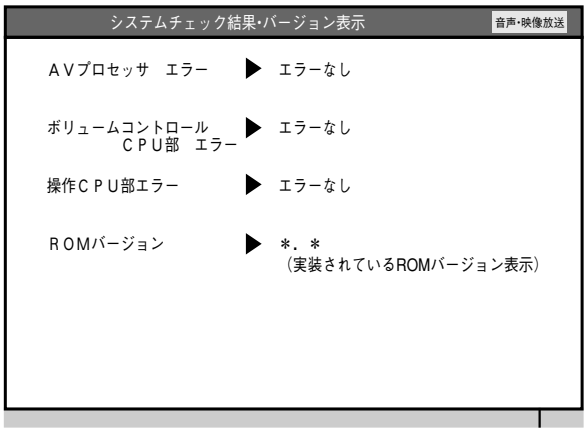
故障の自己診断機能

故障と思われる場合には、次の手順で自己診断を行なってください。

操作パネル電源スイッチOFF状態で、
①登録スイッチを押す。
②スタジオ連絡スイッチを押す。
③電源スイッチを押す。

操作モニターに次の画面が表示されます。エラーが表示された場合、症状とエラー内容を販売店にご連絡ください。

● “EEPROM書換回数＝1＊＊＊＊＊”というメッセージが表示されたら、ROMの書換寿命が近づいています。交換を依頼してください。寿命がくると、パターン設定の内容登録が消える場合があります。



[音声・映像放送]を押すと、音声標準パターン・映像標準パターンが一時的に初期化された状態でシステムが立ち上がります。登録した標準パターンの内容は一時無効となりますので、通常は使用しないでください。
電源を入れ直すと、登録されたパターン設定の内容に戻ります。

④表示内容を確認したら、再び電源スイッチを押して、電源を切ります。

なお、一斉放送スイッチを押しながら主電源スイッチを入れると、操作部の自己診断ができます。
表示灯の付いたボタンを押すと、押している間だけ表示灯が点灯します。
音声ミキサー音量つまみは、中央よりに上げると上部表示灯が点灯します。
確認が終わったら、主電源スイッチを切ってください。電源を再投入する場合は、電源OFF後5秒程待ってからONしてください。

ご注意

自己診断機能の実行中は、上記③、④に記述されている操作以外は行なわないでください。音声／映像放送パターンスイッチを押したり、電源スイッチをあやまって押した場合、誤動作を起こす場合があります。

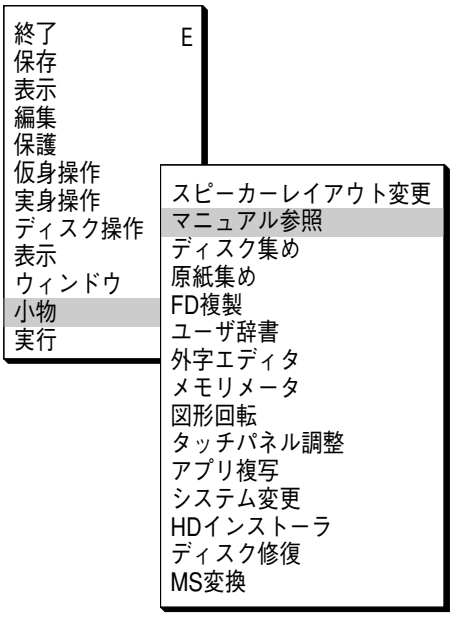
電子マニュアルの使いかた

■電子マニュアルの使いかた

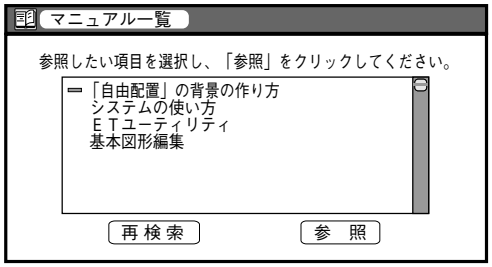
本機には、図形の編集等に関する電子化されたマニュアルが入っています。
ここでは、この電子マニュアルの使いかたについて説明します。
電子マニュアルは、マウスでの操作を前提としていますので、マウスを接続してからお使いください。
（マウスの接続については、P87を参照してください。）

●電子マニュアルを起動する

①AVコミュニケーションシステムの主電源を入れます。システムが起動すると、操作モニター画面表示がいったん消えます。消えたことを確認してから、操作パネルの電源を入れてください。
②マウスの右ボタンをクリックする(押してすぐに放す)とメニューが表示されますので、[小物]の項目までカーソルを移動します。[小物]メニューの子メニューが表示されますので、[マニュアル参照]の項目までカーソルを移動させ、[マニュアル参照]が反転表示されたことを確認してから、左ボタンをクリックします。(親メニュー・子メニューの内容は、システムの状態によって変わります。)



③[マニュアル一覧]のウィンドウが開きますので、参照したい項目にカーソルを移動させ、マウスの左ボタンをクリックします。表示灯が表示されます。



([マニュアル一覧]ウィンドウの内容はシステムの状態により変化しますので、この図の通り表示されない場合があります。)

④[参照]上でマウスの左ボタンをクリックすると、選んだ項目のマニュアルが表示されます。
⑤マニュアル表示をやめたい場合は、ウィンドウ左上の<📖>にマウスを移動させ、左ボタンを素早く2回クリックしてください。ウィンドウが閉じます。

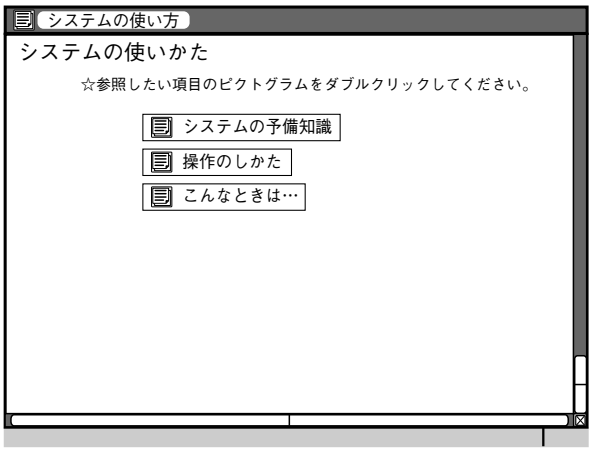
ご注意

小物メニュー中の「タッチパネル調整」「アプリ複写」「システム変更」「HDインストーラ」「ディスク修復」「MS変換」は、弊社が保守用に使用するためのツールです。あやまって操作するとシステムに重大な支障を来す恐れがありますので、ご使用にならないでください。
なお、上記以外の小物については、本書または電子マニュアルに使用方法・説明がありますので、必要に応じて参照してください。

電子マニュアルの使いかた

●電子マニュアルのウィンドウ

[マニュアル一覧]の[参照]スイッチをクリックした直後のウィンドウは、次のように簡単な文章と仮身(短冊型の図形)が表示されています。



それぞれの仮身は、製本されたマニュアルの「章」や「節」に対応します。

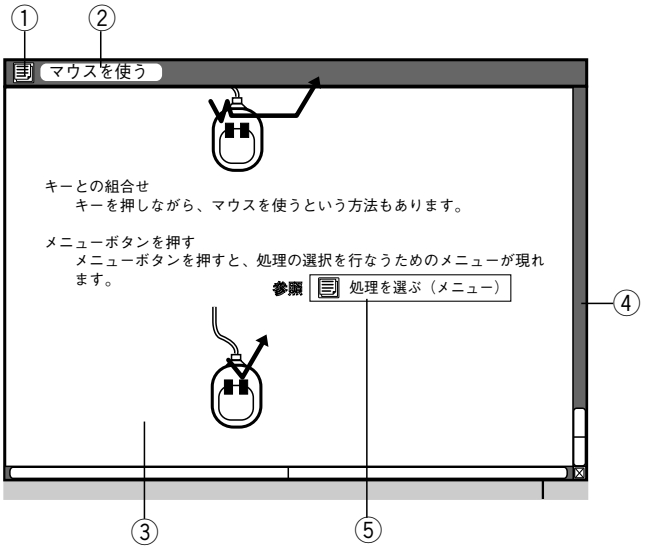
仮身の「 」(この絵のことを「ピクトグラム」と言います)の位置にマウスを移動させ、左ボタンを2回素早くクリック(この操作のことを「ダブルクリック」と言います)すると、その仮身の名前に対応したウィンドウが新たに開き、内容が表示されます。

つまり、「章」や「節」の内容を見たいときは、
①見たい仮身のピクトグラムにマウスを移動させ、
②マウスの左ボタンをダブルクリックする
という操作を行なえば良いことになります。

「章」の仮身を開くと、その中には更に「節」の仮身が入っている場合があります。このようにしてウィンドウをダブルクリックで次々と開いて行くことで、目的の機能を説明した文章までたどり着くことができます。

●ウィンドウの操作

電子マニュアルのウィンドウ各部の名称と機能を以下に示します。



①(ウィンドウの)ピクトグラム：
このピクトグラムをダブルクリックすると、ウィンドウを閉じることができます。ウィンドウが閉じられると、開かれる前の状態に戻ります。

②ウィンドウタイトル：
ウィンドウを開く元となった仮身の名称が表示されます(内容を変更することはできません)。

③ウィンドウ表示領域：
マニュアルの内容が表示される領域です。⑤で説明する「仮身」を除き、この領域内に表示されている内容は操作できません。

④スクロールバー：

この例のように一画面に収まりきらない内容が表示されたとき、見えない部分を表示させる(スクロールさせる)ときに操作します。スクロールの操作には、次の3種類があります。

1. スムーススクロール
   スクロールバーの灰色の部分にマウスを移動させ、左ボタンを押したままにします。
   押している間、その方向へ徐々にスクロールされます。
2. エリアスクロール
   スクロールバーの灰色の部分をダブルクリックします。
   一画面弱の領域が、まとまってスクロールされます。
3. ジャンプスクロール
   スクロールバーの[ノブ](白い部分)にマウスを移動させると、手の形が＜ ＞に変わります。この状態でマウスの左ボタンを押したままにすると、手の形が更に＜ ＞へ変わりますので、そのままマウスを上や下の方向に動かします。ボタンを放すと、その位置にノブが移動し、ノブの位置に対応した場所にスクロールされます。

⑤仮身

前で説明した「章」や「節」に該当する仮身のほか、参照すべき内容が仮身として表示される場合があります。いずれの仮身も、ピクトグラムをダブルクリックするとウィンドウに開くことができます。

メモ

「システムの使い方」の中の「システムの予備知識」の中の「実身と仮身」などで、仮身の説明を行うために仮身の「絵」を表示している個所があります。これはあくまで絵ですので、ウィンドウに開くことはできません。

設定記録シート

1. 音声放送パターン

音声放送パターン設定 / 音声放送パターン名称	入力設定												出力設定		
	プリセット			音声ミキサー									放送			録音	モニター
	アナウンスマイク	カセットテープ	CD	アナウンスマイク	マイク1	マイク2	マイク3	カセットテープ	CD	A	B	C	系統1	系統2	系統3		
(1)																	
(2)																	
(3)																	
(4)																	
(5)																	
(6)																	
(7)																	

A : VTR1、音声予備1、音声予備3　B : VTR2、ワイヤレス、音声予備2
C : VTR3、ラジオ、マイクロホンミキサー（レピーター）

2. 映像放送パターン

映像放送パターン設定 / 映像放送パターン名称	入力設定											出力設定								
	カメラ					VTR			DVD	ミキサー		放送			録画		モニター			
	カメラ1	カメラ2	カメラ3	カメラ4	書画カメラ（OHC）	VTR1	VTR2	VTR3		A	B	系統1へ	系統2へ	系統3へ	VTR1へ	VTR3へ	モニター1へ	モニター2へ	モニター3へ	マスターモニターへ
(1)																				
(2)																				
(3)																				
(4)																				
(5)																				
(6)																				
(7)																				

3. 音声放送パターンと放送先

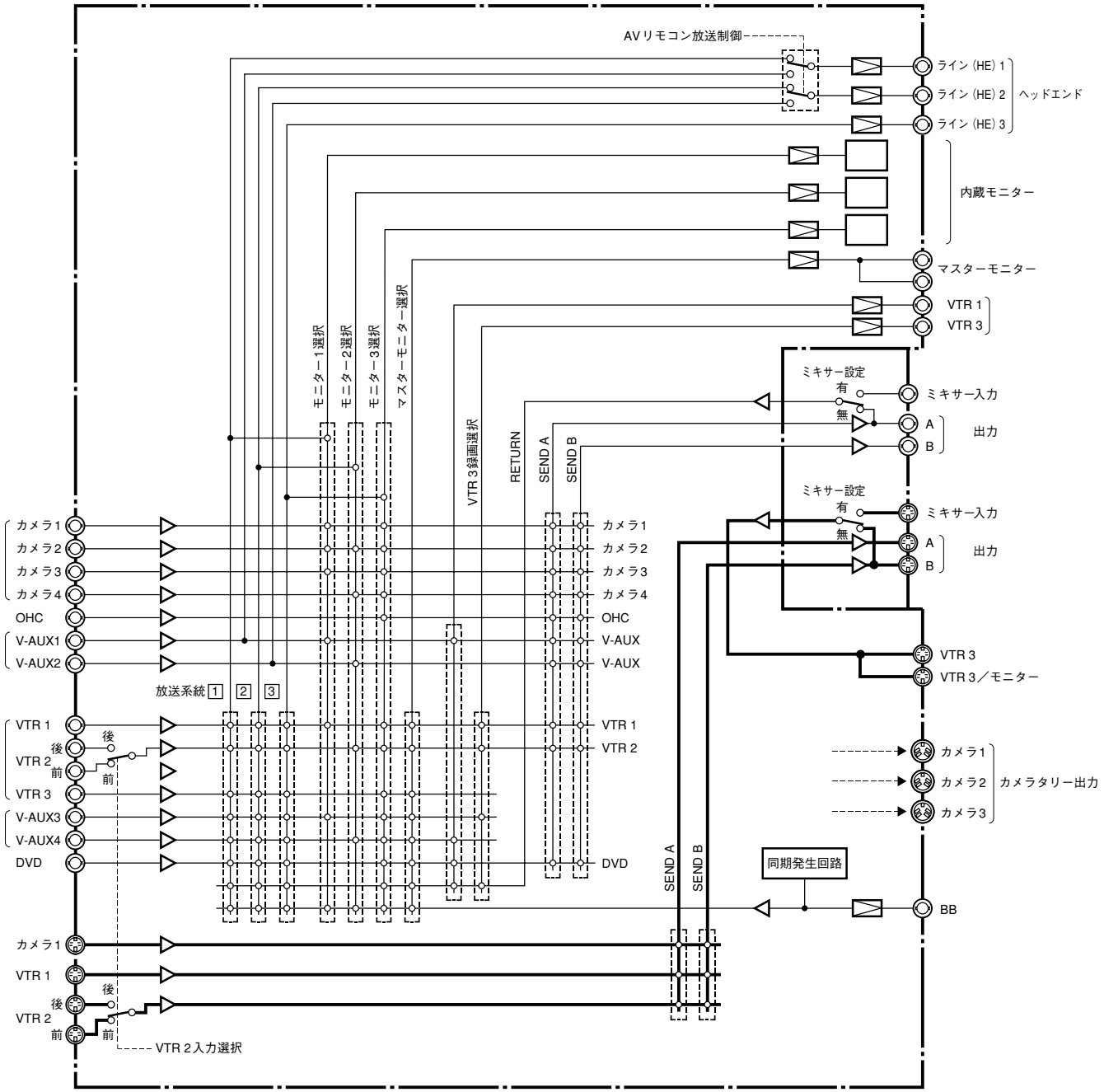
どこへ / リレー名称	A										B										C									
スピーカーNo / 放送先	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
なにを 音声放送パターン名称																														
(1)																														
(2)																														
(3)																														
(4)																														
(5)																														
(6)																														
(7)																														

4. リモコン放送と放送先

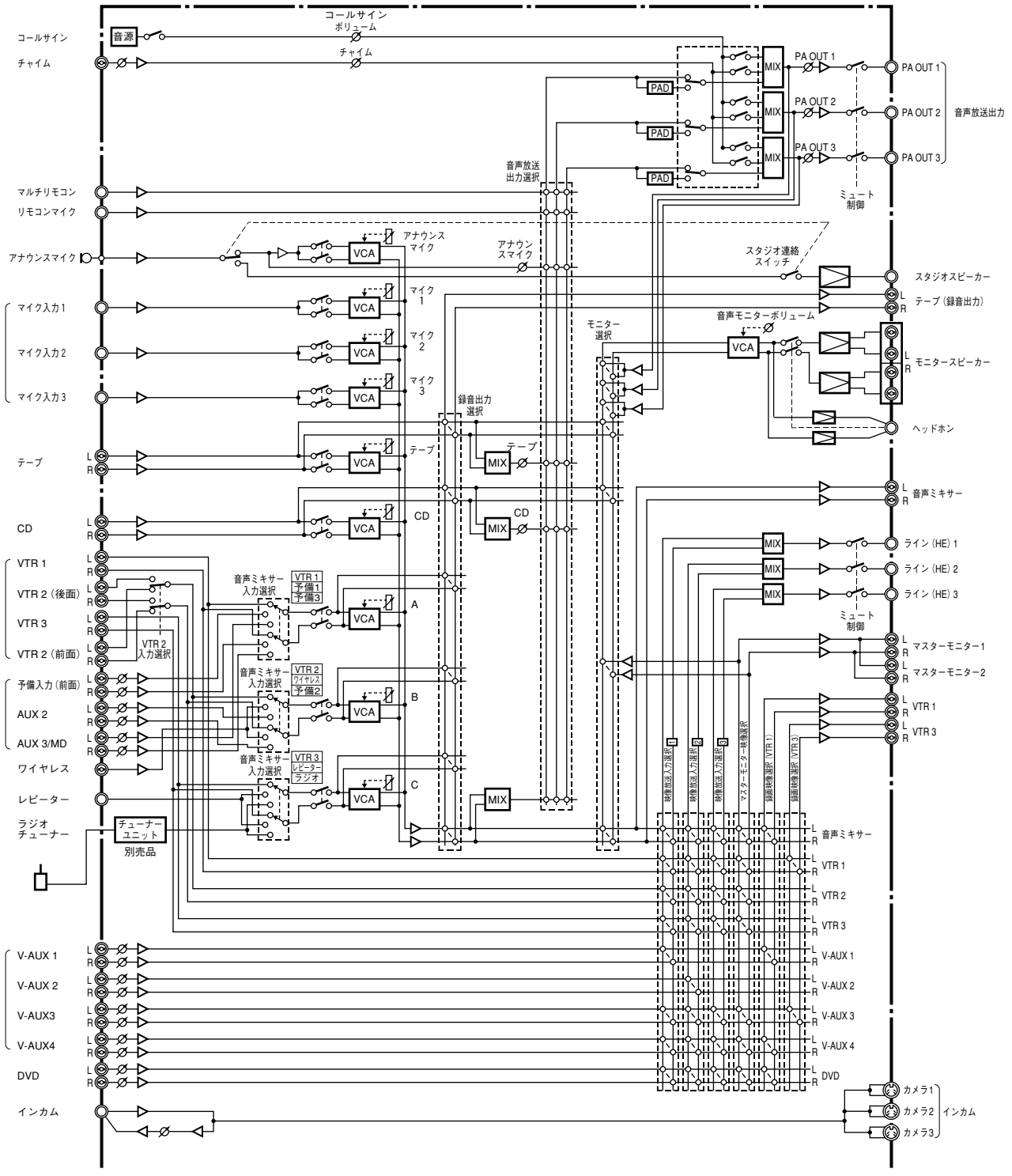
どこへ / リレー名称	A										B										C									
スピーカーNo / 放送先	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
なにを リモコンブロック名称																														
(1)																														
(2)																														
(3)																														
(4)																														
(5)																														
(6)																														
(7)																														
(8)																														
(9)																														
(10)																														

系統図

■映像系統図


AVリモコン放送制御
ライン (HE) 1
ライン (HE) 2
ライン (HE) 3
ヘッドエンド
内蔵モニター
マスターモニター
VTR 1
VTR 3
ミキサー設定
有
無
ミキサー入力
A
B
出力
モニター1選択
モニター2選択
モニター3選択
マスターモニター選択
VTR 3 録画選択
RETURN
SEND A
SEND B
カメラ1
カメラ2
カメラ3
カメラ4
OHC
V-AUX1
V-AUX2
V-AUX
放送系統 1 2 3
VTR 1
後
VTR 2
前
VTR 3
V-AUX3
V-AUX4
DVD
VTR 3／モニター
カメラ1
カメラ2
カメラ3
カメラタリー出力
同期発生回路
BB
VTR 2入力選択

■音声系統図


コールサイン
チャイム
音源
コールサイン ボリューム
チャイム
PA OUT 1
PA OUT 2
PA OUT 3
MIX
PAD
音声放送出力
音声放送 出力選択
ミュート 制御
マルチリモコン
リモコンマイク
アナウンスマイク
VCA
アナウンス マイク
スタジオ連絡 スイッチ
スタジオスピーカー
テープ（録音出力）
マイク入力1
マイク入力2
マイク入力3
マイク 1
マイク 2
マイク 3
音声モニターボリューム
モニター 選択
モニタースピーカー
ヘッドホン
録音出力 選択
テープ
CD
音声ミキサー
ライン（HE）1
ライン（HE）2
ライン（HE）3
VTR 1
VTR 2（後面）
VTR 3
VTR 2（前面）
予備入力（前面）
AUX 2
AUX 3/MD
ワイヤレス
レピーター
ラジオ チューナー
音声ミキサー 入力選択
VTR 1
予備1
予備3
VTR 2 入力選択
VTR 2 ワイヤレス
予備2
VTR 3 レピーター ラジオ
A
B
C
チューナー ユニット
別売品
マスターモニター1
マスターモニター2
V-AUX 1
V-AUX 2
V-AUX3
V-AUX4
DVD
インカム
カメラ1
カメラ2
カメラ3

故障と思う前に

故障かなと思ったら...　修理を依頼する前にお確かめください。

■音声系

症状	確認内容	対応方法
モニタースピーカー、スタジオスピーカーからの音が聞こえない	ハイインピーダンスライン用のスピーカーを接続していませんか？	ローインピーダンススピーカー（6 Ω以上）を接続してください。
リモートマイクロホン(リモコンマイク)からAV調整卓を起動できない	AV調整卓の主電源はオンになっていますか？	主電源オンにしてください。
	制御パネルのディップスイッチ設定はしましたか？	30ページ参照してください。
	「十24 V」出力端子に十24 Vでていますか？	制御基板内部の十24 V系の保護用ヒューズが切れている可能性があります。 →次ページ参照して交換していただくか、ビクターサービスにご連絡ください。
マルチリモートマイクロホン(マルチリモコンマイク)からAV調整卓を起動できない	AV調整卓の主電源はオンになっていますか？	主電源オンにしてください。
	接続台数に応じて、制御パネルのディップスイッチ設定はしましたか？	30ページ参照してください。
	マルチリモートマイクロホン(マルチリモコンマイク)底面のアドレス設定は正しいですか？	46ページ、およびマルチリモートマイクロホンの取扱説明書を参照してください。
報時チャイム（タイマー）からAV調整卓を起動できない	AV調整卓の主電源はオンになっていますか？	主電源オンにしてください。
	リモコンマイクの「十24 V」出力端子に、十24 Vでていますか？	制御基板内部の十24 V系の保護用ヒューズが切れていると、起動回路が動作しません。 →次ページ参照して交換していただくか、ビクターサービスにご連絡ください。
報時チャイムが2系統、3系統に放送できない	DINコネクターの配線で、チャイム2、3の結線をしましたか？	42ページ参照してください。
報時チャイムのチャイム音の頭が聞こえない	AV-7100の起動に約5秒かかります。 PA-DT600を使用している場合は、「チャイム連動時間設定」を「10秒」に設定してください。	プログラムを追加してください。

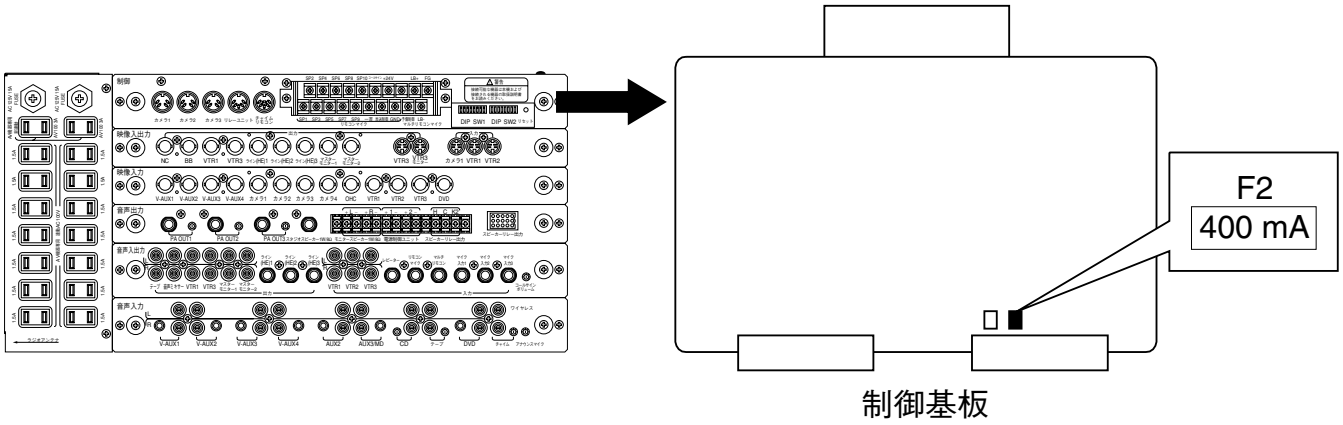
■映像系

症状	確認内容	対応方法
VTR1, VTR2、カメラ1の映像がモニター、およびマスターモニターに映らない	S端子のみ接続していませんか？ BNCの入力端子にも接続しましたか？	BNC入力端子も接続してください。
VTR2の映像が映らない	「入力設定」の「前面／後面設定」は正しいですか？	使用する端子に設定をしてください。106ページ参照してください。
AV調整卓のインターカム用ヘッドセットの音声が不安定	ヘッドセットのプラグを付属の複式フォンプラグに付け換えましたか？	プラグを取り換えてください。 39ページ参照してください。
RCU側のインターカムヘッドセットでAV調整卓側のインターカム音声が聞こえない	インカムH、Lを通常にそれぞれ接続していませんか？	39ページのように接続してください。
カメラのタリーが点灯しない	リモートコントロールユニット（RCU）の設定は「接点供給方式」になっていますか？ 「電源供給方式」には対応していません	「接点供給方式」にしてください。
映像ミキサー使用時、DVDプレーヤーの音声が聞こえない	DVDプレーヤーの音声出力を、AUX2（音声予備2）またはAUX3（音声予備3）に並列接続しましたか？	AUX2またはAUX3に並列接続してください。 37ページ参照してください。

●リモコンマイク「十24 V」電源のヒューズ交換方法

AV-7100端子部の制御基板（下図参照）にヒューズ（400 mA）が半田付けされています。
制御基板を取り外して、テスターなどで確認してください。（外見では確認できません）
導通がないようでしたら下記部品を入手して交換してください。

サービスパーツ品番：NMFZ017-R40X-S （メーカー：S．O．C（株）品番：SSFC400MAR12A4）



おもな仕様

AVコミュニケーションシステム　AV-7100

AV-7100の取扱説明書をご参照ください。

ラジオチューナーユニット AV-7010

AV-7100の取扱説明書をご参照ください。

端子盤ユニット AV-7020

端子数……120端子（80回線）
外形寸法……480 mm（W）×132 mm（H）×275 mm（D）
質量……約4 kg
仕上げ……マンセル5Y7.5/1 アルファ塗装

リレーユニット AV-7030

電源……AC 100 V 50 Hz/60 Hz
消費電力……8 W
出力数……10回線十一斉
最大許容出力 …1回線120 W　合計最大360 W
外部制御…… AV-7000から制御
外形寸法……420 mm（W）×44 mm（H）×225 mm（D）
質量……3.3 kg
仕上げ……AVアイボリー色塗装
（マンセル7.9Y6.8/0.8近似色）

10回線スピーカー切換器 AV-7031

電源……AC 100 V 50 Hz/60 Hz
またはDC 24 V
消費電力……11 W
消費電流……最大 270 mA（DC 24 V使用時）
制御回線……通常（業務）放送：10回線
非常放送：10回線
スピーカー
制御入力……10回線
無電圧メイク・トランジスタ入力、開放電圧 DC 24 V、
短絡電流1 mA/1回線
外部制御入力 …EMG 24 Vブレイク（RB制御）
耐電圧 DC 30 V、入力電流 8 mA
RU十（非常用放送設備からの制御）
トランジスタ入力、耐電圧 DC 30 V、
入力電流 3 mA
ラック起動（調整卓からの制御）
DC入力時：耐電圧 DC 30V、入力電流 2 mA
無電圧メイク入力時：トランジスタ入力、
開放電圧 DC 30 V、短絡電流 1 mA
外部制御出力 …… 優先表示
オープンコレクタ出力
制御容量 最大 DC 30 V 50 mA
スピーカー入力 …調整卓1系統（10回線×1）
非常系統10回線
スピーカー出力 …非常系統10回線
外形寸法 ……480 mm（W）×177 mm（H）×285
mm（D）
質量 ……約4.6 kg
仕上げ ……パネル：AVアイボリー塗装鋼板
（マンセル7.9Y6.8/0.8近似色）

■本機の仕様および外観は改善のため予告なく変更することがあります。

30回線スピーカー切換器 AV-7032

電源……AC 100 V 50 Hz/60 Hz
またはDC 24 V
消費電力……30 W
消費電流……最大 850 mA（DC 24 V使用時）
制御回線……通常（業務）放送：30回線
非常放送：30回線
音声入力……調整卓用：3系統
非常用放送設備用：1系統
音声出力……3系統
スピーカー
制御入力……30回線
無電圧メイク・トランジスタ入力、開放電圧 DC 24 V、
短絡電流1 mA/1回線
外部制御入力 ……EMG 24 Vブレイク（RB制御）
耐電圧 DC 30 V、入力電流 20 mA
RU＋（非常用放送設備からの制御）
トランジスタ入力、耐電圧 DC 30 V、
入力電流 3 mA
チャイム優先
無電圧メイク・トランジスタ入力、
開放電圧 DC 30 V、短絡電流5 mA
ラック起動（調整卓からの制御）
DC入力時：耐電圧 DC 30V、入力電流 3 mA
無電圧メイク入力時：トランジスタ入力、
開放電圧 DC 30 V、短絡電流 1 mA
外部制御出力 ……PWR OUT
（パワーアンプ電源制御）
オープンコレクタ出力、
制御容量 最大 DC 30 V 50 mA
優先表示1, 2, 3
オープンコレクタ出力、
制御容量 最大 DC 30 V 50 mA
スピーカー入力 …調整卓3系統（10回線×3）
非常系統30回線
スピーカー出力 …30回線
外形寸法 ……480 mm（W）×177 mm（H）×268 mm（D）
質量 ……約5.8 kg
仕上げ ……パネル：AVアイボリー塗装鋼板
（マンセル7.9Y6.8/0.8近似色）

マルチリモートマイクロホン AV-7042

AV-7042の取扱説明書をご参照ください。

サイドデスク AV-7050

ラックマウント…13 U
外形寸法……578 mm（W）×700 mm（H）×693 mm（D）
質量……約27 kg
仕上げ……天板：OAアイボリー色メラミン化粧版貼付 （マンセル8.0Y7.8/0.8近似色）
卓本体：OAアイボリー色塗装 （マンセル8.0Y7.8/0.8近似色）

棚板ユニット AV-7051

外形寸法……506 mm（W）×15 mm（H）×498 mm（D）
質量……約5.5 kg
仕上げ……OAアイボリー色シート紙貼付 （マンセル8.0Y7.8/0.8近似色）

ドアユニット AV-7052

外形寸法……505 mm（W）×641 mm（H）×5 mm（D）
質量……約2 kg
仕上げ……アクリル （グレースモーク）

保証とアフターサービス（必ずお読みください）

保証書の記載内容ご確認と保存について

この商品には保証書を別途添付してあります。保証書はお買い上げ販売店でお渡ししますので、所定事項の記入及び記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。

●保証期間について

保証期間はお買い上げ日より1年間です。
保証書の記載内容によりお買上げ販売店が修理いたします。なお、修理保証以外の補償はいたしかねます。
故障その他による営業上の機会損失は補償致しません。
その他詳細は保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理について

保証期間経過後の修理については、お買上げ販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

●アフターサービスについてのお問い合わせ先

アフターサービスについてご不明の点は、お買上げ販売店又は別紙ビクターサービス窓口案内をご覧のうえ、最寄りのビクターサービス窓口にご相談ください。

修理を依頼されるときは

調子が悪いときは、この取扱説明書をもう一度ご覧になってお調べください。簡単な調整で直ることがあります。それでも具合が悪いときは、お買上げ販売店またはビクターサービス窓口にご相談ください。

- **品名： AVコミュニケーションシステム**
- **品番： AV-7100**
- **故障の状態をできるだけ詳しく**
- **ご購入年月日**
- **ご住所、ご氏名、電話番号**

商品廃棄について

この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例にしたがって適切に処理してください。

お客様ご相談センター

フリーダイヤル 0120–2828–17

携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は
電話 (045) 450-8950［代表］
FAX (045) 450-2275
〒221-8528　横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ビクターホームページ http://www.victor.co.jp/

日本ビクター株式会社

〒192-8620　東京都八王子市石川町2969-2　　電話 (042) 660-7203

© 2007 Victor Company of Japan, Limited

LST0422-001B
3TR004519BAA